

2016年度

青山学院大学  
FD活動報告書



青山学院大学全学FD委員会

## 青山学院教育方針

青山学院の教育は  
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、  
神の前に真実に生き  
真理を謙虚に追求し  
愛と奉仕の精神をもって  
すべての人と社会とに対する責任を  
進んで果たす人間の形成を目的とする。

## 青山学院 スクール・モットー

地の塩、世の光  
The Salt of the Earth, The Light of the World  
(聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

## 青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、  
神と人にとりて社会に貢献する  
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。  
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって  
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。  
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。  
本学すべての教員、職員、学生は、  
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、  
おのおのの立場において、  
時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

## 2016年度 青山学院大学 FD活動報告書 目次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 1. はじめに .....                   | 1  |
| 2. 本年度活動一覧 .....                | 2  |
| 3. 新任教職員研修会 .....               | 5  |
| 4. 授業改善のための学生アンケート .....        | 21 |
| 5. 学生FDスタッフの活動 .....            | 29 |
| 6. 教育改善支援制度 .....               | 33 |
| 7. 学生意識調査 .....                 | 47 |
| 8. FD講演会 .....                  | 51 |
| 9. Happyくらす作品コンクール .....        | 63 |
| 10. その他のFD活動 .....              | 71 |
| 11. 諸規則 .....                   | 84 |
| 12. FD推進委員会及び全学FD委員会 委員一覧 ..... | 88 |

# 1. はじめに

全学FD委員会委員長  
副学長 田中 正郎

本学のFD (Faculty Development) 活動は、2003年度から全学的な授業改善のための学生アンケートがはじまり、2005年度からFDプロジェクトチームが活動を開始しました。そして、2008年10月からFD推進委員会、2009年4月から全学FD委員会が活動を開始しました。また、全学FD委員会の守備範囲はFDにとどまらずSD (Staff Development) まで広がってきました。

本学のFD活動は、次のような点を重視して進められてきました。第1に、大学を構成する教員、職員、学生、社会の4者が協力して、組織的に教育の改善を行うこと、第2に、学生にとって、また教職員にとって「個々が安心して教育目標に向かって取り組むことのできる環境作り」を実現すること、そして第3に、FD、SD相互のバランスをとりながら、教職員が協力して教育力の向上に努めることです。

FD活動は、「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組み」といわれます。その内容は多岐にわたり、現状ではより幅広い活動へと展開してきました。そこで組織の強化がはかられ、2013年4月に教育支援課が発足し、FD活動の推進を支える体制が整えられました。本学のFD活動も、教員の個人的な授業改善にとどまらず、組織的な授業改善や教育支援活動が展開されはじめています。

2016年度は、SD研修会の企画運営を政策・企画課と連携できるようにしました。また、授業改善のための学生アンケートのWeb入力をスタートさせました。2010年度からはじめました学生意識調査の見直しをしています。これら以外のさまざまな取り組みを通じて授業改善に取り組んできました。

個々の教員による教育改善の蓄積は、潜在的にたいへん大きなものがあります。しかし、これらの豊富な教育資源は、目に見えないままであり、個人に固着しており継承することが難しいという現状があります。これらの豊富な資源を可視化するとともに、情報システムを活用することで、組織全体が共有する財産とすることが求められています。学生達の夢や希望を大切にして、教員と職員が協働しながら、より豊かな、質の高い教育の実現をめざしてゆきたいと思います。



## 2. 本年度活動一覧

### ○ 2016年度 月別活動一覧

|     | 委員会開催                                     | 新任<br>教職員<br>研修会 | 教育改善支援制度   | 学生意識調査   | 授業改善のための<br>学生アンケート        |
|-----|---|------------------|--|--|----------------------------|
| 4月  |   | 4月2日<br>第1回開催    | (2015年度外部評価委員会全体<br>講評の発表)<br>3月14日 公募開始<br>4月22日 公募締切                               | (3月29日)～4月5日<br>学生意識調査(1・2年生)・<br>キャリアアプローチ(3年生)<br>調査実施 | 4月1日<br>(2015年度後期結果<br>公開) |
| 5月  | 5月18日<br>①FD推進委員会<br>①全学FD委員会             |                  | 外部評価委員事前審査<br>5月9日<br>第1回外部評価委員全体会(審<br>査・配分額決定)<br>5月23日<br>採択プログラム決定<br>各プログラム活動開始 | 5月9日～13日<br>1～3年生対象フォローアップ<br>講座                         |                            |
| 6月  | 6月29日<br>②FD推進委員会<br>(②全学FD委員会<br>→FD講演会) |                  |  |  |                            |
| 7月  | 7月13日<br>③FD推進委員会                         |                  |  | 7月5日～27日<br>結果報告会(各学部)<br>7月14日<br>事務職員対象結果報告会           | 7月4日～23日<br>前期アンケート実施      |
| 8月  |   |                  |  |  |                            |
| 9月  | 9月21日<br>④FD推進委員会<br>③全学FD委員会             | 9月14日<br>第2回開催   |  | 9月15日～24日<br>4年生調査(9月卒業生)<br>9月28日<br>結果報告会(大学執行部)       | 9月16日<br>前期結果公開            |
| 10月 | 10月26日<br>⑤FD推進委員会<br>④全学FD委員会            |                  |  | 10月26日<br>「学生意識調査」公開プレゼ<br>ンテーション                        |                            |
| 11月 | 11月16日<br>⑥FD推進委員会                        |                  |  |  |                            |
| 12月 | 12月14日<br>⑦FD推進委員会<br>⑤全学FD委員会            |                  |  | 12月1日<br>4年生調査(全4年生)開始<br>(～3月25日)                       |                            |
| 1月  | 1月25日<br>⑧FD推進委員会                         |                  |  |  | 1月6日～24日<br>後期アンケート実施      |
| 2月  |   |                  | 2月28日<br>プログラム活動期間終了<br>活動報告書・決算報告書提出  |  |                            |
| 3月  | 3月1日<br>⑨FD推進委員会<br>⑥全学FD委員会              |                  | 外部評価委員事前審査<br>3月9日<br>第2回外部評価委員全体会(最<br>終審査・全体講評作成)                                  | 3月25日<br>4年生調査終了   | (4月1日)<br>後期結果公開           |

|     | FDフォーラム<br>FD講演会                                    | 学内研修会                      | SD講演会・研修<br>会               | Happyくらす<br>作品コンクール           | 学生FDスタッ<br>フの活動                      | 全国私立大学<br>FD連携フォー<br>ラム | 関東圏FD連<br>絡会   |
|-----|---|----------------------------|-----------------------------|-------------------------------|--------------------------------------|-------------------------|----------------|
| 4月  |   | 4月6日<br>教室設備説明会            |                             |                               |                                      |                         |                |
| 5月  |   |                            |                             |                               | 5月19日<br>学生FDスタッ<br>フキックオフミ<br>ーティング |                         |                |
| 6月  | 6月1日<br>FDフォーラム<br>第1回開催<br>6月29日<br>FD講演会<br>第1回開催 |                            | 6月30日<br>SD研修会<br>(FD委員会共催) |                               |                                      | 6月5日<br>総会出席            | 6月30日<br>連絡会出席 |
| 7月  |   |                            |                             | 7月15日<br>募集開始<br>(～9月30日)     |                                      |                         |                |
| 8月  |   |                            |                             |                               |                                      |                         |                |
| 9月  |   |                            |                             | 9月30日<br>募集締切                 | 9月6日・7日<br>学生FDサミット<br>2016夏 参加      |                         |                |
| 10月 |   | 10月5日<br>第5回プログラム<br>実施    |                             |                               |                                      |                         |                |
| 11月 |   | 11月2日<br>第6回プログラム<br>実施    | 11月22日<br>FD・SD研修会          | 審査<br>11月4日<br>入選作品発表         |                                      |                         | 11月8日<br>連絡会出席 |
| 12月 |   |                            |                             | 12月5日<br>授賞式<br>受賞者による<br>座談会 |                                      |                         |                |
| 1月  |   |                            |                             |                               | 1月11日～24日<br>学生アンケート<br>実施           | 1月18日<br>会員校ミーティ<br>ング  |                |
| 2月  |   | 2月24日<br>学生意識調査分<br>析結果報告会 |                             |                               |                                      |                         |                |
| 3月  |   |                            |                             |                               | 3月2日・3日<br>学生FDサミット<br>2017春 参加      |                         | 3月7日<br>連絡会出席  |



### 3. 新任教職員研修会

本学では、大学に新規採用された教員と学院全体で採用された事務職員を対象とした「新任教職員研修会」を年2回開催している。

第1回は本学就任直後の4月初旬に開催され、本学における教育研究活動の概要からFD活動の紹介、各種手続に関する説明を行い、本学での教育研究活動が円滑に開始できることを目的としている。当日は、専任教員34名、専任職員22名が参加した。

第2回は9月中旬～下旬に開催され、前期の授業経験を踏まえ、教育方法の改善に資する契機となる研修を行うべく、外部から講師をお招きし、より実践的な内容の研修会を実施している。2016年度は、2012～2015年度に引き続き、杉原真晃先生に講師をお引き受けいただいた。また、9月から就任の新任教員6名も本研修会に参加した。

なお2016年度の2回目の研修会については、青山キャンパス、相模原キャンパスをTV会議でつなぎ、2キャンパス同時研修会を開催し、青山キャンパスは専任教員14名、専任職員14名、相模原キャンパスが専任教員12名、専任職員6名が参加した。

## ○ 2016 年度第 1 回 大学新任教職員研修会次第

日 時 4月2日(土)9:30～11:30  
場 所 第4会議室(青山キャンパス6号館1階)  
司 会 学務部教育支援課 課長 竹田 治世

### プログラム

1. 聖書朗読・祈祷 大学宗教主任 塩谷 直也 教授  
「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、  
皆の僕しもべになりなさい。」(マタイによる福音書20章26～27節)  
“Whoever wants to be a leader among you must be your servant, and whoever wants  
to be first among you must become your slave.” (Matthew 20:26-27)  
(2016年度学院主題聖句)
  2. 開会挨拶 学長 三木 義一 教授
  3. 青山スタンダードについて 副学長 篠原 進 教授
  4. 本学のFD活動について 全学FD委員会副委員長 杉谷 祐美子 教授
  5. 本学におけるキリスト教教育、キリスト教活動について 大学宗教部長 伊藤 悟 教授
  6. 本学の学生生活支援及びアドバイザー・グループ制度について 学生生活部 部長 菅野 治男
  7. 本学の教育支援体制について
    - (1) 教育研究システムについて 情報メディアセンター所長 宮川 裕之 教授
    - (2) 事務組織について 事務局長 鈴木 寛也
    - (3) 学事暦、授業、成績評価等について 学務部 部長 高野 悦子
    - (4) 研究制度及び研究費等について 研究推進部 部長 山口 和彦
    - (5) 施設設備利用について 庶務部施設課 課長 菊地 大介
  8. 閉会挨拶 副学長 篠原 進 教授
- 以上

## 青山学院大学のFD活動



青山学院大学全学FD委員会

### 1. 基本方針

◇FDとは？

Faculty Development＝教員の職能開発  
「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組み」

◇教育力の向上は大学の責務

◇青山学院大学のFD活動

単なる授業改善にとどまらず、さまざまな教育支援を組織的に展開

2

### 本学のFD活動が重視している点

- ◇大学を構成する教員、職員、学生、社会の4者が協力して、組織的に教育の改善を行う
- ◇学生にとって、また教職員にとって「個々が安心して教育目標に向かって取り組むことのできる環境作り」を実現する
- ◇FD、SD相互のバランスをとりながら、教職員が協力して教育力の向上に努める  
※ SD (Staff Development) = 職員の職能開発

⇒ 教員、職員が一体となった教育改善へ

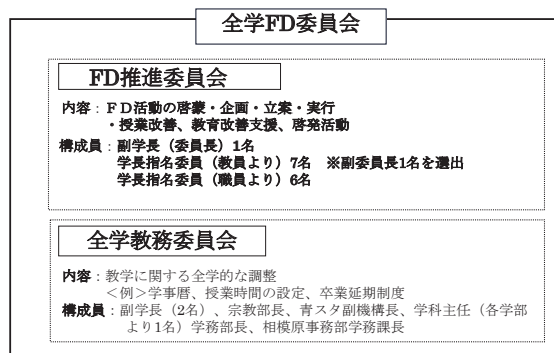
3

### 2. FD組織の発足

- 2003年度 全学的な授業評価アンケート実施
- 2005年度 **FDプロジェクトチーム発足**
- 2008年4月 大学設置基準改正 第25条の3によるFDの組織的活動の義務化  
(専門職大学院は2003年度、大学院は2007年度、学部は2008年度より義務化)
- 2008年10月 **FD推進委員会設置**
- 2009年3月 **全学FD委員会設置**
- 2009年3月 青山学院大学FD規則制定

4

### 本学のFD組織



5

### FD推進委員会の役割

- ・学長のもとに、少人数で機動的な組織を設置する
- ・教職員の構想力によって企画立案を進める
- ・FD活動の啓蒙
- ・学部のFD活動を活性化する起動力に  
⇒ 全学FD委員会の構成員

6

### 3. 主なFD活動の紹介

#### 教育改善支援制度による採択テーマ

教育の質を高めるためのプロジェクトを学内公募し、採択されたものに補助金供与

#### 2009年度

- ・シラバスと講義録の統合情報に関する高度活用システムの構築
- ・「科学・技術に関する意識データベース」の構築
- ・各種資格(司書・社会教育主事)教育プログラムの評価モデルの開発
- ・ティーチング&ラーニング・ポートフォリオに基づく総合的教育支援
- ・大学生に対するリーガルリスク教育

#### 2015年度

- ・生命系講義とバイオインフォマティクスの融合型教育プログラム構築
- ・海外留学生の直面するキャンパスライフの問題点の把握と利便性の向上～英語・日本語標記の推進を中心として～
- ・ラーニングコモンズやグローバル化に向けた教職員協働のPDプログラムの構築
- ・産学連携による情報システム人材育成プログラムの開発
- ・電子教材を利用した経済学教育の効果測定

7

### 全学的な学生意識調査

- ・ 調査の目的
  - － 大学はカリキュラムや学生支援のあるべき姿を検討
  - － 学生は学生生活の目標設定、学びと進路のつながりを意識
- ・ 学年進行に伴って卒業時調査を含めた経年比較が可能
  - － 1年 新入生の現状把握
  - － 2年 学生の満足度・成長感把握
  - － 3年 学生の満足度・成長感把握、就職への動機づけ
  - － 4年 学生が身につけた力・モチベーションの変化の把握、満足度・成長感把握
- ・ 学生個人へのフィードバック
  - － 個人結果報告書の返却、フォローアップ講座
- ・ 結果 「学生の意識調査からみる青山学院大学の学生像」  
「この4年間の軌跡」(⇒大学HP)

8

### FDハンドブックの制作

#### 青山学院大学 FDハンドブック



本学の教育に関する各種情報、授業改善アイデア、「授業改善のための学生アンケート」の活用方法をまとめたFDハンドブック

青山学院大学 FD活動マスコット  
【FDEago(エフディーゴ)】

9

### FDハンドブックの目次

|  |                           |         |
|--|---------------------------|---------|
| 第1部 青山学院大学の教育に関する基本情報                  |                           | 2       |
| 授業科目                                   | 学生数                       | 教職員数    |
| 教員数                                    | 職員数                       | 学生支援施設数 |
| 第2部 授業改善のアイデア                          |                           | 4       |
| 授業改善のアイデアについて、「授業改善のための学生アンケート」活用・活用一覧 |                           |         |
| 1                                      | 授業の心構え                    | 5       |
| 2                                      | 授業のデザイン                   | 7       |
| 3                                      | シラバスの作成                   | 8       |
| 4                                      | 教材の選択・作成                  | 10      |
| 5                                      | 協働の授業                     | 11      |
| 6                                      | 多様な授業方法                   | 12      |
| 7                                      | 授業の展開(1)・2                | 14      |
| 8                                      | 授業のアイデア(1)・2              | 16      |
| 9                                      | 授業の改善                     | 19      |
| 10                                     | 学生への対応                    | 20      |
| 11                                     | 学生とのインタラクティブ              | 21      |
| 12                                     | 教材の活用                     | 22      |
| 13                                     | 協働と協働                     | 23      |
| 14                                     | 授業評価の活用                   | 24      |
| 15                                     | 授業改善のために                  | 25      |
| 第3部 青山学院大学の教育に関する制度及び設備・サービス           |                           | 26      |
| 1                                      | 成績評価                      | 26      |
| 2                                      | 試験                        | 27      |
| 3                                      | 休講・欠席                     | 28      |
| 4                                      | 留学制度                      | 29      |
| 5                                      | 教員研修(海外研修・講習)             | 30      |
| 6                                      | 海外(ANA)研修(学内)             | 32      |
| 7                                      | 授業支援システム(FA)              | 33      |
| 8                                      | Aoyama Portal             | 34      |
| 9                                      | 学生へのソーシャルメディア活用に関する注意喚起   | 35      |
| 10                                     | 教員のための学生への対応              | 35      |
| 11                                     | 教員・教職員の研修                 | 36      |
| 12                                     | 遠隔授業                      | 37      |
| 13                                     | クラウド、学生の協働スペース            | 37      |
| 14                                     | 教育情報(FA)                  | 38      |
| 15                                     | FD活動について                  | 38      |
| 第4部 青山学院大学の教育内容                        |                           | 40      |
| 1                                      | 青山学院大学教育方針・青山学院           | 40      |
| 2                                      | 大学の理念                     | 40      |
| 3                                      | 青山スタンダード目標                | 41      |
| 4                                      | 各学部の教育方針—教育研究上の取組む2つのポリシー | 42      |

10

### FD講演会

教職員及び学生を対象に、全学的にFD活動の浸透をはかる

2015年は・・・

「アクティブラーニングを成功させるための授業デザイン

—学習研究の知見から」(2015年6月)

講師: 森 朋子先生(関西大学教育推進部 准教授)

- ・アクティブラーニングの定義(知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越え、認知プロセスの外化を伴う)
- ・アクティブラーニングの目的(仲間作り型、能力育成型、深い学習型)
- ・「外化」以上に「内化」の質が重要
- ・内化こそ「教える」と「学ぶ」を入れ子に
- ・内化→外化→内化の往還
- ・個人の学びに落とし込む



11

### 教員のための英語研修プログラム

- ・ 教員が英語での指導や講義、プレゼンテーションを行うため、必要な英語表現、スキル、手法を実践的に学ぶプログラム
- ・ 第3回 「ゼミとディスカッショングループ」(2015年7月)
- ・ 第4回 「少人数クラスのプランニングとマネジメント」(2015年12月)

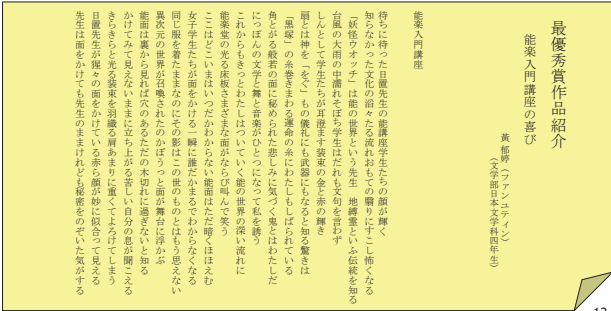


12



「私を成長させてくれた授業」をテーマと 青山学院大学  
した「Happyくらす作品コンクール」

- ・ 授業を通して得た発見や感動、体験、成長などのよい思い出を表現した作品を学生から募集
- ・ 2015年度審査結果 最優秀賞1作品、優秀賞1作品、佳作1作品、学生FDスタッフ特別賞1作品



13

学生FD活動「しゃべり場」



- ・ 学生FDスタッフ
  - 学生の視点から大学の授業や教育のあり方を考える学生団体
  - FD推進委員会への報告、全学FD委員会との交流、関東圏学生FD連絡会や全国学生FDサミットでの活動

しゃべり場「大学の授業について語りましょう」(2015年7月)

学生FDスタッフで意見交換



14

4. 今後のFD活動に向けて  
近年の大学政策にみるFD



- ◇「全学的な改革サイクルの確立のため、ワークショップを中心に「プログラムとしての学士課程教育」という基本的な認識の共有や教育方法に関する技術の向上に資する充実したFDを実施する。そのために、専門家(ファカルティ・ディベロッパー)の養成や確保、活用を図る。
- ◇「・・・単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もある。」

中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(答申)2012年8月28日

**専門性を高め、授業を越えて幅広く展開**

15

- ◇「各大学における教学システムの確立に不可欠なファカルティ・ディベロップメント(FD)の専門家、・・・の養成、確保、活用のために、拠点形成や大学間の連携の在り方等に関する調査研究を行う。なお、これと並行して、体系的なFDの受講と大学設置基準第14条(教授の資格)に定める「大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力」の関係の整理について検討を行う。」

中央教育審議会「第2期教育振興基本計画について(答申)」2013年4月25日

**専門性と体系性、教員の教育力の検討**

- ◇補助事業等の要件として、「学長を中心とした事業実施体制の整備、全教職員へのFD・SDの徹底等を求めるなど、既に様々な先行的な取組が行われている。」

中央教育審議会大学分科会「大学のガバナンス改革の推進について(審議まとめ)」2014年2月12日

**全学的な取組に**

16

本学の姿勢



- ◇「FDの実施自体を目的とするのではなく、FD活動を通じて」学生に修得させる能力を明確にして体系的な教育課程を提供するとともに、学修の成果を厳格に評価する」ことをめざしています。」
- ◇「個々の教員がおこなっている教育改善の蓄積は、潜在的にたいへん大きなものがあるはずです。これらの豊富な資源を可視化するとともに、情報システムを利用しながら、組織的に体系化することがいま求められています。教員と職員が協働しながら、より豊かな、質の高い教育の実現をめざして行きたいと思えます。」(大学HPより)

※学内・外の研修会やセミナー等に関する案内、FD活動に関する情報は、大学HPやポータルにて発信 (<http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/>)

**本年9月にワークショップ形式の第2回大学新任教職員研修会を予定**

17

参考) これまでのFD活動  
2009年度の主要な活動



- ・ 授業アンケートの見直し
- ・ 「教育改善・教育プログラム支援」制度の発足
- ・ 次年度の新任教職員研修会プログラムの検討
- ・ 各学部におけるFD活動の事例紹介
- ・ 他大学との連携、交流
- ・ 全国私立大学FD連携フォーラムへ加盟
- ・ 関東圏FD連絡会への参加

18



## 2010年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 全学的な学生意識調査の実施
- 授業シラバスの学外公開開始
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- 「FD letter」の発刊
- 「実践的FDプログラム」上映会の開催
- 他大学との連携、交流

19

## 2011年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 全学的な学生意識調査の実施
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- 授業改善アンケートのための教員アンケートの実施と分析
- 「FD letter」の発刊
- 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- 他大学との連携、交流
- シラバスのWeb公開

20

## 2012年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 全学的な学生意識調査の実施と集計結果の外部公開
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- FDキャラクター FDEago の投入
- FD Tip の紹介
- FD Board の設置
- 「心に残る授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施
- 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- 他大学との連携、交流

21

## 2013年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 全学的な学生意識調査の実施と集計結果の外部公開をテーマとしたFDフォーラムの開催
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- 「心に残る授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- 学生FDスタッフと教職員の交流会実施
- 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- 他大学との連携、交流、包括協定締結
- FDハンドブックの制作

22

## 2014年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- 「心に残る授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- 学生FDスタッフと教職員の交流会実施
- 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- 他大学との連携、交流、セミナーへの参加
- FDハンドブックの改訂
- 学外の講師による「FD講演会」開催
- 教員のための英語研修プログラム開催

23

## 2015年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善支援制度」の実施(前年度より名称変更)
- 授業アンケートの集計結果の学外公開(試験的に一部WEB入力を実施)
- 「私を成長させてくれた授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- 他大学との連携、交流、セミナーへの参加
- 学外の講師による「FD講演会」開催
- 教員のための英語研修プログラム開催

24

## ○ 2016 年度 第 2 回大学新任教職員研修会次第

日 時 9月14日（水）9：30～12：00

場 所 第19会議室（青山キャンパス 総合研究所ビル11階）  
B218会議室（相模原キャンパス B棟 2階）

司会 学務部教育支援課 竹田 治世

開会祈祷 大学宗教部長 伊藤 悟 教授

開会挨拶 全学FD委員会委員長 副学長 田中 正郎 教授

### プログラム

講師：杉原 真晃 先生

聖心女子大学 文学部教育学科 准教授

(1) 入学前から卒業後までを視野に入れた大学教育改革

(2) ワークショップ：青山学院大学の教育改革の提案

以上

## 本日の目標

- ・青山学院大学の教育・学生支援の取組に関する提案をおこなう。

## 本日の内容

- ・『高大接続システム改革会議「最終報告」』の「大学教育改革」の内容を参照しながら、大学教育改革の動向を認識する。
- ・大学教育改革の動向をふまえ、青山学院大学における教育・学生支援の取組に関する改革案を創出する。
- ・研修に参加する多様な学部・学科、部局に所属するメンバーの特長を活かし、学部・学科や部局を横断した、そして、教員と事務職員が連携した（教職協働）、全学的な取組（教養教育、図書館、キャリア支援等）を考案する。
- ・多様な学部・学科、部局のメンバーから構成されるチームを組み、メンバーで相談しながら、アイデアを創出する。
- ・その際は、次の参考資料を活用されたい。
  - ・青山学院大学の青山スタンダード、アドミッション・ポリシー（参考資料1）
  - ・高大接続システム改革会議「最終報告」（一部）（参考資料2）
  - ・高大接続システム改革会議「最終報告」参考資料（一部）（参考資料3）
  - ・青山学院大学 2016年度 学生意識調査（一部）（参考資料4）
- ・上記の参考資料以外にも、各チームで自由に必要情報を収集することも可。
- ・教育・学生支援の取組に関する改革案は、主に、次の項目から構成する。
  - (1) チーム名、チームメンバー
  - (2) タイトル
  - (3) 目的
  - (4) 具体的な取組内容
  - (5) 取組スケジュール（期間は最短1年、最長3年。自由に設定）
  - (6) 目的が達成されたかどうかを評価する方法

## 青山スタンダード科目の特徴(含 主要科目の特長)

青山学院大学の全学共通の教育である「青山スタンダード科目」の特徴をご紹介します。

---

### 他の大学にはないユニークな「青山スタンダード科目」

青山学院大学は、これまでの学部教育において重要な位置を占めていた基礎教育をさらに抜本的に改善して、基礎教育と専門教育のつながりをこれまで以上に密接にした「青山スタンダード科目」を構築しています。「自らも青山学院大学の卒業生であり、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえている」という社会的評価を受けることを到達目標とするのが基本的な考え方です。

---

### 所属学部・学科に関係なく幅広い教養を学ぶ「青山スタンダード科目」

学生のみならず、どの学部・学科に所属しているようでも、「青山スタンダード科目」を履修することによって、学問的なもの育方、分析の仕方、調べ方、表現の仕方の基礎的な技法や学問的な作法を身につけることができます。そして、そうした技法を使って手に入れることができるあらゆる学問分野の幅広い教養によって、専門領域の壁を越えて、物事について多面的、多角的に考え、異分野の出来事や考え方を知り、異分野や異文化において活躍している人々と豊かなコミュニケーションを取り取り交わることができるようになります。実社会の多い時代には求められるのは、物事を多面的かつ多角的に分析する知性であり、異分野のつながりを探求できることが求められていくこともますます多くなります。自然、社会、文化、そして歴史とのかかわり合いの中に自己を位置づける深層力が今後益々重要視される時代ではないでしょうか。「青山スタンダード科目」は、そのために必要な「知的マップ」を提供します。

---

### 専門教育への橋渡しをし、人生をナビゲートしてくれる「青山スタンダード科目」

皆さんがこれから過ごす大学生活の中で、「青山スタンダード科目」をとらえて身につける「基礎的な技法」や「学問的な作法」「知性マップ」は、在学中におさえながら卒業後に大学学習への橋渡しをしていくでしょう。また、大学を卒業した後、どのような道を選択しようか、たとえば、大学院に進学するべきかどうか、就職するにとっても有益なものもあります。今、社会や企業が求めているのは、自分自身を見直し、観察していく力、自分の考えを的確に表現し、伝達する力、そして、具体的な目標を定め、行動する力です。青山スタンダード科目ではこうした力を持人材を育成します。

さらに、長い人生の中で立ちふさがるさまざまな局面で、青山スタンダードによって養われた広範な知識を何度も振り返りたり確かめたりすることで、学びの確かさと深さを増し、養った知覚と人間性を磨く土台にもなるでしょう。

---

### カリキュラムの特徴

---

#### 学習の順序性と広がりを重視する「青山スタンダード科目」

「青山スタンダード科目」は、「フレッシュャーズ・セミナー」・「ウェルカム・レクチャー」・「キャリアデザイン・セミナー」・「コア科目」・および「テーマ別科目」のついでに履修され、「コア科目」は、「教養コア科目」と「技能コア科目」に区分されています。

【青山スタンダード科目の履修の流れ】

青山スタンダード科目は、さまざまな学問分野の専門家が、直接、学びの真髄を傳えています。  
1年を前期・後期に分けた半履修科目が中心で、1年間に数多くの学期にわたる履修がもたら、自由に組み合わせて学ぶことができます。

どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、「一定の水準の技能・能力」を学ぶものとして「技能コア科目」が、「一定の範囲の知識・教養」を学ぶものとして、「教養コア科目」が「コア科目」をさらに履修させるものとして、「テーマ

別科目」が置かれています。また、学びへの導入を容易にし、理解の方法の基盤に付けるために、「フレッシュャーズ・セミナー」と「ウェルカム・レクチャー」、職業・勤務先を養成するための、「キャリアデザイン・セミナー」が置かれています。そしてそれぞれの科目を結びつけている履修となる概念は、「自己」としています。なぜでしょうか。それは、知識は、自分にとって意味のある知識として初めて生きることになるからです。自分と切り離された知識は、生きない知識となるからです。経験的知性や知覚は知覚のうちに、自分自身で生きていく知識が、すでに蓄えられていくことは、みなさんも経験されたことがあるでしょう。つまり、その人にとって意味がなければ本来的な学習はそもそも成立しないのです。青山学院大学では、みなさんが、生還したついでに生きていく上でかくなるような知識、技能を、全てのみなさんに身につけて欲しいと考えているのです。そうした知識観を支えられ、青山学院大学では、人間理解科目を自己理解科目として位置づけ、キリスト教理解科目、社会学理解科目、自然理解科目、歴史理解科目をそれぞれが自己との関わりを意識して学習していただくことを求めています。技能コア科目、自己表現の手段としてのスキルと位置づけられることで、自己と関係付けられた知識が求められています。

---

### 主要科目の特長

青山スタンダード科目の主要科目の特長をご紹介します。

| 科目名               | 特長   |
|-------------------|--|
| フレッシュャーズ・セミナー     | フレッシュャーズ・セミナーは、全学部1年生を対象として履修される入学から1年次までの履修である。ある共通のテーマについて学びを通じて、専門分野を極める前に、アカデミックスキルの基礎を習得する機会があり、また学際領域に様々な分野を学ぶ学生が交流し、異分野の知恵を生み出す学習型の授業である。 |
| キリスト教理解 I         | 「青山学院の教育は、本来キリスト教に基いて行われる」との青山の精神に基づいて教育されているが、キリスト教の歴史やその人生の意義や価値観などについて学ぶ機会がある。また、その歴史や価値観をキリスト教の歴史や文化を通じて理解し、歴史や文化における自己存在の意義を認識していく。         |
| 科学・技術の原点 I (総合科目) | 総合科目では一つのテーマの下で1人1人の教員が自ら異なる観点から講義を行う。自然科学という道筋にこの授業を基盤とする。自然科学の歴史や方法論、科学史や倫理の歴史などから「自然科学を学ぶ」趣意を持って授業の展開に期待し、経験、実感、実証から、基礎、発展、応用への展開について学習する。    |
| 国際ビジネスと海外事情入門     | グローバル化が進む中で、様々な国際ビジネスが展開されている。しかし、国際ビジネスの展開には、経済界に加えて政治的・文化的な要素、地域特性などの異文化理解が重要である。本科目は経済学と国際ビジネスの両方の両輪を併せて学習し、新たな国際ビジネスモデルを学ぶことについて学習する。        |
| 情報スキル I           | 誰もがパソコンを使いこなすように1年次に「情報スキル I」で、その基礎を身につける。空き時間には学習サポートシステムであるが、IT-A(先輩学生が提供する情報アシスタント)の助けを受けられるで一人一人個別に授業に集中できる。                                 |

FAQ | 学習についてよくある質問を掲載しております。

## アドミッションポリシー (大学)

### 青山学院大学のアドミッションポリシー

青山学院大学は、青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を践み、公正な立場から社会の要請に応え、社会に貢献する人材の育成を教育の目標とする。

すなわち、青山学院大学は、豊かな知識や感性を養成する教育プログラムを用意して、生活や文化、価値観、考え方の違う世界の人々と共に、自らの創造力や可能性を磨き、時代を超えて社会の一員として活躍することのできる人材の育成を目指す。

このため、青山学院大学は、旺盛な探究心をもと、単に正解や結果を導くことではなく、その過程に努力を積み、常に自分と社会との接点を探り、新しい自分を発見しようとする意欲ある学生を求める。

また、青山学院大学は、優れた学力を有するばかりでなく、青山学院の教育方針や青山学院大学の理念を理解したうえで、キリスト教道徳やボランティア、あるいはスポーツ、文化、芸術、科学等さまざまな分野で積極的に活動した人材で、青山学院大学で学びたいという熱意をもつ学生を求めます。

| FAQ | 大学案内についてよくあるご質問を掲載しております。 |
|-----|---------------------------|
| ■   | 大学案内についてよくあるご質問           |
| ■   | 学生生活・進路についてよくある質問         |

Copyright © Aoyama Gakuin University. All Rights Reserved.

## 参考資料2

### 高大接続システム改革会議 「最終報告」 (一部)

#### 2. 大学教育改革

平成28年3月31日  
高大接続システム改革会議

### 2. 大学教育改革

(1) 大学教育改革の基本的な考え方

- 高大接続システム改革の実現のためには、大学教育改革を、高等学校教育改革及び大学入学者選抜改革と一体的に、実質的に進めることが不可欠である。
- 冒頭に記した国内外の時代潮流の大きな変化の下で、各大学は、個々の学生への教育に対する期待の認識を十分に受け止め、主体的に育ち多様な学生を志望した大学教育への質的転換に取り組む必要がある。地域社会、国際社会、産業界等社会のあらゆる分野における大きな急激な変化に直面し、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り開き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが、国公立を問わず、また、入学生に異なる選抜性の高懸にかかわらず、大学教育に課せられた使命である。大学教育は、家庭環境や経済的状況の制約、職種の有無等にかかわらず、社会人等も含め、大学で学びたいと願う誰もが関係するものでなければならぬ。
- 大学教育改革の必要性については、これまで繰り返し叫び続けてきた。それらを踏まえ、大学においては、カリキュラム構成の見直し、学生の能動的な学びを重視した指導方法の導入、学生の学習時間増加に向けた指導、学習成果に係る評価の充実などの取組を進められようとしている。しかしながら、こうした取組が実効性を発揮して進められている点、現状では一部の大学にとどまっており、多くの大学においてはいまだ課題となっている。
- 次期学習指導要領の策定に向けて、高等学校を含む初等中等教育について能動的学習の本格的導入に関する議論が進められていることも踏まえ、各大学は、能動的学習の方法を身に付けてきた多様な入学者の能力を更に向上させるための、実効性のある教育方法を確立しなければならぬ。大学の入学は単なる「入口」に過ぎず、充実した大学教育を通じて学生一人一人が能動的に学び、鍛えられ、「出口」である卒業時点で社会の各分野で活躍できる人材に成長することが重要である。

(2) 三つの方針に基づく大学教育の実現のための方策

#### A 三つの方針の重要性

- 各大学が教育を行う上で基本とすべきは、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針の三つの方針とそれらの間の密着な関係にある。特に、各大学は、その教育理念に基づき、どのような能力を身に付けた学

※ たとえば、「学生課特設教育の現状と課題に関するアンケート調査」の概要（中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(答申)）(平成28年3月28日) 事務局資料

※ 三つの方針を構成する各方針についての基本的な考え方は、一般的に以下のよう整理することができる。

○ 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) : 各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような能力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するかを定める基本的な方針であり、学生の学習成果の評価に用いられる。

生に卒業を認定し、学位を授与するのきつ方針をできる限り具体的に明記した卒業認定・学位授与の方針を定め、その卒業認定・学位授与の方針を達成するために必要な教育内容を具体的に記した教育課程編成・実施の方針を定め、その上で、卒業認定・学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針を達成し得る能力を持つ入学者を選抜するための具体的な方法を記した入学者受入れの方針を定める。さらに、この入学者受入れの方針は、当該大学の入学選抜方法に具体化されるものでなければならず、各大学では、これらの方針を、全学的なものとして、さらには個々の学部や学科等において、一体的に、かつ明確な内容を持つものとして策定するとともに、三つの方針に基づく充実した大学教育の実現に取り組み、責任を持って卒業生を社会に送り出す必要がある。

○ あわせて、個々の大学において、どのような学力を持つ学生を受け入れ、彼らが大学においてどのように学び、どのような学力を身に付けて社会に巣立つこととなるのかを、入学希望者や学生はもとより、保護者や高等学校関係者、さらには社会に対する明確なメッセージとして可視化し、各大学が発信する必要がある。このよう大学教育に関する重要な情報発信については、大学ポータルサイト<sup>24</sup>の積極的な活用を図るとともに、大学ポータルサイト以外の情報発信の必要となる機会を拡充など、より社会に対してわかりやすく発信する取組が望まれる。

○ 各大学において三つの方針を策定するに当たっては、当該大学の持つ様々な資源をどのように重点的に配分すべきかについて、十分な戦略を持つことが重要である。また、大学教育と、高等教育、卒業後の人生の舞台となる社会、すなわち地域社会、国際社会、産業界等との関係を一貫した視点で捉え、それらとの関わりを重視する必要がある。

#### イ 三つの方針の策定に関する位置付けの強化

○ このような三つの方針の重要性に鑑み、中央教育審議会大学分科会大学教育部会において、「取組め」とも踏まえ、三つの方針の策定及び公表に関する法令上の取扱いと、大学における三つの方針の策定と運用に当たって参照すべきガイドラインの策定について、具体的な検討が行われてきた。

○ その結果、全ての大学において卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針の三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとすることを法上の位置付けするため、学校教育法施行規則を改正することが

<sup>24</sup> 教育課程編成・実施の方針（アドミッション・ポリシー）は、卒業認定・学位授与の方針の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学習成果をどのように評価するのかが求められる方針。  
<sup>25</sup> 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、各大学、学部、学科等の教育理念、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針に基づく教育内容を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める具体的な方針であり、受け入れられるべき学生の属性（「学生の属性」に「どのようなような卒業生を求めらるか」）を示すもの。  
<sup>26</sup> 大学ポータルサイトとは、インターネットを介した国立私立の大学の教育情報を公表し、提供する共通の仕組みとして、大学の教育情報を広く社会へ発信するもの。なお、平成28年3月現在において、93.7%の大学がポータルサイトに参加している。

適宜とされ、関係者の改正が行われた。

○ あわせて、中央教育審議会大学分科会大学教育部会として、「卒業認定・学位授与の方針」（アドミッション・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）及び「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）の策定及び運用に関するガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）が取りまとめられ公表された。

ガイドラインにおいては、高大接続システム改革とそれを踏まえた大学教育の内部質保証の確保のために三つの方針が各大学において策定されるに際し、①三つの方針の一体的な策定の意義、②三つの方針の策定に当たり留意すべき事項（三つの方針の策定順位、三つの方針相互の関係、三つの方針の策定に当たっての留意事項）、③三つの方針の運用に当たり留意すべき事項（三つの方針に基づく大学教育のPDCAサイクル、三つの方針に基づく入学者選抜及び体系的で組織的な教育の実施、三つの方針に基づく大学の取組の自己点検・評価と改善、情報の積極的な発信）などについて示されている。

#### ウ 三つの方針に基づく教育マネジメントの確立

○ 今後、各大学において、学校教育法施行規則の改正を踏まえ、ガイドラインも参考にしながら、当該大学を卒業する際にはどのような能力を身に付けていかねばならず、かつ十分に理解できる明確な方針を策定するとともに、学長がリーダーシップの下、三つの方針を全ての教職員が共通理解し、連携して取り組み、その成果を実証的に把握し、改善につなげる大学教育のPDCAサイクルを不断に回すことで、教育マネジメントを確立することが重要である。その際、特に以下のような取組が重要である。

○ 各大学において、それぞれの教育理念を踏まえ、三つの方針を策定し、それらに基づき、大学教育の「出口」となる卒業認定・学位授与までの教育の提供態様について、学生の能力を育成する「進路」となる教育課程、「入口」となる入学者選抜を含め、全体を一貫性あるものとして構築し、その効果的な実施に努めることにより、学生に対する教育をより密度の高い、充実したものにする。

○ 学生の視点に立って、卒業認定及び学位取得に必要な知識や能力をあらかじめ明示し、学生がその達成を自ら進めさせながら身に付けるための教育課程を体系的に整備する。そのために、卒業認定・学位授与の方針において卒業認定や学位授与に付いておくべき資質・能力の目標を明確化した上で、教育課程編成・実施の方針において、当該目標の実現に向け、個々の学生が入学から卒業までの学習過程を見通すことのできる体系的な教育課程編成や、当該教育課程における学修方法、学修成果の評価の在り方等を具体的に示す。

○ また、今後大学は、卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針を踏まえて定められた入学者受入れの方針に基づき、多様な背景を持つ高等専門学校生だけでなく、入学や卒業を直しを希望する社会人学生を、これまで以上に多様な学生を受け入れ、教育を行い、社会に送り出すことが重要である。このため、こう

した多様な学生の存在を前提に、学生の入学前の学習・活動態様の多様性や選抜方法の違いを踏まえ、大学教育へ円滑に移行するための初年次教育の充実や、個々の学生の能動的な学修を促進するための柔軟なカリキュラムの構築、教材の開発などに取り組む。一人一人の学修の充実を図る。

○ 学修の実施を図るために、大学では、授業の場において、多様な人々の間から授業、少人数のチームワークによる質の高い学修など、相互に切磋琢磨することのできる環境を整備することが重要である。我が国の大学では、もちろん例外はあるにしても、大人数の学生を対象に一人の教員が一斉授業の形式で講義し、しかも学生に対するアサインメント（課題）の要求が少ない授業が多々ある。多様な学生が主体性を持って双方向的に学び、多量のリーディング・アサインメント等に取り組む「学びの場」を十分に作り、より広く高い学修を重ねることのできる環境の整備は、現在の大学教育における喫緊の課題である。

○ このような教育活動の充実をはじめとする大学運営の高度化に向け、各大学において、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（ファカルティ・ディベロップメント）に取り組むとともに、職員（事務職員だけでなく、教員や技術職員を含む。）を対象とした大学運営業務に関する研修（スタッフ・ディベロップメント）の機会を充実する。

○ さらに、大学教育改革の実現には、卒業後の進路となる社会の理解・協力が不可欠である。特に、大学のカリキュラムの編成・実施に地域社会、国際社会、産業界等の参加・協力を得ることや、企業が学生の採用選考時の評価等において大学における学修成果をこれまで以上に積極的に活用することは、大学教育と社会との接続を強固なものとする上で極めて重要であり、そのために企業等の協力を求める。

○ この観点からも、三つの方針の策定すべき役割は大きい。具体性を持った三つの方針の策定とその公表を通じて、各大学において所を担い、どのような教育を行っているかが十分に可視化されることで、社会と大学とが互いに育成すべき人材の共有やその実現に向けた相互の連携が一層進むと考えられる。

○ 国においても、各大学における三つの方針とその間の関係及びそれらと入学者選抜方法との関係を整理した教育マネジメントの確立を促し、高大接続システム改革を推進するための支援に取り組むべきである。

○ その一環として、国は、一体的に策定された三つの方針に基づき、大学教育の質を抜本的に刷新し、これからの社会が求める人材の輩出に向けた体系的・組織的な教育に先導的に取り組む大学への支援を強化する。あわせて、大学における能動的な学修の状況や学生の学修時間の実態等についての全国的な調査に取り組み、得られた実証的データを国の施策に生かすとともに、各大学の教育マネジメントの改善に役立てよう普及させる。

<sup>24</sup> 例えば、基礎学力に不足がある学生を受け入れる場合には、当該学生に対して教育課程外で補習を行うという方針を掲げると、習得を受け入れる場合には、本来専ら当該国の文化への理解を促進するためのプログラムを提供したりすることが考えられる。

#### (3) 認証評価制度の改革

○ 大学教育が新たな時代に向けて多機能をもって質的に転換していくためには、一貫した三つの方針、それを具体的に反映した新しい入学者選抜、三つの方針と社会との関係も踏まえた各大学の教育への取組についての新しい評価が必要である。

○ 現在の認証評価制度では、大学は、並合適合性等の観点から、認証評価基準等に基づく教育研究開発（教員研修、教育課程、施設設備等）の確立・評価と、認証評価機関が定める基準に沿った評価を受けることとなっている。認証評価については、今後は、大学として求められる最低限の質の確保のみならず、大学教育改革や入学者選抜改革、さらには改革後の大学の教育研究機能の高度化に、より積極的な役割を果たすものとするのが重要である。あわせて、大学についての情報を社会に積極的に伝え、その実施に際した適正な社会的評価の確立にも資するものとするのが重要である。

○ こうした状況を踏まえ、中央教育審議会大学分科会においても、高大接続システム改革の議論も踏まえ、次のような方向性で議論が進められてきたところである。

- ・ 各大学の自律的な改革サイクルとしての内部質保証を重視した評価への転換
- ・ 内部質保証の観点としても重要である三つの方針について、一貫性・整合性を保ち、目標が具体化されたものとして策定されるとともに、実施状況の検証も踏まえ改革されているかなどの観点からの評価の実施
- ・ 三つの方針にも関係した、学生の学修成果の把握・評価の推進
- ・ ステークホルダー（高等学校関係者、企業関係者、自治体関係者、学生等）の視点を取り入れた評価の実施及び社会への評価の積極的な発信

○ 中央教育審議会における認証評価制度改革に関する議論を踏まえ、国は、認証評価に関する法令の改正を行ったところである。引き続き、認証評価機関と連携し、高大接続システム改革の目的、内容が具体化されるように、適切な評価を実施するための方針に取り組むべきである。

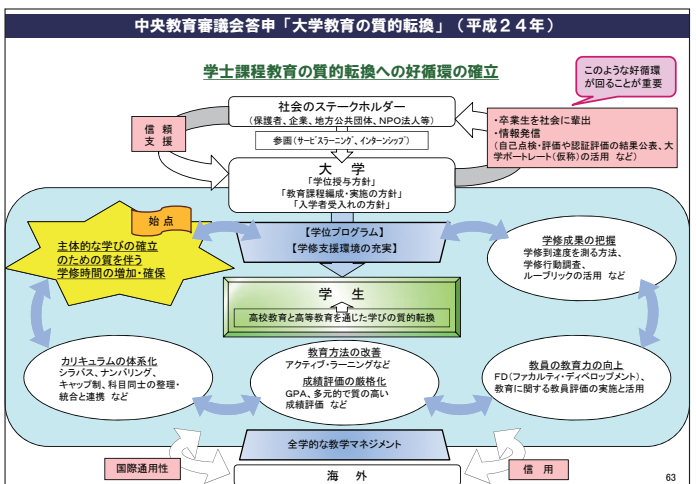
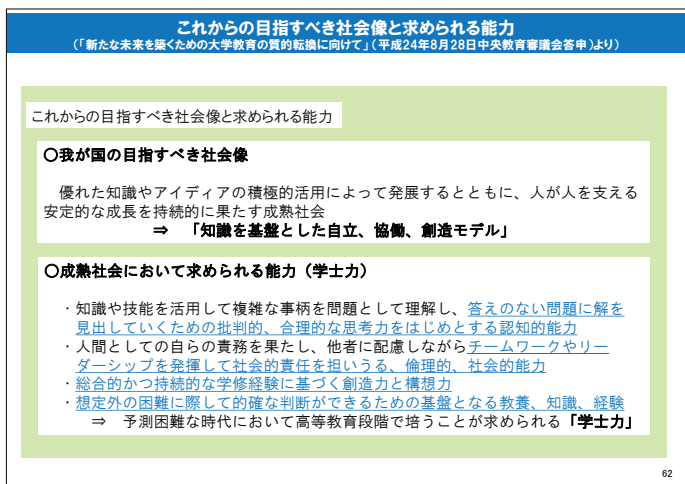
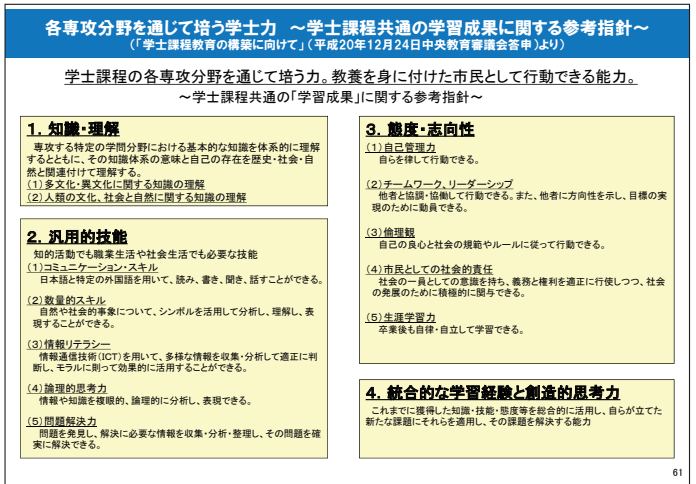
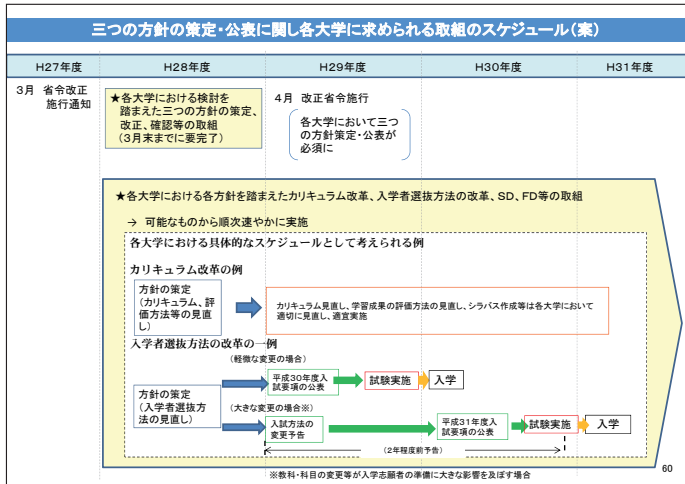
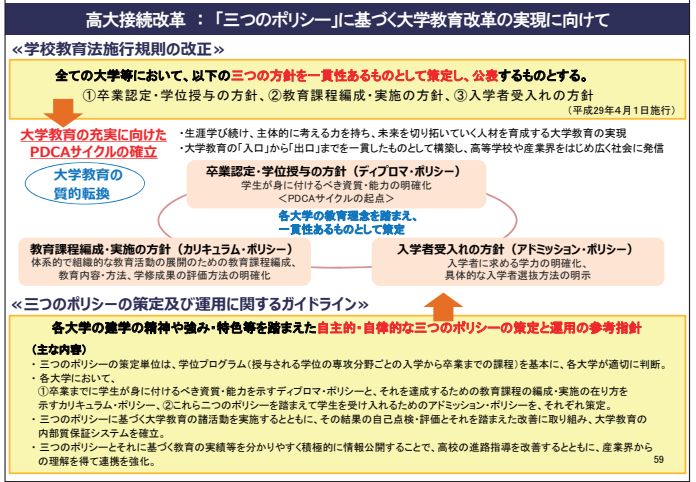
<sup>25</sup> 「認証評価制度の充実に向けて」（平成28年3月18日中央教育審議会大学分科会審議まとめ）

参考資料3

高大接続システム改革会議「最終報告」参考資料

(一部)

(2) 大学教育改革に関する資料





### 三つの方針の策定状況等①

#### 1. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

##### ○入学者受入れの方針の策定の状況

| 区分 | 入学者受入れの方針を定めている大学数         |             |            |              |
|----|----------------------------|-------------|------------|--------------|
|    | 学部ごとの入学者受入れの方針を定めている大学・学部数 | 大学数         | 学部数        |              |
| 大学 | 国立                         | 82 (100.0)  | 81 (98.8)  | 375 (98.4)   |
|    | 公立                         | 80 (100.0)  | 80 (100.0) | 173 (100.0)  |
|    | 私立                         | 579 (100.0) | 577 (99.7) | 1,618 (99.0) |
|    | 計                          | 741 (100.0) | 738 (99.6) | 2,166 (99.0) |

##### ○入学者受入れの方針の明確化の状況

| 区分 | 求める学生像だけでなく、高等学校段階で習得しておくべき内容・水準を具体的に定めている大学数 |            |
|----|---|------------|
| 大学 | 国立  | 58 (70.7)  |
|    | 公立  | 27 (33.8)  |
|    | 私立  | 231 (39.9) |
|    | 計   | 316 (42.6) |

出典：文部科学省大学入試室調べ

##### ○入学者のアドミッション・ポリシーの認知度

##### 一般入試

##### アドミッション・ポリシーを重視して大学を選んだか

出典：アドミッション・ポリシーに関する調査報告書「アドミッション・ポリシーの効果に関する研究」平成26年3月  
大学入試センター研究開発部

### 三つの方針の策定状況等②

#### 2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

##### ○教育課程編成・実施の方針の策定の状況（平成25年度）

| ＜大学全体として＞             | 国立         | 公立         | 私立          | 計           |
|-----------------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 教育課程編成・実施の方針を定めている大学数 | 68 (78.7%) | 52 (64.2%) | 482 (81.0%) | 600 (78.7%) |
| (大学全体)                | 61 (70.9%) | 49 (60.5%) | 464 (78.0%) | 574 (75.3%) |
| (大学の一部)               | 5 (5.8%)   | 3 (3.7%)   | 18 (3.0%)   | 26 (3.4%)   |

##### ＜学部段階として＞

| 教育課程編成・実施の方針を定めている大学数 | 国立         | 公立         | 私立          | 計           |
|-----------------------|------------|------------|-------------|-------------|
| (全学部)                 | 81 (98.8%) | 66 (83.5%) | 537 (93.1%) | 684 (92.7%) |
| (一部の学部)               | 0          | 2 (2.5%)   | 8 (1.4%)    | 10 (1.4%)   |

文部科学省調べ 65

### 三つの方針の策定状況等③

#### 3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

##### ○学位授与の方針の策定の状況（平成25年度）

| ＜大学全体として＞        | 国立         | 公立         | 私立          | 計           |
|------------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 学位授与の方針を定めている大学数 | 66 (78.7%) | 51 (63.0%) | 485 (81.6%) | 600 (79.0%) |
| (大学全体)           | 62 (72.1%) | 48 (59.3%) | 469 (76.0%) | 579 (76.0%) |
| (大学の一部)          | 4 (4.7%)   | 3 (3.7%)   | 16 (2.7%)   | 23 (3.0%)   |

##### ＜学部段階として＞

| 学位授与の方針を定めている大学数 | 国立        | 公立         | 私立          | 計           |
|------------------|-----------|------------|-------------|-------------|
| (全学部)            | 82 (100%) | 65 (82.3%) | 546 (94.6%) | 693 (93.9%) |
| (一部の学部)          | 0         | 2 (2.5%)   | 7 (1.2%)    | 9 (1.2%)    |

##### ○大学全体で定める人材養成目的や学位授与の方針等とカリキュラムの整合性を考慮している大学の割合

| 区分  | 国立         | 公立         | 私立          | 計           |
|-----|------------|------------|-------------|-------------|
| H24 | 73 (64.3%) | 45 (56.3%) | 360 (58.0%) | 478 (64.3%) |
| H25 | 78 (64.3%) | 48 (60.0%) | 419 (67.0%) | 545 (73.8%) |

文部科学省調べ 66

### 認証評価制度の改善について①

#### 【経緯等】

＜背景・課題＞  
○大学の質保証については、平成16年に第三者評価制度である認証評価制度が導入され、現在2巡目の評価が実施されているところ、現行の認証評価制度に対しては、以下のような指摘がなされている。  
・法令適合性等の外形的な評価項目が多く、必ずしも教育研究活動の質的改善が中心となっていない  
・評価結果を教育研究活動の改善に活かす仕組みが十分ではない  
・社会一般における認証評価の認知度が十分ではない

中央教育審議会大学分科会大学教育部会を中心に 認証評価制度の改善に向け検討

＜平成28年3月18日＞中央教育審議会大学分科会「**認証評価制度の充実に向けて(審議まとめ)**」をとりまとめ  
⇒審議まとめを踏まえ、「**学校教育法第百二十二条第二項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令の一部を改正する省令**」を平成28年3月31日公布、平成30年4月1日施行

#### 【省令改正内容】

##### ○大学評価基準において定める評価事項関連

(1) **大学評価基準における共通項目の充実**  
大学評価基準に共通して定めなければならない事項として、以下の点を追加するものとする。  
①三つの方針(※)に関すること。  
②教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組み(内部質保証)に関すること。  
※卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

(2) **重点評価項目の設定**  
大学評価基準に定める項目のうち、内部質保証に関することについては、重点的に認証評価を行うものとする。

(3) **設置計画履行状況等調査(AG)との連携**  
認証評価機関はAGの結果を踏まえた文部科学大臣の意見において「是正意見」「改善意見」が付された大学に対する評価を行うに当たっては、当該意見に対して適切な措置を把握するものとする。

67

### 認証評価制度の改善について②

#### ○評価の質の向上

(1) **認証評価機関の自己点検・評価の継続化**  
認証評価機関は、大学評価基準、評価方法、評価の実施状況並びに組織及び運営の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

(2) **認証評価機関におけるフォローアップ**  
認証評価機関は、評価の結果、改善が必要とされる事項を指摘した大学の教育研究活動等の状況について、当該大学の求めに応じ、再度評価を行うよう努めるものとする。

(3) **評価における社会との関係強化**  
認証評価機関は、その評価方法に、高等学校、地方公共団体、民間企業等の関係者からの意見聴取が含まれるものとする。  
※高等専門学校の教育研究等の総合的な状況に係る認証評価(機関別評価)においても、上記省令改正内容について、準用する。

#### 【中教審審議まとめを踏まえた取組】

○各大学等が、教育研究の質の確保に資する内部質保証の体制の構築等に取り組み、また認証評価機関が大学評価基準等を見直し、認証評価を行う際には、以下の様な事項に取組。

- ・内部質保証に関することについて、優れた取組等を実施していると評価した大学等に対し、次回評価において評価内容及び方法の弾力化により評価の効率化を図ること。また、法令遵守事項については、評価書やチェックシートの確認など方法の簡略化を図ること。
- ・大学の自己点検・評価の段階から客観的なデータや指標の積極的な活用、認証評価機関においても定量的な評価の実施やヒアリングの取組強化に取り組むこと。
- ・教育の質的転換を促進するため、各大学等が学生の学修状況の把握・評価の実施状況についての評価に取り組み、評価の過程において、認証評価と社会との関係強化等の観点から、高等学校、地方公共団体、企業、学生等からの意見聴取に取り組むこと。
- ・重点評価項目である内部質保証について段階別評価の活用など、評価結果を社会一般に対して分かりやすく発信するとともに、特に優れた取組を積極的に公表すること。
- ・認証評価に係る各大学等の負担の軽減のため、国立大学法人評価などの他の評価における教育研究に関する評価資料及び結果も活用した評価に取り組むこと。

68

### 参考資料4

青山学院大学 2016年度 学生意識調査（一部）

注）本研修用に報告の一部の抜粋、表記修正等の加工をしております。





Benesse i-Career

### 1-7. 1年生意識調査 興味関心の一致度

※全学年平均に対して、5ポイント以上上回る場合は★、下回る場合は▲

| 学年 | 内容                  | 全学年    | 1学年  |      |      |      | 2学年  |      |      |      | 3学年  |      |      |      | 4学年  |      |      |  |
|----|---------------------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
|    |                     |        | 全学年  | 1学年  | 2学年  | 3学年  | 4学年  | 5学年  | 6学年  | 7学年  | 8学年  | 9学年  | 10学年 | 11学年 | 12学年 | 13学年 | 14学年 |  |
| 1  | 一貫した                | 2016年度 | 44.6 | 44.3 | 43.3 | 47.8 | 45.9 | 47.4 | 47.4 | 47.5 | 44.5 | 46.3 | 46.3 | 45.7 | 46.7 | 47.8 | 48.3 |  |
| 2  | 一貫していないが、興味関心の一致が強い | 2016年度 | 43.1 | 43.0 | 42.2 | 47.1 | 45.1 | 46.1 | 46.6 | 47.2 | 44.3 | 45.9 | 45.9 | 45.3 | 46.2 | 47.1 | 47.3 |  |
| 3  | 興味関心の一致が弱い          | 2016年度 | 21.2 | 21.3 | 20.2 | 21.8 | 21.1 | 20.9 | 20.6 | 20.6 | 21.9 | 21.2 | 21.2 | 21.2 | 20.8 | 20.8 | 20.8 |  |
| 4  | 全く一致していない           | 2016年度 | 3.1  | 3.7  | 3.9  | 3.3  | 3.7  | 3.3  | 3.4  | 3.4  | 3.3  | 3.7  | 3.6  | 3.7  | 3.7  | 3.7  | 3.7  |  |
| 5  | その他                 | 2016年度 | 8.9  | 7.6  | 8.6  | 8.2  | 8.2  | 8.2  | 8.2  | 8.2  | 8.2  | 8.2  | 8.2  | 8.2  | 8.2  | 8.2  | 8.2  |  |

© Benesse i-Career Co., Ltd. 2016 All Rights Reserved. 8

Benesse i-Career

### 1-8. 1年生意識調査 入学後の展望①：力を入れたい能力・スキル

※全学年平均に対して、5ポイント以上上回る場合は★、下回る場合は▲

※あなたが今後、特に向上させたい能力・スキルは何ですか。

| 学年 | 内容     | 全学年    | 1学年  |      |      |      | 2学年  |      |      |      | 3学年  |      |      |      | 4学年  |      |      |  |
|----|--------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
|    |        |        | 全学年  | 1学年  | 2学年  | 3学年  | 4学年  | 5学年  | 6学年  | 7学年  | 8学年  | 9学年  | 10学年 | 11学年 | 12学年 | 13学年 | 14学年 |  |
| 1  | 読解力    | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |
| 2  | 論理的思考力 | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |
| 3  | 読解力    | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |
| 4  | 読解力    | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |
| 5  | 読解力    | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |

© Benesse i-Career Co., Ltd. 2016 All Rights Reserved. 9

Benesse i-Career

### 1-9. 1年生意識調査 入学後の展望②：履修選択の考え方

※全学年平均に対して、5ポイント以上上回る場合は★、下回る場合は▲

#### ② 入学後の展望

##### 履修選択の考え方(★Aに当てはまるほど、★Bに当てはまる程度)

| 学年 | 内容                   | 全学年    | 1学年  |      |      |      | 2学年  |      |      |      | 3学年  |      |      |      | 4学年  |      |      |  |
|----|----------------------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
|    |                      |        | 全学年  | 1学年  | 2学年  | 3学年  | 4学年  | 5学年  | 6学年  | 7学年  | 8学年  | 9学年  | 10学年 | 11学年 | 12学年 | 13学年 | 14学年 |  |
| 1  | 履修選択の考え方(★Aに当てはまるほど) | 2016年度 | 27.1 | 28.8 | 28.4 | 28.1 | 28.0 | 27.7 | 28.0 | 28.1 | 27.7 | 28.0 | 28.1 | 28.1 | 28.1 | 28.1 | 28.1 |  |
| 2  | 履修選択の考え方(★Bに当てはまる程度) | 2016年度 | 27.4 | 28.2 | 27.4 | 27.8 | 27.9 | 27.9 | 27.9 | 27.9 | 27.9 | 27.9 | 27.9 | 27.9 | 27.9 | 27.9 | 27.9 |  |
| 3  | 履修選択の考え方(★Aに当てはまるほど) | 2016年度 | 28.2 | 28.7 | 28.1 | 28.4 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 | 28.0 |  |
| 4  | 履修選択の考え方(★Bに当てはまる程度) | 2016年度 | 27.9 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 | 28.2 |  |

※Aに当てはまる割合が強いはほど、数値が高くなります。

© Benesse i-Career Co., Ltd. 2016 All Rights Reserved. 10



Benesse i-Career

### 1-11. 1年生意識調査 協同的問題解決力：批判的思考力を支える態度

※全学年平均に対して、5ポイント以上上回る場合は★、下回る場合は▲

#### ② 批判的思考を支える態度

##### 協同的問題解決力(★Aに当てはまるほど)

| 学年 | 内容                   | 全学年    | 1学年  |      |      |      | 2学年  |      |      |      | 3学年  |      |      |      | 4学年  |      |      |  |
|----|----------------------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
|    |                      |        | 全学年  | 1学年  | 2学年  | 3学年  | 4学年  | 5学年  | 6学年  | 7学年  | 8学年  | 9学年  | 10学年 | 11学年 | 12学年 | 13学年 | 14学年 |  |
| 1  | 協同的問題解決力(★Aに当てはまるほど) | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |
| 2  | 協同的問題解決力(★Bに当てはまる程度) | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |
| 3  | 協同的問題解決力(★Aに当てはまるほど) | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |
| 4  | 協同的問題解決力(★Bに当てはまる程度) | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |

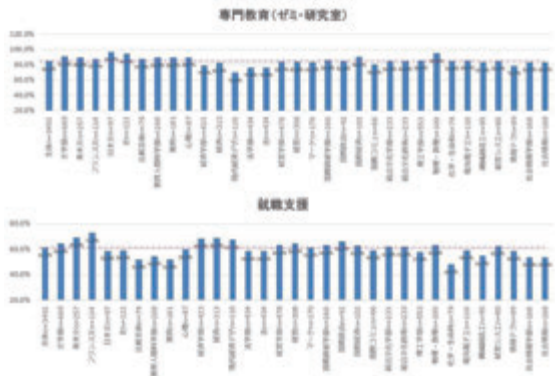
##### 協同的問題解決力(★Bに当てはまる程度)

| 学年 | 内容                   | 全学年    | 1学年  |      |      |      | 2学年  |      |      |      | 3学年  |      |      |      | 4学年  |      |      |  |
|----|----------------------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--|
|    |                      |        | 全学年  | 1学年  | 2学年  | 3学年  | 4学年  | 5学年  | 6学年  | 7学年  | 8学年  | 9学年  | 10学年 | 11学年 | 12学年 | 13学年 | 14学年 |  |
| 1  | 協同的問題解決力(★Bに当てはまる程度) | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |
| 2  | 協同的問題解決力(★Aに当てはまるほど) | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |
| 3  | 協同的問題解決力(★Bに当てはまる程度) | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |
| 4  | 協同的問題解決力(★Aに当てはまるほど) | 2016年度 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.2 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 | 49.7 |  |

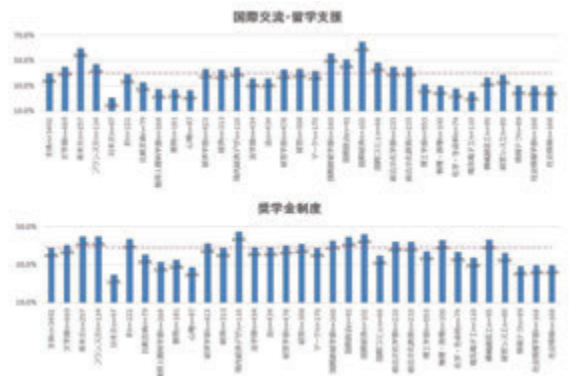
© Benesse i-Career Co., Ltd. 2016 All Rights Reserved. 12



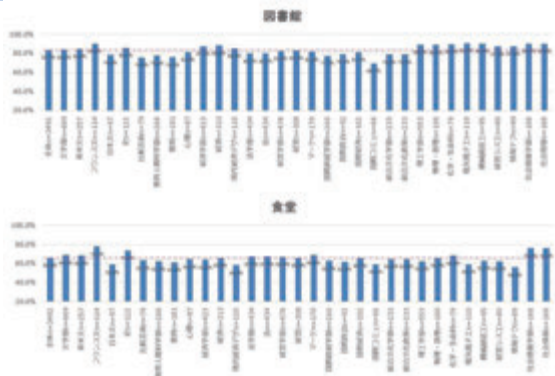
2-2. 4年生意識調査 満足度詳細②：学部学科別比較



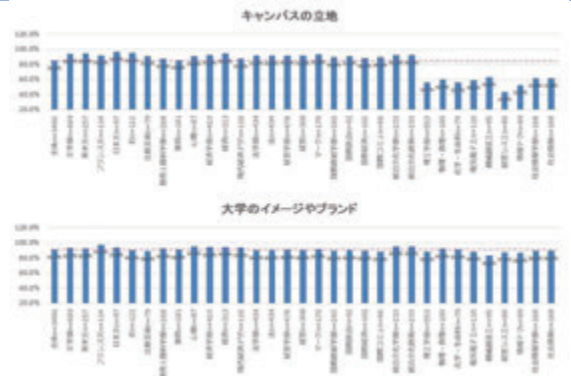
2-3. 4年生意識調査 満足度詳細③：学部学科別比較



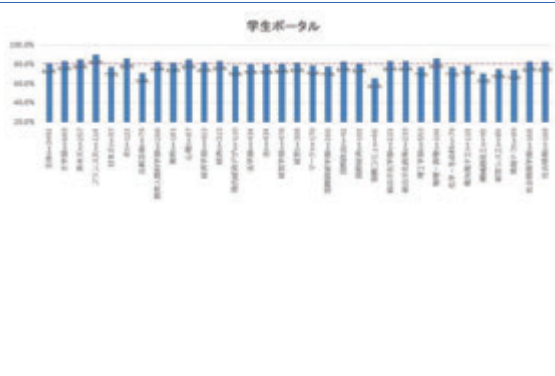
2-4. 4年生意識調査 満足度詳細④：学部学科別比較



2-5. 4年生意識調査 満足度詳細⑤：学部学科別比較



2-6. 4年生意識調査 満足度詳細⑥：学部学科別比較





## 4. 授業改善のための学生アンケート

本学では、2003年度より、授業内容・方法に関する学生へのアンケート調査「授業改善のための学生アンケート」（以下、本アンケートと略）を全学的に実施している。全学FD委員会の発足に伴い、2009年度からは全学FD委員会が主催となり、本アンケートを実施している。

2016年度より、本アンケートの実施方法を、従来の「マークシート調査方式」から「WEBアンケート調査方式」に変更した。

## ○ アンケート概要

### 【実施目的】

「大学が、学生により良い授業を提供し、授業改善を図るための手段」として、学生によるアンケートを実施する。

### 【実施概要】

本アンケートは、全学部・研究科（専門職大学院を除く）等において、共通設問・回答項目の「WEBアンケート調査方式」にて実施している。

本アンケートの実施対象は、青山スタンダード科目及び全学部の開講科目、研究科の開講科目より各研究科が指定した科目、これらの科目の内受講者数が5名以上の科目としている。ただし、演習科目及び実験・実習科目、集中科目は原則対象外としているが、各学部・研究科等の判断により実施する場合もある。

前期は前期開講科目、後期は通年科目及び後期開講科目について、本アンケートを実施している。

本アンケートへの回答は、実施対象科目の受講生による無記名の回答を原則とし、学生は所定の期間中の任意の機会にアンケートに回答する。

なお、授業担当者が特に希望する場合、「WEBアンケート調査方式」を「マークシート調査方式」に替えて実施することがある。

本アンケートの設問・回答項目は、全学共通の18問（選択式回答17問、自由記述式回答1問）の他、最大14問の個別設定枠（学部・学科及び授業担当者が独自に設定可能な項目、選択式回答13問、自由記述回答1問）がある。

本アンケートの結果は、当該科目の成績評価への影響が無い時期に各授業担当者へ報告される他、一定の集計を経て全教職員及び学生に開示される。その際、学部・研究科によっては科目単位での結果開示を行っている。

(以上)

## ○ アンケート項目

授業改善のための学生アンケート

Student Survey to Improve Classroom Instruction

青山学院大学

Aoyama Gakuin University

このアンケート調査は、青山学院大学が授業改善を目的とし、科目担当者が授業をより充実させるために実施するものです。結果の担当教員への返却は、成績提出後に行われます。したがって、皆さんの成績評価には一切影響ありません。また、アンケートの参加は皆さんの自由意思によるものです。

The purpose of this survey is to help instructors improve the quality of their classroom instruction. The instructor will not see the results of the survey until after grade reports are handed in, and therefore responses to the survey items cannot influence your grades. Participation in the survey is voluntary.

### A. 授業への取り組みに関する質問 Questions about your attitude toward this course:

1. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。(複数回答可)

What is your reason for taking this course? (multiple responses allowed)

- |                  |                                    |
|------------------|------------------------------------|
| 5) 授業内容に興味があったから | I was interested in the content;   |
| 4) 教員に魅力があったから   | I was attracted to the instructor; |
| 3) 空き時間があったから    | I had this period open;            |
| 2) 単位がとりやすいから    | it looked easy;                    |
| 1) 必須科目だから       | it was a required course;          |

2. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

How often did you attend classes?

- |                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| 5) ほとんど出席した    | almost every class;              |
| 4) 3分の2程度出席した  | about two thirds of the classes; |
| 3) 半分程度出席した    | about half the classes;          |
| 2) 3分の1程度出席した  | about one third of the classes;  |
| 1) ほとんど出席しなかった | I rarely attended.               |

3. あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。

I made an effort to understand the subject matter.

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う    | I strongly agree;             |
| 4) そう思う      | I agree;                      |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない    | I disagree;                   |
| 1) 全くそう思わない  | I strongly disagree.          |

4. 1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。

On average, how much time did you spend for preparation and review?

- |            |   |
|------------|---|
| 5) 3時間以上   | more than three hours;                              |
| 4) 2時間     | about two hours;                                    |
| 3) 1時間     | about one hour;                                     |
| 2) 30分以下   | less than 30 minutes;                               |
| 1) 全くしていない | I never prepared for class or reviewed after class. |

B. 教員（授業内容・教授方法）に関する質問

Questions about course content and class instruction:

5. この授業は「講義内容」（シラバス）を基本にして授業が行われましたか。

The instructor lectured according to his/her course syllabus.

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う    | I strongly agree;             |
| 4) そう思う      | I agree;                      |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない    | I disagree;                   |
| 1) 全くそう思わない  | I strongly disagree.          |

6. この授業の難易度はどうでしたか。

How difficult was this course?

- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 5) とても難しい | very difficult;       |
| 4) やや難しい  | relatively difficult; |
| 3) 適切     | appropriate;          |
| 2) やや易しい  | relatively easy;      |
| 1) とても易しい | very easy.            |

7. この授業の進行速度は適切でしたか。

What is your impression of the pace of instruction?

- |           |                 |
|-----------|-----------------|
| 5) 速すぎた   | too rapid;      |
| 4) やや速かった | a little rapid; |
| 3) 適切     | appropriate;    |
| 2) やや遅かった | a little slow;  |
| 1) 遅すぎた   | too slow.       |

8. 教員の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。

The instruction given in this class was easy to understand.

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う    | I strongly agree;             |
| 4) そう思う      | I agree;                      |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない    | I disagree;                   |
| 1) 全くそう思わない  | I strongly disagree.          |

9. 教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。

The textbooks or handouts were effective in understanding the subject matter.

- |                           |   |
|---------------------------|---|
| 5) 強くそう思う                 | I strongly agree;                                 |
| 4) そう思う                   | I agree;  |
| 3) どちらともいえない              | I neither agree nor disagree;                     |
| 2) そう思わない                 | I disagree;                                       |
| 1) 全くそう思わない               | I strongly disagree;                              |
| 0) この授業では教科書・配布資料を使用しなかった | The instructor did not use textbooks or handouts. |

10. 黒板やプロジェクター等の使い方は効果的でしたか。

The instructor used teaching aids (blackboard, overhead projector, etc.)

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| 5) 強くそう思う                    | I strongly agree;                             |
| 4) そう思う                      | I agree;                                      |
| 3) どちらともいえない                 | I neither agree nor disagree;                 |
| 2) そう思わない                    | I disagree;                                   |
| 1) 全くそう思わない                  | I strongly disagree;                          |
| 0) この授業では黒板・プロジェクター等を使用しなかった | The instructor did not use any teaching aids. |

11. この授業に対する担当教員の熱意が感じられましたか。

I felt the instructor's enthusiasm toward this course.

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う    | I strongly agree;             |
| 4) そう思う      | I agree;                      |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない    | I disagree;                   |
| 1) 全くそう思わない  | I strongly disagree.          |

12. 授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。

The instructor responded appropriately to my questions in and outside class.

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う    | I strongly agree;             |
| 4) そう思う      | I agree;                      |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない    | I disagree;                   |
| 1) 全くそう思わない  | I strongly disagree.          |

13. 補佐教員（助手、TA）のサポートは適切でしたか。

I thought the support of assistants (lecture assistants or teaching assistants) was appropriate.

- |                     |   |
|---------------------|---|
| 5) 強くそう思う           | I strongly agree;                       |
| 4) そう思う             | I agree;                                |
| 3) どちらともいえない        | I neither agree nor disagree;           |
| 2) そう思わない           | I disagree;                             |
| 1) 全くそう思わない         | I strongly disagree;                    |
| 0) この授業には補佐教員がいなかった | There were no assistants in this class. |

### C. 授業の成果に関する質問

Questions about the outcome of this course:

14. あなたは、この授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。

I think that I have achieved the course objectives.

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う    | I strongly agree;             |
| 4) そう思う      | I agree;                      |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない    | I disagree;                   |
| 1) 全くそう思わない  | I strongly disagree.          |



15. この授業の内容は興味深いものでしたか。

I found this course interesting.

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う    | I strongly agree;             |
| 4) そう思う      | I agree;                      |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない    | I disagree;                   |
| 1) 全くそう思わない  | I strongly disagree.          |

16. この授業の総合評価を5段階で評価してください。

Give an overall evaluation of the class.

- |              |            |
|--------------|------------|
| 5) とてもよい     | very good; |
| 4) よい        | good;      |
| 3) どちらともいえない | average;   |
| 2) 悪い        | bad;       |
| 1) とても悪い     | very bad.  |

17. この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)

What did you gain from this class? (multiple responses allowed)

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 5) 新しい知識・技能が身に付いた   | I gained new knowledge and skills;                             |
| 4) 新しいものの見方が身に付いた   | I gained a new perspective;                                    |
| 3) 関連分野をさらに学びたくなった  | My desire to study related fields grew stronger;               |
| 2) 問題発見・解決能力が付いた    | I acquired the ability to discover problems and to solve them; |
| 1) 人間形成に役立った        | The class helped build my character;                           |
| 0) コミュニケーション能力が向上した | My communication skills improved.                              |

自由記述回答      Written comments:

18. この授業の良かった点、改善すべき点等について書いてください。

What aspects of this class do you think were good / should be improved?

D. 担当教員による個別質問 (希望教員のみ)      Additional questions from the instructor:

19 ~ 31. 選択回答

32. 自由記述回答      Question from the instructor requiring written comment

○ 実施状況 (2016 年度)

| 学部・研究科等    | 前期                   |           |       |           |           |     | 後期        |           |       |           |           |     |        |        |
|------------|----------------------|-----------|-------|-----------|-----------|-----|-----------|-----------|-------|-----------|-----------|-----|--------|--------|
|            | 学部                   |           |       | 研究科       |           |     | 学部        |           |       | 研究科       |           |     |        |        |
|            | 対象<br>科目数            | 回収<br>科目数 | 実施率   | 対象<br>科目数 | 回収<br>科目数 | 実施率 | 対象<br>科目数 | 回収<br>科目数 | 実施率   | 対象<br>科目数 | 回収<br>科目数 | 実施率 |        |        |
| 青山キャンパス    | 青山スタンダード             | (専任)      | 112   | 110       | 98.2%     | -   | -         | -         | 108   | 101       | 93.5%     | -   | -      | -      |
|            |                      | (兼任)      | 366   | 335       | 91.5%     | -   | -         | -         | 343   | 285       | 83.1%     | -   | -      | -      |
|            | 文学                   | (専任)      | 92    | 87        | 94.6%     | 16  | 8         | 50.0%     | 158   | 142       | 89.9%     | 15  | 6      | 40.0%  |
|            |                      | (兼任)      | 174   | 168       | 96.6%     | 5   | 0         | 0.0%      | 298   | 272       | 91.3%     | 3   | 0      | 0.0%   |
|            | 教育人間科学<br>(研究科は心理のみ) | (専任)      | 24    | 23        | 95.8%     | 3   | 3         | 100.0%    | 34    | 27        | 79.4%     | 3   | 3      | 100.0% |
|            |                      | (兼任)      | 22    | 19        | 86.4%     | 0   | 0         | 0.0%      | 78    | 73        | 93.6%     | 0   | 0      | 0.0%   |
|            | 経済学                  | (専任)      | 87    | 84        | 96.6%     | 2   | 0         | 0.0%      | 89    | 83        | 93.3%     | 1   | 0      | 0.0%   |
|            |                      | (兼任)      | 29    | 27        | 93.1%     | 0   | 0         | 0.0%      | 112   | 97        | 86.6%     | 1   | 0      | 0.0%   |
|            | 法学                   | (専任)      | 63    | 62        | 98.4%     | 0   | 0         | 0.0%      | 57    | 52        | 91.2%     | 1   | 1      | 100.0% |
|            |                      | (兼任)      | 22    | 21        | 95.5%     | 0   | 0         | 0.0%      | 30    | 28        | 93.3%     | 0   | 0      | 0.0%   |
|            | 経営学                  | (専任)      | 88    | 81        | 92.1%     | 8   | 4         | 50.0%     | 78    | 67        | 85.9%     | 4   | 3      | 75.0%  |
|            |                      | (兼任)      | 132   | 98        | 74.2%     | 5   | 1         | 20.0%     | 131   | 93        | 71.0%     | 4   | 4      | 100.0% |
|            | 国際政治経済学              | (専任)      | 92    | 81        | 88.0%     | 13  | 9         | 69.2%     | 90    | 63        | 70.0%     | 8   | 4      | 50.0%  |
|            |                      | (兼任)      | 150   | 123       | 82.0%     | 5   | 4         | 80.0%     | 142   | 98        | 69.0%     | 9   | 8      | 88.9%  |
|            | 総合文化政策学              | (専任)      | 33    | 30        | 90.9%     | 1   | 1         | 100.0%    | 37    | 36        | 97.3%     | 0   | 0      | 0.0%   |
|            |                      | (兼任)      | 37    | 32        | 86.5%     | 0   | 0         | 0.0%      | 38    | 36        | 94.7%     | 0   | 0      | 0.0%   |
| 社会情報学      | (専任)                 | -         | -     | -         | 3         | 3   | 100.0%    | -         | -     | -         | 1         | 0   | 0.0%   |        |
|            | (兼任)                 | -         | -     | -         | 1         | 1   | 100.0%    | -         | -     | -         | 2         | 0   | 0.0%   |        |
| 教職課程科目     | (専任)                 | 0         | 0     | 0.0%      | -         | -   | -         | 0         | 0     | 0.0%      | -         | -   | -      |        |
|            | (兼任)                 | 0         | 0     | 0.0%      | -         | -   | -         | 0         | 0     | 0.0%      | -         | -   | -      |        |
| 計          | (専任)                 | 591       | 558   | 94.4%     | 46        | 28  | 60.9%     | 651       | 571   | 87.7%     | 33        | 17  | 51.5%  |        |
|            | (兼任)                 | 932       | 823   | 88.3%     | 16        | 6   | 37.5%     | 1,172     | 982   | 83.8%     | 19        | 12  | 63.2%  |        |
| 相模原キャンパス   | 青山スタンダード             | (専任)      | 27    | 27        | 100.0%    | -   | -         | -         | 29    | 29        | 100.0%    | -   | -      | -      |
|            |                      | (兼任)      | 109   | 103       | 94.5%     | -   | -         | -         | 96    | 86        | 89.6%     | -   | -      | -      |
|            | 理工学                  | (専任)      | 155   | 152       | 98.1%     | 35  | 30        | 85.7%     | 166   | 157       | 94.6%     | 31  | 19     | 61.3%  |
|            |                      | (兼任)      | 91    | 87        | 95.6%     | 6   | 6         | 100.0%    | 91    | 86        | 94.5%     | 9   | 8      | 88.9%  |
|            | 社会情報学                | (専任)      | 71    | 64        | 90.1%     | 1   | 1         | 100.0%    | 81    | 76        | 93.8%     | 0   | 0      | 0.0%   |
|            |                      | (兼任)      | 40    | 36        | 90.0%     | 0   | 0         | 0.0%      | 34    | 29        | 85.3%     | 0   | 0      | 0.0%   |
|            | 地球社会共生学              | (専任)      | 51    | 46        | 90.2%     | -   | -         | -         | 38    | 31        | 81.6%     | -   | -      | -      |
|            |                      | (兼任)      | 33    | 28        | 84.9%     | -   | -         | -         | 17    | 13        | 76.5%     | -   | -      | -      |
|            | 教職課程科目               | (専任)      | 0     | 0         | 0.0%      | -   | -         | -         | 0     | 0         | 0.0%      | -   | -      | -      |
|            |                      | (兼任)      | 0     | 0         | 0.0%      | -   | -         | -         | 0     | 0         | 0.0%      | -   | -      | -      |
| 計          | (専任)                 | 304       | 289   | 95.1%     | 36        | 31  | 86.1%     | 314       | 293   | 93.3%     | 31        | 19  | 61.3%  |        |
|            | (兼任)                 | 273       | 254   | 93.0%     | 6         | 6   | 100.0%    | 238       | 214   | 89.9%     | 9         | 8   | 88.9%  |        |
| 合計         |                      |           | 2,100 | 1,924     | 91.6%     | 104 | 71        | 68.3%     | 2,375 | 2,060     | 86.7%     | 92  | 56     | 60.9%  |
| (マークシート)   | (専任)                 | 876       | 831   | 94.9%     | 82        | 59  | 72.0%     | 908       | 813   | 89.5%     | 63        | 35  | 55.6%  |        |
|            | (兼任)                 | 1,195     | 1,070 | 89.5%     | 22        | 12  | 54.6%     | 1,379     | 1,168 | 84.7%     | 28        | 20  | 71.4%  |        |
| (WEBアンケート) | (専任)                 | 19        | 16    | 84.2%     | 0         | 0   | 0.0%      | 57        | 51    | 89.5%     | 1         | 1   | 100.0% |        |
|            | (兼任)                 | 10        | 7     | 70.0%     | 0         | 0   | 0.0%      | 31        | 28    | 90.3%     | 0         | 0   | 0.0%   |        |

\* 実施率は小数点第2位以下を四捨五入した



## 5. 学生 FD スタッフの活動

学生FDスタッフ活動とは、学生が大学における授業改善のために行う諸活動を指す。本学では2011年度よりFD推進委員会の直下組織として学生FDスタッフの位置づけが確立され、学生の視点による教育の質の改善に取り組んでいる。本学の授業を「学生が本当に求める授業」にするため、さまざまな活動や企画を通して、学生視点で授業や教育のあり方を追求している。

具体的な活動としては、全学的なしゃべり場や学生FDスタッフと教職員との交流会を学内で開催している。学生・教員・職員の3者が集い、大学の授業改善について意見を交わすことで、学生にとって、また教職員にとって「個々が安心して教育目標に向かって取り組むことのできる環境作り」の実現を目指している。

学外においても、全国規模で開催される学生FDサミットにも例年参加し、他大学での学生FDスタッフ活動や教育改善への取組から学びを得て、その知識と経験を本学のFD活動に活かしている。

○ 2016 年度学生 FD スタッフ活動一覧

【学内におけるFD活動】

| 名称           | 内容   | 結果  |
|--------------|--|---|
| オフィスアワー設定の推進 | 教員のオフィスアワーの設定を推進する方策を提案する。                       | 次年度の「講義内容」作成依頼時に、各授業担当者へオフィスアワーの設定を促す文章の追加を大学事務局に提案し、実施された。                     |
| 学生アンケートの実施   | 学生ポータルサイトを利用したWEBアンケートを実施し、大学の改善に関する学生のニーズを調査する。 | 2017年1月11日～24日の期間にWEBアンケートを実施し、35件の回答が得られた。これらの回答を今後の学生FD活動を立案・実行していく際の参考資料とする。 |

【学外イベントへの参加】

| 名称            | 開催日                | 場所   | 対象     | テーマ                                 | 備考              |
|---------------|--------------------|------|--------|-------------------------------------|-----------------|
| 学生FDサミット2016夏 | 2016年9月6日(火)、7日(水) | 札幌大学 | 学生、教職員 | 僕たち私たちが考える理想の大学                     | 学生スタッフ1名、教員1名参加 |
| 学生FDサミット2017春 | 2017年3月2日(木)、3日(金) | 山口大学 | 学生、教職員 | Borderless Campus ～学びのフィールドはどこにある？～ | 教員1名参加          |

## 学生FDスタッフ活動報告書

( 学内イベント主催 ・ 学外イベント出席 ・ 出張報告 )

活動内容：「理想の大学・講義・学び」について他大学の学生FDスタッフとの意見交換  
 実施日時：2016年9月6,7日  
 実施場所：札幌大学  
 主催者：札幌大学 札大おこし隊  
 参加者：全国の各大学学生FDスタッフ又は教員総勢約200名  
 報告者：学生番号：12116446  
 経済学部 経済学科 1年 川端春音

### 開催目的・趣旨・イベント内容・感想等

目標：学生FDとしての学びと成長、個々の学生としての学びと成長を図ること  
 様々な交流を通して様々な価値観や考え方を学ぶこと

### イベントスケジュール

| 1日目 (9/6)    | 2日目 (9/7)     |
|--------------|---------------|
| 10:00 開会式    | 9:30 3講義目     |
| 12:00 シャベリ場  | 10:00 振り返りまとめ |
| 13:30 1講義目   | 11:00 卒業研究発表  |
| 14:30 学科別交流会 | 12:30 閉会式     |
| 15:30 2講義目   | 13:00 終了      |
| 17:30 中夜祭    |               |
| 19:00 終了     |               |

講義内容：学年ごとに教員1人学生6人のグループに分けて、学年ごとのテーマについてグループ単位でディスカッションを行い最終日に発表をした。

学年別テーマ：1 学年 学生FDの実践的方法について  
 2 学年 理想のカリキュラムについて  
 3 学年 地域連携と大学間連携について

私たちのグループは「理想の大学・理想の講義・理想の学び」について話し合った。「理想の講義、理想の学び、理想の学び」について話し合った。テーブルの上に大きな白紙の模造紙を置いてメンバーで読んで話し合いをし、まずそれぞれテーマについて自分が思うキーワードを付箋に書いて模造紙に貼っていく作業から始まり、「主体性」「主体性」「多様多様」「学生と教員の双方向性」「グローバル」「交流」「学生と教員との距離」「外向性」「他民族的」などのキーワードが出た。グループのメンバーはそれぞれ大学も違えば学部も違ったが、自分達の大学をより良いものにしていきたいという

## 学生FDスタッフ活動報告書

( 学内イベント主催 ・ 学外イベント出席 ・ 出張報告 )

志は同じで、どのグループのメンバーも献身的にグループワークに参加している印象があった。

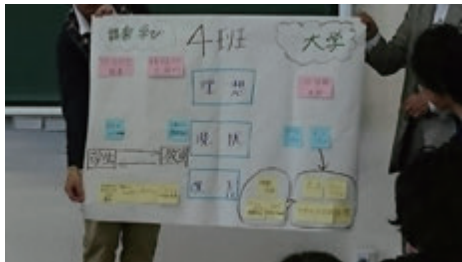


\*グループワークの様子

## 学生FDスタッフ活動報告書

( 学内イベント主催 ・ 学外イベント出席 ・ 出張報告 )

話し合いの結果、私たちのグループが考える理想の講義や大学とは「双方向的講義」「生徒の主体性や積極性を尊重した講義」で、理想の大学とは「価値観や視野の広げられる場所」ということとなった。そしてそれらの理想の大学を実現するために、「現状・原因・改善策」などを2日目の終わりにある発表に向けてまとめた。



\*発表用の模造紙



\*発表の様子

## 学生FDスタッフ活動報告書

( 学内イベント主催 ・ 学外イベント出席 ・ 出張報告 )

2日目の発表では1教室6グループに分けて互いの発表を聞いた。テーマは同じでも班が違えば主張も異なりまとめ方も違うので、自分たちの班では出なかった意見などが開けたのでとても勉強になった。多様な意見や考えが出るのは、参加者それぞれが異なった境遇で学生生活を送っているからだろうと思った。そして中には同じ課題を抱えている大学もいくつか出て、その課題に対してどのように対処しているかも聞くことができたので、今後の大学内でのFD活動にも役立てられそうだ。全てのグループの発表が終わって教室ごとの一番良い発表をしたグループがはっぴょうされて、私の所属したグループは1位になることができた。

### 今後の展望・出張で得た経験をどのように学内に還元していくか

私たち青山学院大学の学生FDスタッフは青山学院大学をより良くするために、日々諸課題に対してどう対処し改善していくかを考えています。しかしいつも同じメンバーで同じ課題について考えているのは、私たちが視野が狭まり考え方も凝り固まってしまうのではないかと感じています。しかし今回のイベントに参加したおかげで、他大学のFD活動の一端を知り、互いに意見を交換することができたので自分の視野も広がり、いつもとは異なる視点から課題に向かえるようになったと考えます。同じ課題を抱えている大学のスタッフには、その課題に対してどのようにアプローチしているか、具体的な実践方法も聞くことができたので、そういった事はすぐにでも実践できるので、すぐに還元できると感じます。そしてここで知り合ったスタッフの方々とはこれからも連絡を取り、大学間で連携してFD活動をしていけたらと考えています。

以上が報告になります。





## 6. 教育改善支援制度

本制度は、2009年度より「教育改善・教育プログラム支援制度」という名称で開始し、2015年度より名称を「教育改善支援制度」に変更し、FDならびにSD推進の一環として始まった制度である。

この制度は、学内公募により、本学で行われる教育の質的向上をめざす取組みや新たな教育プログラムの開発を支援することにより、教育の改善・改革を進めることを目的としている。教員からの学部・学科や研究科単位での申請や、職員からの所属部・課単位での申請、あるいは青山スタンダード教育機構や各種センター、委員会での申請といった教職協働、学部横断的なグループを単位とし、採択されたプログラムに対して予算補助を行っている。



## ○ 実施概要

### 【実施の目的】

本学の教育現場において実践され、成果を得られるような「教育内容の質的改善」や「教育プログラムの導入・実施」などの取り組みが期待される。また、得られた成果は全学で共有し、発展的に活用するとともに、将来的には学外GPなどへの発展によって、本学の社会的評価が高められるような取り組みが期待される。

### 【採択件数】 2～4件程度

### 【予算配分予定額】 総予算500万円（上限額）

用途について

- ※ 懇親会等での飲食代としての使用は不可
- ※ 物品購入費としての使用は、できる限り避けること
- ※ 同テーマの助成金との併用は認めない

### 【申請グループ・単位の考え方について】

申請の単位は、学部・学科、研究科など既存の組織に限定せず、教員や職員、学部・学科等を横断したグループでも可能である。ただし、本制度の目的を「本学で行われる教育の質的向上をめざす取り組みや新たな教育プログラムの開発」としているため、学外者は含めない。

### 【プログラムの採択・予算配分額の審査および実行後の評価】

大学執行部が選定した、約3名程度の他大学の高等教育の専門家等からなる外部評価委員が、プログラムの採択、予算配分額の審査、及び実施後の評価を執り行う。

### 【審査の基準】

- ・本制度の目的にふさわしい企画であること
- ・実効性をもち目標を達成する可能性があること
- ・本学の特徴を生かした企画であること
- ・予算的に妥当な計画であること 等

### 【採択後の義務】

- 期限内に定められた報告書を提出すること
- 成果について学内発表する機会を設けること
- ホームページ、刊行物によって成果を公表すること

### 【スケジュール】

- |                        |  |
|------------------------|--|
| 2016年3月14日（月）          | 募集開始   |
| 2016年4月22日（金）          | 応募締切   |
| 2016年4月25日（月）～5月16日（月） | 評価委員会による審査・配分額の査定                                |
| 2016年5月下旬              | プログラム代表者へ採用・不採用の連絡<br>採用の場合は決定配分額の連絡、各プログラムの活動開始 |
| 2017年2月28日（火）          | 活動終了、各プログラムより活動報告書及び決算報告書の提出                     |
| 2017年3月中～下旬            | 評価委員会による活動成果の審査及び結果講評                            |
| 2017年5月31日（水）          | 各プログラムの成果報告会を開催し、取り組み内容を公表                       |

○ 2016年度 「教育改善支援制度」 採択事業一覧

|         |   |
|---------|---|
| 代表者氏名   | 稲積 宏誠(社会情報学部 社会情報学科)  |
| 事業計画テーマ | 学生意識調査の有効活用に向けて   |
| メンバー    | 寺尾 敦  |
| 支援金額    | 1,200,000円  |
| 採択理由    | 4年間にわたる学生の実態に関する意識調査のデータ分析および試行テストもなされている。データマイニングの手法もあらかじめ検討されており、目的達成の可能性も期待できる。まず社会情報学部での実績を踏まえた上で、全学への波及効果を期待する。ただし、学生アルバイトの時間数とスケジュールを適切に調整されたい。   |
| 結果コメント  | 大学の持つ教育力の程度や学生の学業・生活の現況を読み取ることができ、今後の教育改革に生かすことのできる成果が得られたと考えられる。これらは社会情報学部の独自の結果であるが、他の学部におけるFDや教育改善の参考となることを期待したい。<br>採択理由欄で期待した「スケジュール調整」については、学生の卒業研究とのからみでプロジェクトの開始が遅れ、遅延をきたすことになったのは残念であった。<br>なお、決算額が当初の申請予算額を大幅に下回っており、予算執行に課題を残すことになった。特に人件費については、学生アルバイトの時間数等、月締めで報告することが望ましかった。<br>さらに学生自身が学生意識調査のデータを扱うというIRにおいて、倫理的な問題をどの程度管理できていたのかを明確にしてほしかった。 |
| 代表者氏名   | 小松 靖彦(文学部 日本文学科)  |
| 事業計画テーマ | 留学生のための日本文学・日本文化の独自テキストの製作  |
| メンバー    | 廣木 一人、佐伯 真一、山下 喜代、西本 あずさ、澤田 淳、遠藤 星希   |
| 支援金額    | 1,500,000円  |
| 採択理由    | 従来の授業の中で蓄積してきた教育内容を基に、独自の日本文化を紹介するテキストを製作するテーマであり、実現可能性も高い。<br>7名のプロジェクトメンバーによる協働によって、よい成果が得られることを期待する。<br>他学部在籍する留学生にも利用されることを視野に入れており、全学的な波及効果は高いと思われる。<br>プロジェクトの内容を反映した予算を計上しており、適切に執行されることを期待する。   |
| 結果コメント  | 予算の執行を含め、適切に事業展開がなされており、本制度の趣旨に合致していると高く評価できる。多様なバックグラウンドをもつ教員間の意見交換を通して、丁寧に議論を重ね、実質的な成果としてテキストが完成したと考えられる。<br>ただし申請時点での発行部数に比べて、成果物としては部数、ページ数ともに限られてしまったのは残念である。<br>今後はすみやかに、より国際交流に資するような教科書として出版してほしい。その際、教科書の体裁としては、より読みやすく、使いやすく、運びやすいものを期待したい。   |
| 代表者氏名   | 佐藤 剛(庶務部 経理課)   |
| 事業計画テーマ | ラーニングコモンズがグローバル化に向けた教職員共同のPDプログラムの構築と評価   |
| メンバー    | 野末 俊比古、西村 香、大足 恭平、丸山 広、神戸 勉、永作 綾、山東 亜希子、藤森 公夫   |
| 支援金額    | 1,300,000円  |
| 採択理由    | 昨年度からの継続的なテーマであり、事務職員と教員の共同プロジェクトとして、本制度の目的にふさわしい。<br>ただし、私立大学等改革総合支援事業とのすみわけ、ならびに他大学調査費用についての根拠等の説明は必要である。<br>さらに、両プログラム間の関連性ならびに共同のあり方について、より説明がほしい。英語力向上プログラムの実績を積み重ねた上で、大学からの経常的な費用を援助してもらいたい。  |
| 結果コメント  | 前年度からの継続的なプログラムであり、大学運営における職員の連帯感の醸成も得られており、予算も順調に執行されたと評価できる。図書館およびラーニングコモンズに関しては、他大学の良い点と課題点を客観的に評価し、本学の地理的環境及び学生の学習環境も配慮して「あるべき姿」を分析している。また、アカデミックライティングセンターの開設とも関連付けて、利活用の活性化につながる取り組みとなった。<br>職員の英語力向上プログラムにおいては、各個人の向上心を刺激し、うまくプログラムが作動したと評価できる。<br>なお、教職員共同の視点においては、両者が連携している様子をより具体的に活動報告書に明記してほしい。   |
| 代表者氏名   | DHORNE France(文学部 フランス文学科)  |
| 事業計画テーマ | 全身で覚えるフランス語   |
| メンバー    | ADAMI Sylvain   |
| 支援金額    | 500,000円  |
| 採択理由    | 口頭表現にかかるフランス語学習のための新たな映像教材を開発し、文章表現学習との連携を図る作業は学生のフランス語習得に有用な実践と考える。<br>ただし、本年度は何を何処まで如何に達成するかを明示してほしい。<br>たとえば、システム開発の根幹になる基本活動と、実装に特化した活動とを分けてプロジェクト計画を推進するなどの工夫を期待する。そこで初年度は基本活動に特化し、予算は具体的な活動に合わせて適切に執行されたい。  |
| 結果コメント  | 申請辞退  |

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

## 学生意識調査の有効活用に向けて

大学・学部として取り組む意味  
学生が分析にかかわることの意味

小さなことからコツコツと  
青山学院大学社会情報学部 稲積宏誠 寺尾敦

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

## 学生意識調査から見える社会情報学部入学生の実態

青山学院に入りたかっただけ？

何を学ぶ？  
学ぶ目的は不明瞭

積極的に英語を学ぶつもりは…

2010年度、2011年度学生意識調査 (1年4月実施)

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

## 学部設置当初から学生意識調査を活用：そのポイントは何か

- 個別の質問項目への回答は正しいとしよう
- 一つ一つの集計結果は学部・学科の特徴を表しているが、一人一人の学生は、いったい何を考えているのだろうか
- 学生一人一人の行動をタイプ別に推測：回答の組み合わせから => それぞれのタイプごとに学生は学部は何を求め、どう評価しているのかを推測する
- 学部・教員側の意図は伝わっているのか 学生の受け止め方との間にギャップはあるのか これらについて継続的に検証を続ける
- とはいってもいまま自分たちが 何に課題を感じているのか 何を改善したいのか という問題意識がなければ分析する意味はない

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

## 学生意識調査からわかること：単純集計も侮れない

授業・カリキュラムへの不満(2つ選択)

困っていること

Q. 学部・学科を後輩へ勧めたいか  
とても勧めたい+まあ勧めたい(%)

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

## 単純集計からだけではわからないこと：じゃあクロス集計？

Q. 学部・学科を後輩へ勧めたいか  
とても勧めたい+まあ勧めたい(%)

勧めたいと思っている学生が少ないのはわかった。しかし

何に満足・不満？  
学生の意識の違いの要因は何？

どんな学生が勧めたいと思っているの？

どんな学生が勧めたくないと思っているの？

結局学部をどう評価しているの？

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

## そこでデータマイニング技術を使おう

ビッグデータ解析の技術は「データから見えることを見るかたちで表現」することができる  
ECサイトのレコメンデーション。。。  
クレジットカードの与信調査。。。

分析環境を構築するのは比較的容易  
フリーのツールを使いこなすことができる

理論の詳細にわたる理解より実践力育成に注力  
文系タイプの学生でも十分取り組むことができる

これが本プロジェクトスタートのきっかけ

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

### 社会情報学部学生の意識：その違いを生むポイントは何か

0：充実○+お勤め○  
1：充実○+お勤め×  
2：充実×+お勤め○  
3：充実×+お勤め×

なーんだ  
頑張って勉強して、  
数量・コミュニケーションスキル  
専門教育に取り組んで  
その意義を理解している学生は、  
充実○・お勤め○じゃないか

|   | スキル取得に対する満足度<br>(数値的スキル)<br>(コミュニケーションスキル) | 力を入れた取り組み<br>(専門的知識) | 身についた力に対する満足度<br>(社会的責任) |
|---|--|----------------------|--------------------------|
| 0 | ○  | ○                    | ○                        |
| 1 | ×  | -                    | -                        |
| 2 | ○  | ×                    | -                        |
| 3 | ○  | ○                    | ×                        |

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University 7

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

### 社会情報学部学生の意識：それぞれのグループの実態は①

0：充実○+お勤め○  
1：充実○+お勤め×  
2：充実×+お勤め○  
3：充実×+お勤め×

赤字：取り組んだ項目  
青字：取り組まなかった項目

| 前提条件         |                      |
|--------------|----------------------|
| 大学教育への総合満足度  | キャンパスの立地             |
| 大学教育への総合満足度  | 自己責任能力を身につける         |
| 大学教育への総合満足度  | 課題・レポートを提出する         |
| 大学教育への総合満足度  | Webサイトで情報を収集する       |
| 大学教育への総合満足度  | 自分について深く考えるようになった    |
| 大学教育への総合満足度  | 自分に対する甘さを知った         |
| 大学教育への総合満足度  | 自分で考えることのおもしろさを知った   |
| 大学教育への総合満足度  | 自分について考えることの大切さを知った  |
| 大学教育への総合満足度  | 新しい知識を吸収する楽しさを知った    |
| 課題・レポートを提出する | 自分の進路・キャリアを選択する力がついた |

0：充実○+お勤め○  
1：充実○+お勤め×  
2：充実×+お勤め○  
3：充実×+お勤め×

赤字：取り組んだ項目  
青字：取り組まなかった項目

| 前提条件            |                      |
|-----------------|----------------------|
| 友達との交流          | 資格取得のための勉強           |
| サークル活動          | 資格取得のための勉強           |
| サークル活動          | 教員との交流               |
| サークル活動          | 必要な学習や復習をしたうえで授業に臨む  |
| アルバイト           | 資格取得のための勉強           |
| 大学のイメージブランド     | 授業と将来を結びつけて考えるようになった |
| 教員との交流          | 資格取得のための勉強           |
| 授業内容について教員に質問する | 資格取得のための勉強           |
| インターネットで情報を収集する | 授業と将来を結びつけて考えるようになった |

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University 8

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

### 社会情報学部学生の意識：それぞれのグループの実態は②

0：充実○+お勤め○  
1：充実○+お勤め×  
2：充実×+お勤め○  
3：充実×+お勤め×

赤字：取り組んだ項目  
青字：取り組まなかった項目

| 前提条件                |                  |
|---------------------|------------------|
| 卒業論文・卒業研究           | サークル活動           |
| 授業・講座・問題解決力         | サークル活動           |
| 授業・講座・情報リテラシー       | サークル活動           |
| 社会の4-4や厳しさを知った      | サークル活動           |
| 入前に出ることが多ならなくなった    | サークル活動           |
| 留学に関する勉強            | サークル活動           |
| 海外留学をする             | サークル活動           |
| 公務員などの試験対策準備        | サークル活動           |
| 必要な学習や復習をしたうえで授業に臨む | サークル活動           |
| 必要な学習や復習をしたうえで授業に臨む | 満足度 就職課・キャリアセンター |

0：充実○+お勤め○  
1：充実○+お勤め×  
2：充実×+お勤め○  
3：充実×+お勤め×

赤字：取り組んだ項目  
青字：取り組まなかった項目

| 前提条件     |                      |
|----------|----------------------|
| サークル活動   | アルバイト                |
| サークル活動   | 資格取得のための勉強           |
| サークル活動   | 図書館を利用する             |
| サークル活動   | 社会の仕組みを知ることができた      |
| サークル活動   | 授業と将来を結びつけて考えるようになった |
| サークル活動   | 納得いくまで調べた姿勢が身についた    |
| アルバイト    | 資格取得のための勉強           |
| アルバイト    | 教科書以外の文献を読む          |
| アルバイト    | 授業と将来を結びつけて考えるようになった |
| 図書館を利用する | 授業と将来を結びつけて考えるようになった |

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University 9

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

### 社会情報学部の場合：分析結果と学部コンセプト

社会情報学部入学生：学部コンセプト、明確な目的意識をもって入学してきたわけではない  
将来展望：大学としてのポジショニング、学部のポジショニングの中で、漠然とした将来像

できること・やりたいこと・社会からの期待を理解する力 のいずれも認識が希薄

学生の望ましい  
キャリア形成の  
流れ

学部カリキュラムでこれを補う

授業は工夫・調整しつつ、カリキュラム自体は2012年度から新カリキュラムを展開

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University 10

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

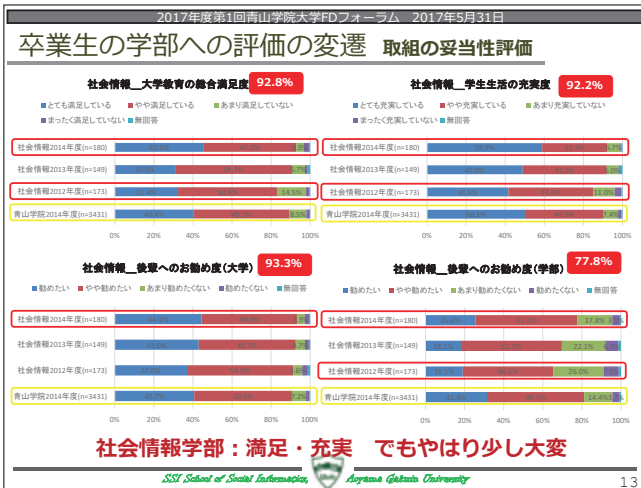
### 「学び」と「実践」をスローガンに = 必修はメッセージ

| 知識  | 基本知識①<br>『社会(経済)』                          | 基本知識②<br>『情報』                       | 基本知識③<br>『人間(心理)』               | 実践英語<br>【4技能】<br>※日本語禁止<br>※リスニング・スピーキング重視 |
|-----|--|-------------------------------------|---------------------------------|--|
| スキル | 日本語・文章力<br>【表現力の基礎】<br>『コミュニケーション基礎』       | プログラミング<br>【論理的思考力】<br>『コンピュータ実習』週2 | 統計<br>【問題解決のツールの入手】<br>『統計入門』週2 | 数学<br>【数式(4通読)と抽象化力】<br>『社会数理解』※2科目履修      |
| 意欲  | 『自身のテーマ(領域)を』考える【学びを意味づける力】<br>『ソリューション入門』 |                                     |                                 | 『イングリッシュコミュニケーション』                         |
|     | 『知識・スキルを』使う【学びを意味づける力】<br>『社会情報体験演習』       |                                     |                                 |  |

- 1年次の学部教育はほぼ必修のみ。
- 1年間で徹底的に、『できること』を増やすための初年次教育の徹底
- 少数の理系学生を除くはキツイ (3年まで再履修なども)  
※希望に応じた入門科目、個別指導などのフォロー体制はあり
- 学生に合わせて授業内での『学習意欲を高める工夫』は教員間で努力

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University 11

とはいっても  
やはり  
何か自信がもてるような  
実績がないと  
とてもじゃないけれど  
モチベーションは保てないでしょう



2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

### この展開を全学的に広げていきたい

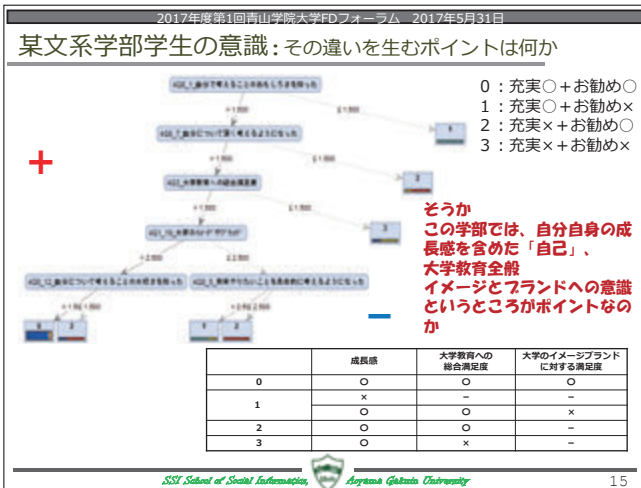
充実度とお勤め度の微妙な関係性については、すべての学部について同様の分析をすることができます

その結果は学部ごとに驚くほど異なっています

分析することで面白い結果を伝えることはできます

しかし、その結果をどう解釈しどう活かすかについて、分析者ではなく、たぶん大学・学部の当事者にしかわかりません

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University



2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

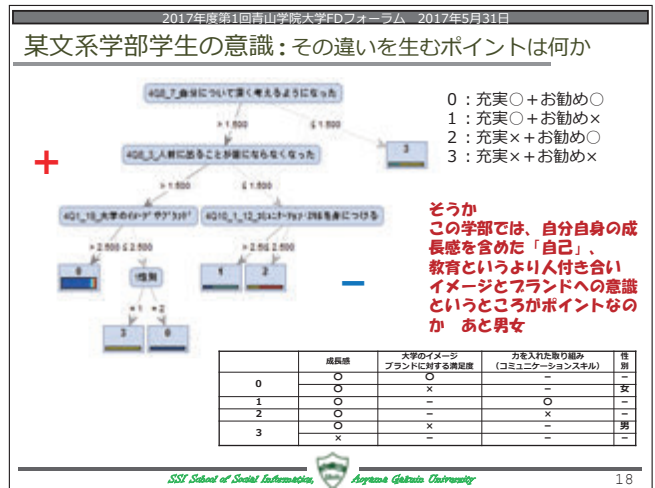
### 某文系学部学生の意識：それぞれのグループの実態は①

0：充実○+お勤め○  
 1：充実○+お勤め×  
 2：充実×+お勤め○  
 3：充実×+お勤め×

| 前提条件                 | キャンパスの立地            |
|----------------------|---------------------|
| 大学教育への総合満足度          | 自己責任能力を身につける        |
| 大学教育への総合満足度          | 課題レポートを提出する         |
| 大学教育への総合満足度          | インターネットで情報を収集する     |
| 大学教育への総合満足度          | 自分に対する甘さを知った        |
| 大学教育への総合満足度          | 自分について深く考えるようになった   |
| 大学教育への総合満足度          | 自分について考えることの大切さを知った |
| 大学教育への総合満足度          | 自分で考えることのおもしろさを知った  |
| 大学教育への総合満足度          | 新しい知識を吸収する楽しさを知った   |
| 自分の進路・キャリアを選択する力がついた | 課題レポートを提出する         |

| 前提条件                 | 教員との交流              |
|----------------------|---------------------|
| 大学教育への総合満足度          | 教員との交流              |
| 友達との交流               | 社会のルールや厳しさを知った      |
| 社会で活躍できる自信           | 社会のルールや厳しさを知った      |
| 人前に出ることが苦にならなくなった    | 社会のルールや厳しさを知った      |
| 自分の進路・キャリアを選択する力がついた | 社会のルールや厳しさを知った      |
| 授業・講義、論理観            | 文章作成能力を身につける        |
| 授業・講義、問題解決力          | 意思をきちんと相手に伝えるようになった |
| それ以外、自己管理能力          | 教科書以外の文献を読む         |
| 授業内容について教員に質問する      | 卒業論文・卒業研究           |
| 社会活動(ボランティア・NPOなど)   | 社会のルールや厳しさを知った      |

SSI School of Social Information, Aoyama Gakuin University





2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

### 某文系学部学生の意識:それぞれのグループの実態は①

0: 充実○+お勧め○  
1: 充実○+お勧め×  
2: 充実×+お勧め○  
3: 充実×+お勧め×

| 前提条件                   |                      |
|------------------------|----------------------|
| 大学教育への総合満足度            | きちんと挨拶するようになった       |
| 大学教育への総合満足度            | 積極的に参加する姿勢が身についた     |
| 大学教育への総合満足度            | 自分の進路・キャリアを選択する方がついた |
| 大学のイメージブランド            | 文章作成能力を身につけた         |
| キャンパスの立地               | きちんと挨拶するようになった       |
| 友達との交流                 | 積極的に参加する姿勢が身についた     |
| 友達との交流                 | 意思をきちんと相手に伝えるようになった  |
| 授業中に振る舞われなかったこともノートに取る | きちんと挨拶するようになった       |
| 授業中に振る舞われなかったこともノートに取る | 自分の進路・キャリアを選択する方がついた |
| 授業内容について教員に質問する        | 自分の進路・キャリアを選択する方がついた |

0: 充実○+お勧め○  
1: 充実○+お勧め×  
2: 充実×+お勧め○  
3: 充実×+お勧め×

| 前提条件                |              |
|---------------------|--------------|
| キャンパスの立地            | 教員との交流       |
| 友達との交流              | 教員との交流       |
| それ以外 社会的責任          | 教員との交流       |
| それ以外 コミュニケーションスキル   | 教員との交流       |
| 自分に対する甘さを知った        | 教員との交流       |
| 教科書以外の文献を読む         | 公務員などの試験対策準備 |
| 図書館を利用する            | コンピュータに関する勉強 |
| 授業内容について教員に質問する     | コンピュータに関する勉強 |
| 必要な学習や復習をしたうえで授業に臨む | コンピュータに関する勉強 |
| 授業内容について教員に質問する     | 教員との交流       |

SSI School of Social Information Systems, Aoyama Gakuin University 19

2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

### 某文系学部学生の意識:それぞれのグループの実態は②

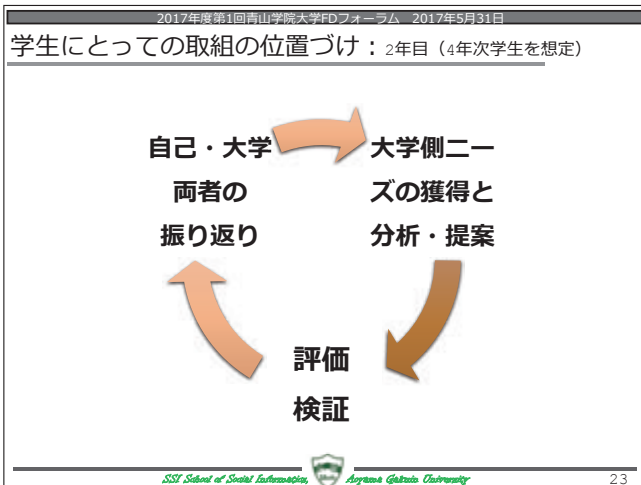
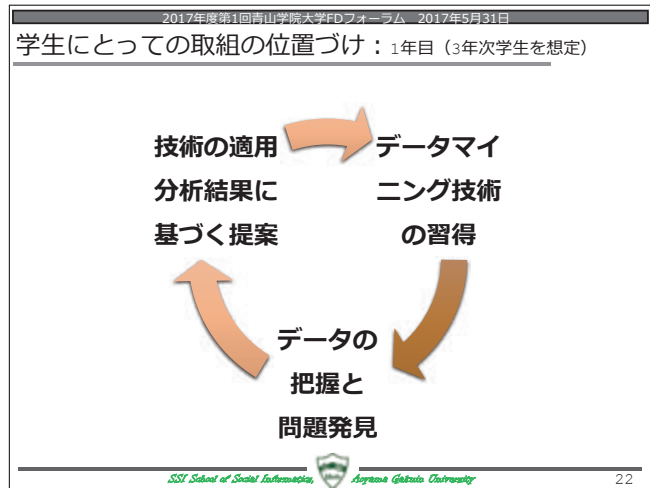
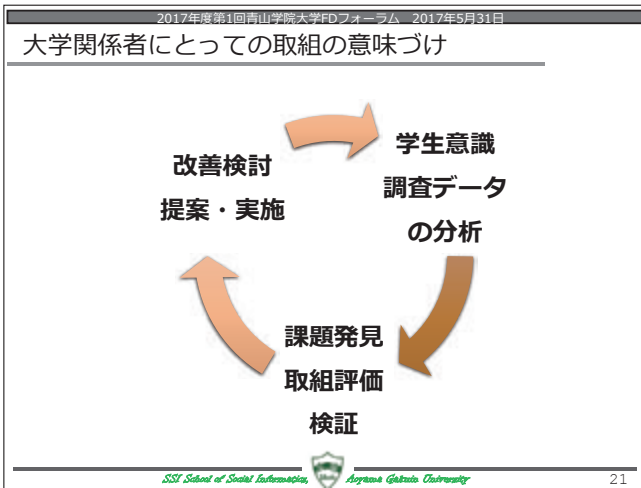
0: 充実○+お勧め○  
1: 充実○+お勧め×  
2: 充実×+お勧め○  
3: 充実×+お勧め×

| 前提条件                |            |
|---------------------|------------|
| 入試区分(一般入試)          | サークル活動     |
| 入学時の学部・学科の志望度(第1志望) | サークル活動     |
| 教員との交流              | 資格取得のための勉強 |
| 教員との交流              | サークル活動     |
| 資格取得のための勉強          | サークル活動     |
| コンピュータに関する勉強        | サークル活動     |
| 公務員などの試験対策準備        | サークル活動     |
| 海外留学                | サークル活動     |
| 授業内容について教員に質問する     | サークル活動     |
| 新聞の政治面、経済面、国際面等を読む  | サークル活動     |

0: 充実○+お勧め○  
1: 充実○+お勧め×  
2: 充実×+お勧め○  
3: 充実×+お勧め×

| 前提条件        |                    |
|-------------|--------------------|
| 大学教育への総合満足度 | 友達との交流             |
| 大学教育への総合満足度 | 就職活動               |
| 大学教育への総合満足度 | 授業・講座、論理的思考力       |
| 大学教育への総合満足度 | 社会の仕組みを知ることができた    |
| 入学時の大学の志望度  | 友達との交流             |
| 入学時の大学の志望度  | アルバイト              |
| 入学時の大学の志望度  | コミュニケーションスキルを身につける |
| 友達との交流      | 卒業論文・卒業研究          |
| 友達との交流      | 授業・講座、数量的スキル       |
| 友達との交流      | 社会で活躍できる自信         |

SSI School of Social Information Systems, Aoyama Gakuin University 20



2017年度第1回青山学院大学FDフォーラム 2017年5月31日

### 昨年度の取り組み例: 3年次事例(自分たちの問題意識)

大学のおかげで就活に成功した人と社会的強みにはどんな関係性が見られるのか

大学生活を通じてどのような環境・要素が成長に影響を及ぼすか

英語学習の取り組みの違いはその他の学生生活とどのような関係にあるのか

社会情報学部への適応要因

SSI School of Social Information Systems, Aoyama Gakuin University 24

## 大学・学部が分析する意味、学生が分析する意味

- 現状での取り組みに対して課題・問題を感じている。  
問題を深掘りすることで解決のためのヒントを探る
- 現状の取組が妥当か気になる。学生の反応をデータから取組がどのように受け止められているか読み取る

ということは

大学・学部の問題意識がなければ分析の意味はない

- 学生にとって、自分たちのデータには臨場感がある  
自分たちの本音、いい加減さも見えてくるので、  
自分を見つめるきっかけをつくることができる
- 実データとしての持ち味がデータ分析技術を磨く  
そこそこビッグデータ、不完全・不十分データ、4年間継続して収集

学生目線での

分析技術に基づく課題発見に関する恰好のテーマ

1

**留学生のための日本文学・  
日本文化の独自テキストの  
製作**

**教育改善支援制度・成果報告**

2017.5.31  
佐伯眞一

2

**参加メンバー**

- ・(代表)小松靖彦 日本文学教授(2017年度前期在外研究)
- ・(副代表)廣木一人 日本文学教授(2016年度を以て定年)
- ・佐伯眞一 日本文学教授
- ・山下喜代 日本文学教授
- ・西本あづさ 英米文学教授
- ・澤田淳 日本文学准教授
- ・遠藤星希 日本文学助教(2016年度を以て退職)

3

**留学生のための日本文学テキスト**

- ・日本文学科:国際的な日本文学・語学研究を本来の理念とする。
- ・日本文学科における私費留学生の増加(現在定員5名だが、ここ数年、入学者数がこれを越えることが多い)。質的にもレベルアップ。
- ・「日本文学文化入門」(新入留学生のための科目)を2013年度設置。2013～2016年度、廣木一人教授が担当。
- ・従来、留学生に日本文学・文化を教えるためのテキストは見当たらない。独自に製作する必要。
- ・日本文学科の教員を中心に、プロジェクト・チームを編成、一年間で製作した。

4

**活動報告(1) 第1回会合**

- ・2016年6月15日(水)15:30～17:00
- ・基本趣旨説明
- ・情報交換:留学生の現状、留学生用教科書の現状
- ・ワークショップ開催に向けて討論
- ・テキストの目次案(原案=たつき台)作成

5

**活動報告(2) 第二回会合**

- ・2016年8月3日(水)16:00～18:00
- ・独自テキストのコンセプト制定
- ・目次案の細目検討、執筆者の決定
- ・ワークショップ開催に向けて、具体案の決定

6

**活動報告(3) 公開ワークショップ「海外の大学における日本文学教育の現状と提言」2016年10月1日(土)13:00～18:00**

- ・〈第一部〉13:10～15:10 [各大学における日本文学教育の現状と提言]
- ・「ウズベキスタンの大学における日本文学教育の現状と提言」(ハルミルザエヴヴァ・サイダ氏)
- ・「タイ国チュラーロンコーン大学における日本文学教育の現状と課題」(メータセート・ナムティップ氏)
- ・「スロベニア・リュブリャナ大学における日本文学教育の現状と課題」(アンドレイ・ベケシュ氏)
- ・〈第二部〉15:30～18:00 [独自テキスト製作のための提言と討論会]
- ・澤田淳准教授:川端康成「伊豆の踊子」を材料に「参与者追跡」の分析など。
- ・ポニー・マックルアー(日専攻大学院生):ワシントン大学の日本文学教育

7

**ワークショップ  
ポスター**


8

**「ウズベキスタンの大学における日本文学教育の現状と提言」(ハルミルザエヴヴァ・サイダ氏)**

- ウズベキスタンにおける日本文学教育の現状
- (提言)
- 古典については文法の解説が必要。
- 古典文法の解説は例文が多い方がよい。




9 「タイ国チュラーロンコーン大学における日本文学教育の現状と課題」(メータセート・ナムティップ氏)



- タイにおける日本文学教育の現状
- (提言)
- 映画・ドラマなどの映像も「翻訳」として教材に利用できる。
- 教材に関して異なる理解を出し合う、アクティブ・ラーニングも有効

10 「スロベニア・リュブリャナ大学に於ける日本文学教育の現状と課題」(アンドレイ・ベケシュ氏)



- スロベニアにおける日本文学教育の現状
- (提言)
- 日本文学についての鳥瞰図を示すことが必要。
- 「ことば遊び」など、生の日本語に接するようにする(例えば、谷川俊太郎の「ことば遊び歌」。また、言葉についても)。
- 坪田謙治の日本の民話も教材として有効。
- 教室内と教室外の教育を連携させる(映像鑑賞、体験、文学散歩など)。

11 活動報告(4)ワークショップに続く編集会議

- 2016年10月2日(日) 13:00~15:00
- 2017年1月31日を原稿締切とした。
- 目次案は2回会合の案のままとして、ワークショップにおける3氏の提言を、本文中で活かすこととした。
- 「留学生のための日本文学・日本文化の独自テキスト執筆要領」を作成(基本方針から表記の細則まで)。
- 日本近代文学関係の項目については、メンバー外の帆苅基生氏(関東学院大学非常勤講師)に執筆を依頼。

12 活動報告(5)テキストの作成

- 2017年1月までに原稿を小松教授のもとに集め、編集。
- 2月中旬に入稿。
- 見積もり時の提示条件:A4判、120頁(そのうちカラー10頁)、ピニールコーティング・カラー表紙、無線綴じ、150部。

13 活動報告(6)テキストの刊行

- 2月28日(火)納品。
- 実際に入稿した原稿は、本文86頁、カラー図版8頁(本文とカラー図版の間に図版一覧表裏2頁)、総計96頁。
- 申請書では200部印刷を予定していたが、今後、授業での使用を経て改訂を行う試作品であることを勘案し、150部印刷とした。

14 活動報告(7)反省会

- 2017年3月14日(火)17:00~18:30
- 完成したテキストについての討論
- 誤植の指摘(→とりえず、正誤表の作成へ)。
- 図版の質量不足、本文と組み合わせる編集技術。
- 年表・地図等、参考資料の不足。
- 「日本文化文学入門」での試用を経て、より良いものに改良してゆく方向性の確認。
- 教員自身による製作の限界と、市販製作の可能性。

1

## 2016年度 教育改善支援制度

**ラーニングコモンズやグローバル化に向けた教職員共同のPDプログラムの構築**

**第二期**

2

### プロジェクトメンバー

- 代表 佐藤 剛(庶務部経理課)
- 副代表 野末 俊比古(教育人間科学部)
- 西村 香(学術情報部図書課)
- 大足 恭平(情報メディアセンター)
- 丸山 広(情報メディアセンター)
- 神戸 勉(学務部国際交流課)
- 永作 綾(学務部国際交流課)
- 山東 亜希子(学術情報部語学学習課)
- 藤森 公夫(学術情報部情報学習課)

3

PD (PROFESSIONAL DEVELOPMENT)とは、専門的能力の開発である。

PDプログラムとは、**職能[専門的能力の]開発プログラムを言う**


- ・職能(大学に務める者。部署での特別な能力)
- ・職能訓練は時間がかかる。
- ・優先的に取り組むべき能力。

→  
教学の視点と事務の視点で、共同で職能開発

4

### ICTリプレースに伴うラーニングコモンズ環境の整備

- 青山キャンパス2号館・相模原キャンパスB棟での試み
- ・情報メディアセンターに隣接したラーニングコモンズの設置
- ・ICT環境に対応した什器・備品・TAの整備
- ・情報学習(教材やソフト)に精通した教職員と学生の接点



5

### CALL教室リプレースに伴う什器の選定

- 青山キャンパス15号館・相模原キャンパスB棟での試み
- ・固定型の3人机からグループワークに対応した1人机へ
- ・アクティブラーニングとしてのCALL教室へ



6

### 図書館およびラーニングコモンズ視察報告

- 立命館大学平井嘉一郎記念図書館
- 関西学院大学上ヶ原・三田キャンパスラーニングコモンズ
- 立教大学図書館(池袋図書館)
- 東北学院大学ラーニングコモンズ
- 東北大学附属図書館(本館)
- 金沢大学附属図書館(中央図書館・自然科学系図書館)
- 金沢工業大学ライブラリーセンター

第一期に7校、合計14校を視察

7

### 他大学の取り組み事例

1. 図書館に内包されたラーニングコモンズ  
立命館大学・立教大学・金沢大学・金沢工業大学

- ・学習教材とラーニングコモンズが接している環境
- ・とにかく金沢工業大学のコンセプトが日本一
- ・あえて順位をつけるなら、

1位金沢工業大学



8

### 他大学の取り組み事例

2位玉川大学



3位立命館大学



9

## 他大学の取り組み事例

### 2.図書館以外に設立されたラーニングコモンズ

関西学院大学・東北学院大学。東北大学

- ・大型ラーニングコモンズ設立で大学広報をアピール
- ・内容ではなく、学習時間や滞在時間の増加をターゲット
- ・新設らしい整った仕器と環境

東北学院大学 コラボリエ



東北大学



10

## 実は他大学も「うまくいっていない」

- ・その大学学部研究科の学生に合った学習習慣と施設環境がマッチしていない
- ・教育の主となる授業と教材・資料がマッチしていない
- ・利用人数や時間、学生の満足度などの指針・目標が設定されていない

→ラーニングコモンズは発展途上

11

## これからのラーニングコモンズの在り方

- ・教員と職員がその学部にあった学習スタイルを確立し、仕器等の環境を整える。
- ・学生との接点である教員が図書館資料を理解し、その活用を学生に広める。
- ・図書館およびラーニングコモンズの職員には一定の研修を課し、教育支援のプロフェッショナルとして育成する。
- ・図書館およびラーニングコモンズでの教育・学習活動に数値目標を設定し、常に新しい取り組みに挑戦する。
- ・教務や就職などの事務を図書館やラーニングコモンズの横に設置し、ワンストップ化を図る。
- ・人や資料との出会いの場であることを認識する。

12

## 新図書館への提案

新図書館の上層階に学部附属研究所と隣接したラーニングコモンズの設置を提案する。

- ・各学部にあった(学ばせたい)学習教材や資料がラーニングコモンズの近くにある
- ・教員が上層階に上がるまで、図書館での学習スタイルに触れることができる
- ・ラーニングコモンズを通し、学部と図書館が共同で学生の自学自習を考えるきっかけとなる

**学内に「らーこも」が点在し、  
図書館内に「らーこも」が点在する大学**

13

## 職員の英語能力向上プログラム

- ・ラーニングコモンズから発展した「アカデミックライティングセンター」設置
- ・早稲田大学ライティングセンター視察



14

## アカデミックライティングセンターへの提案

- ・場所 9号館1階図書館別館・元学務部分室
- ・人件費 助教枠2名及び派遣職員費用
- ・仕器 青山Cと相模原Cを見積もり

→ AOYAMA VISION 予算承認されました。

今後は、アカデミックライティングセンター  
開設準備委員会です！！

15

## 職員の英語力向上プログラム報告

コンセプトは、「いつでも・どこでも・トイレでも」

- ・外部試験の受検率 90%以上
- ・TOEIC600点以上 30.3%
- 400点～600点 41.4%
- まだまだ、英語学習の習慣は身についていない。

16

## 新しい2つの試み

### 1.オンラインによるスカイプ英会話

- ・4名が参加
- 満足している
- 都合の良い時間と場所で受講できる
- 半年以上が効果的
- 続けたい

17

学習意欲のある職員に  
2.海外エクステンションプログラム

- ・3名が参加
- 20万円の費用補助
- 3名ともがセブ島留学
- 英語で伝える力が求められる
- 貴重な体験だった



18

次に  
英語力向上プログラムが 2017年度から

あの、AOYAMA VISION案件

になりました。

⇒お金は、学院で確保



19

2年間を振り返って

2年目の採択決定時にコメントをいただきました。

それは、ラーニングコモンズと英語能力プログラムの2つのプログラムをどのように関連付けることができるかでした。

結果、2つのプログラムとも、それぞれ実績を上げることができました。そして、この二つのプログラムから、アカデミックライティングセンター構想が立ち上がり、今年9月から設置される運びとなりました。

松本さんを含め、このプログラムに携わった方々のおかげです。そして、2017年度も共に進みましょう。



20

ご静聴ありがとうございました





## 7. 学生意識調査

2010年度より学生の学習に対する期待や姿勢、大学における成長感等に関する調査を全学的に実施している。

## ○ 実施概要

### 【実施目的】

1年生（4月実施）

（学生にとって） 学生生活の目標設定・学びと進路のつながりを意識するきっかけとする。

（大学にとって） 新入生の現状把握。PDCAサイクルの起点のデータとする。

2年生（4月実施）

（学生にとって） 学生生活の振り返りをもとに、2年次以降の目標の再設定をするきっかけとする。

（大学にとって） 1年間の学生生活の満足度・成長感を把握し、教育改善につなげる。

3年生（4月実施）

（学生にとって） 就職活動のための自己分析のツール。結果を元に自己PRと志望動機の作成をする。

（大学にとって） 学生の満足度・成長感を把握し、教育改善につなげる。

4年生（3月実施）

（大学にとって） 4年間で学生が身につけた力・モチベーションの変化の把握、満足度・成長感を把握し、入学～4年間の総括データとする。

### 【実施方法】

1～3年生は4月、4年生は後期（12月～3月）に実施する。

マークシート調査方式によるアンケート調査で、設問内容は学年によって異なり、1・2年生は「学修成果」の調査と「学業及び学生生活に関するアンケート」、3年生は「基礎学力調査」と「学業及び学生生活に関するアンケート」を実施している。所要時間は約90分。

4年生は「学業及び学生生活における満足度調査」を調査内容としており、所要時間は約30分。4年生についてはWEBアンケート調査方式も並行して実施している。

### 【調査結果（学生）】

アンケート委託業者による回答の集計と分析をおこない、結果報告書として各学生（1～3年生）へフィードバックしている。前年以前に本調査を受検している場合は結果報告書に経年の変化が掲載される。また、結果報告書を用いた外部講師によるフォローアップ講座（進路指導）も実施している。

### 【調査結果（大学）】

調査結果を教授会等の場にて各学部へ報告し、学部運営の参考としている。また、事務職員を対象とした報告会を開催し、学院関係者で情報を共有している。

## ○ 実施状況 (2016 年度)

### 【1年生】

| 学部       | 学生数(2016/5/1) | 受検者数  | 受検率   |
|----------|---------------|-------|-------|
| 文学部      | 786           | 735   | 93.5% |
| 教育人間科学部  | 313           | 306   | 97.8% |
| 経済学部     | 553           | 511   | 92.4% |
| 法学部      | 512           | 491   | 95.9% |
| 経営学部     | 560           | 529   | 94.5% |
| 理工学部     | 648           | 632   | 97.5% |
| 国際政治経済学部 | 297           | 284   | 95.6% |
| 総合文化政策学部 | 283           | 255   | 90.1% |
| 社会情報学部   | 270           | 252   | 93.3% |
| 地球社会共生学部 | 256           | 242   | 94.5% |
| 合計       | 4,478         | 4,237 | 94.6% |

### 【2年生】

| 学部       | 学生数(2016/5/1) | 受検者数  | 受検率   |
|----------|---------------|-------|-------|
| 文学部      | 858           | 592   | 69.0% |
| 教育人間科学部  | 359           | 279   | 77.7% |
| 経済学部     | 640           | 255   | 39.8% |
| 法学部      | 542           | 222   | 41.0% |
| 経営学部     | 564           | 197   | 34.9% |
| 理工学部     | 622           | 327   | 52.6% |
| 国際政治経済学部 | 318           | 127   | 39.9% |
| 総合文化政策学部 | 262           | 108   | 41.2% |
| 社会情報学部   | 223           | 132   | 59.2% |
| 地球社会共生学部 | 214           | 173   | 80.8% |
| 合計       | 4,602         | 2,412 | 52.4% |

### 【3年生】

| 学部       | 学生数(2016/5/1) | 受検者数  | 受検率   |
|----------|---------------|-------|-------|
| 文学部      | 765           | 456   | 59.6% |
| 教育人間科学部  | 342           | 234   | 68.4% |
| 経済学部     | 541           | 138   | 25.5% |
| 法学部      | 487           | 206   | 42.3% |
| 経営学部     | 512           | 153   | 29.9% |
| 理工学部     | 797           | 418   | 52.4% |
| 国際政治経済学部 | 300           | 127   | 42.3% |
| 総合文化政策学部 | 273           | 86    | 31.5% |
| 社会情報学部   | 227           | 136   | 59.9% |
| 総計       | 4,244         | 1,954 | 46.0% |

### 【4年生】

| 学部       | 学生数(2016/12/1) | 受検者数  | 受検率   |
|----------|----------------|-------|-------|
| 文学部      | 780            | 613   | 78.6% |
| 教育人間科学部  | 311            | 243   | 78.1% |
| 経済学部     | 560            | 376   | 67.1% |
| 法学部      | 558            | 296   | 53.0% |
| 経営学部     | 578            | 389   | 67.3% |
| 理工学部     | 573            | 414   | 72.3% |
| 国際政治経済学部 | 340            | 238   | 70.0% |
| 総合文化政策学部 | 289            | 225   | 77.9% |
| 社会情報学部   | 232            | 180   | 77.6% |
| 文学部第二部   | 4              | 0     | 0.0%  |
| 経営学部第二部  | 1              | 0     | 0.0%  |
| 合計       | 4,226          | 2,974 | 70.4% |





## 8. FD講演会

本学でFD講演会は、年間で前期・後期各1回、計2回開催している。

前期は、岡山大学 全学教育・学生支援機構 鄭幸子先生を講師としてお迎えし「大学のグローバル化と教育改革：日米の大学での勤務経験と国際プログラム立ち上げからの一考察」と題して、「岡山大学グローバル・ディスカバリー・プログラム」についてのご講演と、参加者の講演に対する質問をとおして、「アクティブラーニング」方式で講師と参加者双方で、授業内の問題点解決への討論が行われた。

後期は、ソーシャルメディアの普及による、学生、大学関係者を取り巻く環境の変化について理解を深めるため、情報メディアセンターとの共催により、FD・SD研修会とし「学生の厚生補導」を情報メディアセンター、大足恭平先生にご講演をお願いした。

参加者のアンケートからは、「炎上の仕組みが分かった」、「SNSについて、歴史、炎上のメカニズムまで、とてもわかりやすいご説明で大変勉強になった」、「継続的に実施したいテーマだと思った」などの意見が寄せられた。

## ○ 青山学院大学 2016 年度 第 1 回 FD 講演会 次第

日 時 6月29日（水）14：30～16：00  
場 所 第19会議室（青山キャンパス 総研ビル11階）  
司会進行 全学FD委員会 委員 米山 淳 教授

### 1. 開会祈祷

大学宗教部長 伊藤 悟 教授

### 2. 開会挨拶

全学FD委員会委員長  
副学長 田中 正郎 教授

### 3. 講演

「大学のグローバル化と教育改革：日米の大学での勤務経験と国際プログラム立ち上げからの一考察」

講師 鄭 幸子先生（岡山大学 全学教育・学生支援機構 准教授）

### 4. 質疑応答と意見交換

### 5. 閉会挨拶

全学FD委員会委員長  
米山 淳 教授

#### 講師プロフィール

鄭 幸子氏

岡山大学 全学教育・学生支援機構 准教授

#### 【略歴】

UCLA文化人類学でPh.Dを取得。

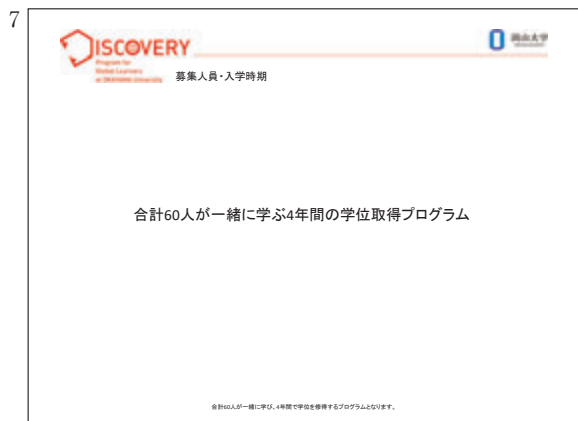
Colorado College、Harvard Universityにてポスドク研究員の後、Hamilton Collegeにて助教授、Smith Collegeにて客員助教授を経て

現在、岡山大学Discovery Program for Global Learners担当准教授（現職）

#### 【研究分野】

移住労働、感情労働に関する研究、大学のグローバル化、教育改革。

以上



9

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at Shizuoka University

募集人員・入学時期

ディスカバリー入試で合格

春入学

入学時期  
4月

国内の高校を向けに実施するディスカバリー入試で合格した場合は、春入学となります。第1課金の受け入れは2024年4月です。

10

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at Shizuoka University

募集人員・入学時期

プログラム全体の共通言語は英語



入学時点で一定レベルの英語力が必要

プログラムの全体的な共通言語は英語です。  
1年次の履修が可能なように、入学時点で一定レベルの英語力を持っている必要があります。

11

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at Shizuoka University

募集人員・入学時期

入学前教育  
+

入学後も、英語力をアップするための授業科目を用意




そのため、合格後の入学前教育でも英語力アップのための授業科目、入学後もさまざまな授業科目を用意します。

12

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at Shizuoka University

カリキュラム

専門的知識を身につけ、グローバルな課題解決に向けて行動できる人材を育てる



このプログラムでは、専攻専攻から集まった留学生・帰国生と一緒に、多様な背景と経験を持つ学生たちが協力し、ともに学ぶ姿勢を大切にしています。また、高専の学習スタイルに合わせた、履修の早い段階でチームワークを重視して専門的知識を身につけ、グローバルな課題解決に向けて行動できる人材を育てます。

13

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at Shizuoka University

カリキュラム

1年次

言語教育、英語教育  
ディスカバリー共通科目

2年次以降は、アカデミックアドバイザーの指導の下に「専攻・専攻専攻型マインディング」に専攻が選択する科目履修。

1年次は、教養教育科目の中に、英語と日本語を履修して、学生相互の学び合いや多様な文化の理解につながる少人数クラスの授業や、グローバルに活躍するための基礎となる英検を身につける科目を履修します。

14

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at Shizuoka University

カリキュラム

1年次 2年次 3年次 4年次

言語教育、英語教育  
ディスカバリー共通科目

2年次 専攻・専攻専攻型マインディング(注)に専攻が選択する科目履修

3年次 専攻・専攻専攻型マインディング(注)に専攻が選択する科目履修

4年次 専攻・専攻専攻型マインディング(注)に専攻が選択する科目履修

2年次以降は、アカデミックアドバイザーの指導の下に「専攻・専攻専攻型マインディング」に「ディスカバリー専攻」のどちらかの1年次以降に、自分で組み立てた履修プログラムを通じて専門的知識や技能を修得します。

15

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at Shizuoka University

カリキュラム

1年次 2年次 3年次 4年次

言語教育、英語教育  
ディスカバリー共通科目

2年次 専攻・専攻専攻型マインディング(注)に専攻が選択する科目履修

3年次 専攻・専攻専攻型マインディング(注)に専攻が選択する科目履修

4年次 専攻・専攻専攻型マインディング(注)に専攻が選択する科目履修

2年次以降は、アカデミックアドバイザーの指導の下に「専攻・専攻専攻型マインディング」に「ディスカバリー専攻」のどちらかの1年次以降に、自分で組み立てた履修プログラムを通じて専門的知識や技能を修得します。

16

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at Shizuoka University

カリキュラム

1年次 2年次 3年次 4年次

言語教育、英語教育  
ディスカバリー共通科目

2年次 専攻・専攻専攻型マインディング(注)に専攻が選択する科目履修

3年次 専攻・専攻専攻型マインディング(注)に専攻が選択する科目履修

4年次 専攻・専攻専攻型マインディング(注)に専攻が選択する科目履修

2年次以降は、アカデミックアドバイザーの指導の下に「専攻・専攻専攻型マインディング」に「ディスカバリー専攻」のどちらかの1年次以降に、自分で組み立てた履修プログラムを通じて専門的知識や技能を修得します。

17

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at THE UNIVERSITY OF YAMAGUCHI

カリキュラム

自分の志望するテーマにふさわしい教員の指導を受けて取り組む

でもむづい、自分の志望するテーマにふさわしい教員の指導を受けて取り組みます。

18

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at THE UNIVERSITY OF YAMAGUCHI

カリキュラム

2年次以上に選択する履修トランプは以下のとおりです。

19

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at THE UNIVERSITY OF YAMAGUCHI

二つの履修パターン

①「学部・専科履修型マインディングトランプ」は、岡山大学にすでにありマインディングトランプの学修スタイルを踏襲したものです。

20

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at THE UNIVERSITY OF YAMAGUCHI

二つの履修パターン

このトランプでは、マインディングトランプは専修の履修を受けながら、一人ひとりの学生が、勉強したいテーマや将来の志望に即した科目を選択します。

21

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at THE UNIVERSITY OF YAMAGUCHI

二つの履修パターン

さまざまな学部の履修を自由に組み合わせることで履修することができます。ただし、卒業要件は、自分ですべてこなさなければならない履修の履修を受けながら、科目選択の際には、その分野に必要な知識を身につけることが求められます。

22

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at THE UNIVERSITY OF YAMAGUCHI

二つの履修パターン

ディスタバリー専修トランプの場合は、プログラムの専任教員が中心となって履修する科目を履修します。基本的には履修が行われます。

23

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at THE UNIVERSITY OF YAMAGUCHI

二つの履修パターン

クラスターと称している複数の科目群があり、それぞれ環境科学系、経済系、人文系に対応しています。

24

ISCOVERY  
Program for  
Global Learners  
at THE UNIVERSITY OF YAMAGUCHI

身につける力・出口

これらのタイプの履修パターンを選んだ場合でも、このプログラムを通じて身につける力は、

25

ISCOVERY  
Program for  
Global Leaders  
at Keio University

身につける力・出口

- 幅広い豊かな教養、自ら課題を発見する力
- 自ら発見した課題の解決に必要な専門知識、調査手法
- 情報を収集する力、多角的・創造的に分析する力と社会に向けて的確な情報を効果的に発信する力
- 多文化環境に適応できる感性と語学力

26

ISCOVERY  
Program for  
Global Leaders  
at Keio University

身につける力・出口

DIVERSITY and SOCIAL INNOVATION for GLOBAL SUSTAINABILITY

27

ISCOVERY  
Program for  
Global Leaders  
at Keio University

身につける力・出口

地球の持続可能性のための多様性と社会イノベーション

28

ISCOVERY  
Program for  
Global Leaders  
at Keio University

身につける力・出口

世界の人々の多様なプログラムでありながら、そこには、さまざまな国から学ぶ留学生や研究者、そして日本国内の高校で学んできた学生のみなさんがいます。多様な学生、教授陣、研究者、職員が切磋琢磨して育つ国際的な教育環境が、あなたに必要です。

29

ISCOVERY  
Program for  
Global Leaders  
at Keio University

身につける力・出口

卒業生が活躍する場として形作られているのは、グローバル展開している各業の企業、国際機関、NPO、投資・コンサルティング会社、あるいは国内外の大学院などですが、最も広範な学生を輩出してきてほしいと考えています。さまざまな夢を持った学生たちが集ってくださることを願っています。

30

ISCOVERY  
Program for  
Global Leaders  
at Keio University

入試の方法

10月  
下旬

国内の高校生  
ディスカバリー入試

ディスカバリー入試とディスカバリー入試(英語特選型)は、11月6日(GAO入試)と2019年10月下旬に実施します。入学は2019年4月となります。

31

ISCOVERY  
Program for  
Global Leaders  
at Keio University

入試の方法

ディスカバリー入試(募集人員25人)の試験内容

ディスカバリー入試(募集人員25人)の募集、2回期にわたって実施されます。

32

ISCOVERY  
Program for  
Global Leaders  
at Keio University

入試の方法

《1日目》

書類審査  
(自己推薦書、調査書)

はじめに書類審査(自己推薦書、調査書等)があります。志願者が一定の得点を記入した場合、書類審査による第一次選考が行なわれます。

33

**ISCOVERY**  
Program for  
Global Leaders  
at Shikoku University

入試の方法

1日目

書類審査  
2024年11月15日

2024年11月17日  
レポートA

2024年11月18日  
レポートB

1日目は、2種類の課題を配り、レポートを作成します。課題とレポートは、選考による順番を配り、与えられた課題に2回レポートを作成します。課題とレポートは、日本語による発表形式、与えられた課題に2回発表を伴い、その発表に基いて選考員の採点をします。

34

**ISCOVERY**  
Program for  
Global Leaders  
at Shikoku University

入試の方法

1日目

書類審査  
2024年11月15日

2024年11月17日  
レポートA

2024年11月18日  
レポートB

ポスター発表

グループ内で発表

ポスター発表は、課題とレポートに基いて作成したポスターにより、グループ内で発表します。

35

**ISCOVERY**  
Program for  
Global Leaders  
at Shikoku University

入試の方法

1日目

書類審査  
2024年11月15日

2024年11月17日  
レポートA

2024年11月18日  
レポートB

ポスター発表

グループディスカッション

グループディスカッションは、ポスター発表の内容に基づき、グループ内でディスカッションをします。

36

**ISCOVERY**  
Program for  
Global Leaders  
at Shikoku University

入試の方法

1日目

書類審査  
2024年11月15日

2024年11月17日  
レポートA

2024年11月18日  
レポートB

ポスター発表

グループディスカッション

記述問題

2日目

1科目を選択  
数学 or 物理 or 化学 or 生物 or 地学 or 英語

2日目の記述問題は、数学、物理、化学、生物、地学、英語から1科目を選択して解答する方式となります。

37

**ISCOVERY**  
Program for  
Global Leaders  
at Shikoku University

入試の方法

1日目

書類審査  
2024年11月15日

2024年11月17日  
レポートA

2024年11月18日  
レポートB

ポスター発表

グループディスカッション

記述問題入選者

2日目

1人15分

そして、1人15分の個人入選者を採ります。

38

**ISCOVERY**  
Program for  
Global Leaders  
at Shikoku University

入試の方法

重視される能力

- 英語を含めた基礎学力
- 学修に対する目的意識
- 学習意欲
- 課題に対する理解力
- 論理的思考力
- 表現力
- コミュニケーション力

このプログラムでの勉学に必要な英語を含めた基礎学力のほか、皆さんの学修に対する目的意識、学習意欲、課題に対する理解力、論理的思考力、表現力、コミュニケーション力を重視して選考する人材になっています。

39

**ISCOVERY**  
Program for  
Global Leaders  
at Shikoku University

入試の方法

ディスカバリー入試(実績評価型:募集人員5人)の試験内容

ディスカバリー入試(実績評価型)募集人員5人では、選考要項及び募集を行います。

40

**ISCOVERY**  
Program for  
Global Leaders  
at Shikoku University

入試の方法

対象となる実績や体験

- 人文社会や自然科学に関する研究や英語運用能力を競う全国大会等での実績
- 海外でのフィールドワークや研修など、選考を経て参加した海外での活動体験
- 世界各国の高校生が集まって開かれた国際会議・国際大会への参加
- 海外の中等教育学校での6ヶ月以上の修学経験(あるいはそれに準ずる実績)

たとえば、「人文社会や自然科学に関する研究や英語運用能力を競う全国大会等での実績」「海外でのフィールドワークや研修など、選考を経て参加した海外での活動体験」「世界各国の高校生が集まって開かれた国際会議・国際大会への参加」「海外の中等教育学校での6ヶ月以上の修学経験など、あるいはそれに準ずる実績を挙げている人が対象になります。



41

ISCOVERY Program for Global Learners at OKAYAMA University

岡山大学

入試の方法

第一次選考  
書類審査  
(英語検定・面接)

第二次選考  
面接試験

42

ISCOVERY Program for Global Learners at OKAYAMA University

岡山大学

コンタクト先



43

ISCOVERY Program for Global Learners at OKAYAMA University

岡山大学

コンタクト先

リーフレットのPDF版

オフィシャルFacebook



44

ISCOVERY Program for Global Learners at OKAYAMA University

岡山大学

コンタクト先

具体的な入試や教育の内容等  
順次情報を更新

45

ISCOVERY Program for Global Learners at OKAYAMA University

岡山大学

ディスカバリーで皆さんを待っています！

岡山大学  
グローバル・ディスカバリー・プログラム  
放送棟5階  
〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1  
Tel. 086-251-7915 Fax. 086-251-7201  
E-mail info\_discovery@adm.okayama-u.ac.jp  
http://discovery.okayama-u.ac.jp/

## ○ 2016年度第2回FD講演会 次第

### FD・SD研修会「学生の厚生補導」プログラム

全学FD委員会  
情報メディアセンター

開催日時 : 2016年11月22日(火) 9:30～11:30

開催場所 : 青山キャンパス 第19会議室(総研ビル11階)  
相模原キャンパス B737(B棟7階) TV会議形式

テーマ・目的 : “ソーシャルメディアとは何か? また、その普及により学生や我々大学関係者を取り巻く環境はどのように変化したのか。また、どのように変化していくのか。”  
大学関係者を取り巻くソーシャルメディア普及による環境を理解し、学生の厚生補導の一助とすることを目的とする。

キーワード 「SNSの有効利用・悪用」「個人情報流出」  
「炎上とネットイナゴ」「ソーシャルマーケティング」  
「リア充とボッチ」

| 時間              | 内容   |
|-----------------|--|
| 9:30<br>～9:40   | 開会挨拶<br>副学長 田中 正郎  |
| 9:40<br>～11:20  | 講義および質疑応答<br>講師: 情報メディアセンター 助教 大足 恭平<br>タイトル: 「ソーシャルメディアにかかわるあれこれ」 |
| 11:20<br>～11:30 | 閉会挨拶<br>教育支援課 課長 竹田 治世   |

以上

1

## ソーシャルメディアにかかわるあれこれ

大足恭平  
情報メディアセンター助教

2

## 講演者について

- ・ 2003.4 慶應義塾三田ITC利用相談員（～2008.3）
- ・ 2008.4 早稲田大学MNC助手（～2011.3）
- ・ 2008.5 早稲田大学イスラーム地域研究機構研究員・招聘研究員
- ・ 2012.4 青山学院大学情報科学研究センター助手（2013.4より情報メディアセンター、2015.4より助教）
- ・ 2006.7～2014.1 Wikipedia日本語版管理者
- ・ 専門はイスラーム・シーア派政治思想史/イラン近現代史

3

## ソーシャルメディアとは

・ ソーシャルメディア（英語: Social media）とは、誰もが参加できる広範的な情報発信技術を用いて、社会的相互性を通じて広がっていくように設計されたメディアである。双方向のコミュニケーションができることが特長である。しばしば、ティム・オライリーによって提唱されたWeb 2.0の概念を具現化した一つの形として考えられる。

・ 個人と個人、個人と組織、組織と組織の間の情報発信が、ウェブサイトを経由することによってそれ自体が意味を持つコミュニティとなり、実社会に広く拡散されるようになった。影響力を持ち始めたメディアは、YouTubeやTwitter、Facebookなどのプラットフォームによって、個人間の情報発信が可視化されやすくなったことにより、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）のネットワーク的な概念を超えて、新たなメディアとして浸透しつつある。

ウィキペディアの執筆歴、2016、「ソーシャルメディア」『ウィキペディア日本語版』。 (2016年2月7日取得。 <https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=ソーシャルメディア&oldid=58524531>)

4

## 平成27年版『情報通信白書』第2部第4章第2節 ソーシャルメディアの普及がもたらす変化

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc242000.html>

5

## WebSig分科会2014 vol.2 「日本のソーシャルネットワーク10年」

<http://www.slideshare.net/websig/web-sig0707sns>

6

## 世代ごとに ソーシャルメディアへの まなざしはことなる

7

木下洋一  
「ソーシャルメディア入門」

<http://www.slideshare.net/yoichi/ss-2226318>

8

CAUA FORUM 2012  
「SNS は大学を変えるか!?!」  
パネルディスカッション

どうすれば  
SNS は大学に役立つのか

<http://www.ctc-g.co.jp/~caua/viewpoint/vol13/07.pdf>

9

Tomoki Tsujikawa  
「ソーシャルメディア炎上の  
メカニズム」

<http://www.slideshare.net/torimeshi/enjoyou-sono2>

10

「不快感」と「普通」

11

炎上と大学  
発信すること・黙り込むこと



## 9. Happy くらす作品コンクール

FD活動において、文章やメッセージでの呼びかけだけで、教員に教育の質を向上させるために改善すべき点を認識させ、意識を改革させることは難しく、その効果には限界がある。

そこで、本学のFD活動を推進するためのマスコットキャラクターとして「FDEago」（エフディーゴ）を作成し、2012・2013年度の2年間に期間を限定して、FD活動に関する周知の他、実験的な新しい企画を「FDEagoプロジェクト」として実施することにした。その企画のひとつが「Happyくらす作品コンクール」であり、2014年度以降も実施が続いている。2016年度は、2015年度に引き続き、「私を成長させてくれた授業」をテーマとして作品の募集を行った。

2016年7月15日

# 青山学院大学

## Happy くらす 作品コンクール 2016

### 募集要項

青山学院大学  
FD 推進委員会

学生のみなさんが青山学院大学でたくさんのことを学び、学生たちの成長を見て教職員も喜びを感じられるような、みんながハッピーになれる学びの場を作っていきたいという思いは、大学に集う全ての人が願っていることだと思います。そんな思いから青山学院大学での授業の思い出について、学生のみなさんに作品の形で表現していただいて、他の学生たちや教職員と広くその思いを共有してほしいと思っています。みなさんの声を聞かせてください。

#### 1. テーマ

##### 「私を成長させてくれた授業」

青学生のみなさんが、自分の成長を感じた授業の思い出を聞かせてください。講義を通して得た発見や感動、体験、成長などを作品にして応募してください。

#### 2. 応募資格

青山学院大学の学部生・大学院生、校友（複数名での応募可）

#### 3. 応募ジャンル

次の3つのいずれかから選んでください。

- ① 散文部門： エッセーなど、文章で表現する作品。最大2000字。
- ② 韻文部門： 詩、俳句、短歌、川柳など、短い韻文で表現された作品。
- ③ 漫画部門： 漫画（四コマ漫画、ストーリー漫画など）（最大A4サイズ用紙10枚相当。ただし、提出原稿の用紙サイズは自由）。

※応募作品は未発表のものに限らせていただきます。また、応募作品は他者の権利（著作権、肖像権等）を侵害しないように十分な配慮をしてください。



#### 4. 応募方法

青山学院大学ホームページ ([http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/info/detail\\_20.html](http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/info/detail_20.html)) から応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入した応募用紙と作品のファイルを添付のうえ、[agufd@aoyamagakuin.jp](mailto:agufd@aoyamagakuin.jp) までにご提出ください。紙媒体での提出を希望する場合には、以下の問い合わせ先に記載されている各キャンパス担当者に直接提出して下さっても結構です。

※応募作品数に制限はありません。一人で複数の題材による応募も可能です。

#### 5. 公開等

①入選した作品は、青山学院大学ウェブサイト等 FD 関連活動の情報を提供する媒体において活用させていただきます。その点、あらかじめご承知おきください。

②入賞者の方々には、11 月中～下旬に授賞式および座談会を行う予定です。ご出席いただきますよう、お願いします。また、当日撮影した写真及び映像は、Happy くらす作品コンクールの広報活動および青山学院大学の FD 推進活動に使用いたしますので、あらかじめご了承ください。

#### 6. 提出期限

2016 年 9 月 30 日（金） 必着

#### 7. 選考

選考は大学 FD 推進委員会において厳格に行われます。「大学での講義のよい思い出を伝える、優れた作品になっているか」を主な選考基準とします。

応募作品の中から、ジャンルの区別なく優れたものを選考し、入選作品として下記の賞を授与します。

|               |                |
|---------------|----------------|
| 最優秀賞          | 副賞 1 万円分の図書カード |
| 優秀賞           | 副賞 5 千円分の図書カード |
| 佳作            | 副賞 3 千円分の図書カード |
| 学生 FD スタッフ特別賞 | 副賞 3 千円分の図書カード |

選考結果は 2016 年 10 月末に大学のウェブサイトで発表するとともに、入選者個人に通知いたします。また、表彰式等の写真につきましては、各種広報媒体に掲載させていただく場合がありますので、予めご了承くださいとともに、ご協力をお願いいたします。

#### 8. お問い合わせ

- 青山キャンパス 学務部教育支援課  
電話 03 - 3409 - 4165
- 相模原キャンパス 事務部学務課 教育支援担当  
電話 042 - 759 - 6003
- メール [agufd@aoyamagakuin.jp](mailto:agufd@aoyamagakuin.jp)

以上

2016年度

# Happyくらす作品コンクール 入賞作品集

いずれも力作揃いで審査に苦慮しましたが、優秀賞1作品、佳作2作品、学生FDスタッフ特別賞が1作品が選ばれました。

## 今年度テーマ：「私を成長させてくれた授業」

講義の思い出、心に響いたクラス、自分を変えた授業、目の覚めた講義、元気の出た授業など、講義を通して得た発見や感動、体験、成長などを作品にして応募してもらいました！

### 授賞式次第

司会進行 学務部教育支援課 竹田 治世

#### 1. 開会挨拶

学務及び学生担当副学長  
全学FD委員会委員長 田中 正郎

#### 2. 各賞授与

|             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 優秀賞         | 法学部法学科2年 武田 夏子さん        |
| 佳作          | 理工学部化学生命科学科3年 峯尾 雅子さん   |
| 佳作          | 国際政治経済学部国際経済学科4年 木村 匠さん |
| 学生FDスタッフ特別賞 | 法学部法学科2年 武田 夏子さん        |

#### 3. 座談会

## Happyくらすコンクールとは

学生のみなさんが青山学院大学でたくさんのことを学び、学生たちの成長を見て教職員も喜びを感じられるような、みんながハッピーになれる学びの場を作っていきたいという思い。それは青山学院大学に集う全ての人の願いだと思います。

そこで、青山学院大学での授業の思い出について学生のみなさんに作品の形で表現してもらい、他の学生たちや教職員と広くその思い出を共有できる場として、昨年度より実施しているのがこのHappyくらすコンクールです。

## コンクール実施概要

応募テーマは次の3つのジャンルのいずれかから選択。

第1ジャンル： エッセーなど、文章で表現する作品。最大2000字。

第2ジャンル： 詩、俳句、短歌、川柳など、短い韻文で表現された作品。

第3ジャンル： 漫画（四コマ漫画、ストーリー漫画など）

応募作品の中から、ジャンルの区別なく優れたものを選考し、入選作品として下記の賞を授与します。

副賞として最優秀賞には副賞1万円分、優秀賞には副賞5千円分、佳作には副賞3千円分、学生FDスタッフ特別賞には副賞3千円の図書カードを進呈します。



## 私を成長させてくれた授業

何百人もいる教室で一方通行の講義を受ける九十分間。出席は、名前や学籍番号等の必要事項のみ記入した出席票を提出するか、機械に学生証をかざすのみ。先生方はきっと私達の顔も知ることなくテストの採点を先行い成績評価しているのだろう。このような授業ばかりでは、時として自分の存在を見失いそうになってしまう。"大学とはこういう場なのだ"と割り切って気にせず過ごしていこう、半ば諦めのような感情を抱きながらもそう思っていた。

一年生の後期、キリスト教概論の授業が始まった。先生は授業が始まる少し前に教室にいらして、生徒一人一人の目を見て「こんにちは」と言いながら出席カードを配っていた。授業前のその光景に、なんだか不思議な安心感を抱いたことを今でも覚えている。

キリスト教の授業とは一体どんなものなのだろう。クリスチャンではない人々にとってはどのように感じる授業なのだろう。講義を受ける前、そんな疑問を漠然と抱いていた。しかし、講義が始まると、先生の話方やイラスト・学びの内容等、授業の世界観にみるみる引き込まれていく自分がいた。生きることや死ぬこと、身のまわりの愛について等、私達に関係するテーマの数々に興味深く耳を傾け考えているとあっという間に九十分が経ち、毎回新たな発見や深く共感するところが見つかるのだ。キリスト教概論は、いつしか私にとって一番楽しみな授業になっていた。

毎回の授業の最後には、先生からの問いに対する自分の考え、疑問や質問等を出席カードの裏に書いて提出し、翌週の授業の冒頭で先生がそれらの質問に答えて下さるという形態がとられていた。私はその日の授業において学んだことを自らの経験と重ね合わせ、そこから生じた疑問や相談を出席カードの裏に書き連ねて提出していた。大人数の授業において先生と生徒がコミュニケーションを計れる機会というのは滅多に無いものだが、"この疑問に先生はどのような答えを下さるのだろうか"等と思いながら出席カードを書いている時は心なしかわくわくした気持ちになり、私の質問を授業で取り上げ答えて下さった時にはとても嬉しく感じたのを覚えている。

11月の終わりには中間レポートがあった。"返却希望"と赤赤ペンで書いておくと先生から簡単な添削が受けられ、返却時にコメントが頂けるというものだった。この時点において、私はまだ先生と直接きちんとお話したことはなかったし、授業後に先生の元へ行く勇気もなかなか持つことができずにいた。しかし、毎回時間を忘れて聞き入ってしまうほど学びの深い授業をして下さっている先生とお話してみたいという思いが募り、"返却希望"と大きく書いてレポートを提出した。レポートには、先生の著書を読んで私が感じたことや、その時私が置かれていた状況と著書の内容を重ね合わせて深く共感したこと・気持ちが楽になったことなどを書き連ねた。後日レポートが返却され、私は初めて先生とお話することができた。先生がレポートに書いて下さったコメントや直接かけて下さった言葉の数々によって、自分の悩みや複雑な思いが少し楽になった。レポートはパソコンではなく必ず手書きで書くことが求められており、"字を見ればその人が分かる"というのが先生の考えだった。確かに、その人の性格やその時の感情が、手書きの文字には如実に表れる。そういった点においても、先生は私達一人一人のことをきちんと知ろうとして下さっているように感じた。

全十五回の授業が終わり、先生は最後に私達一人一人の名前を呼び、それぞれに一枚の紙を手渡して下さった。その紙一面面に貼り付けられていたのは、今までの自分の出席カードの数々だった。裏面には当時の自分の考えや疑問がたくさん書き連ねられており、"あの時はこんなことを思っていたな"等と振り返りながら、この授業を通して得た視点や考え方、自らの成長に気がつくことができた。大人数の講義にも関わらず、私達一人一人をきちんと"人"として扱って下さる先生の思いを感じる事ができたからこそ、私も自分自身をじっくりと見つめ直し向き合うことができたのだ。

大学では、顔も名前も認知されることなく終わってしまうような一方通行の授業も決して少なくないし、学生の人数や進行を考慮するとやむを得ない部分があることも重々承知している。しかし、"自分は大勢いる中の単なる一学生に過ぎないのだ"という感覚は、時に"私とは一体何なのか"という疑問を生じさせ、自己の存在を分からなくさせることがある。

自分の存在を再認識し、自分自身の成長に気づく機会を得ることができたこの授業は、私にとって本当に価値があるものだった。この授業との出逢い、そして生生との出逢いに心から感謝しているし、この授業で得た学びはこれから先もずっと大切にしながら日々過ごしていきたいと考えている。

### 講評（優秀賞）

大人数の講義であるにも関わらず、担当教員が、受講生一人ひとりと向き合い、受講生一人ひとりの考えを大切にしていることが伝わる良い文章である。教員が一人ひとりの学生にきちんと向き合うことの大事さに改めて気づかされるとともに、担当教員の熱意と努力に敬服した。

### 講評（学生FDスタッフ特別賞）

大学の授業で、学生が人格のない「記号」から「生身の人間」として扱われる感覚の対比がうまくなされ、講義がいかに素晴らしいものであったことが伝わってくる。学生ひとり一人をみる教師の存在は学生にとっても大きく、成長の原動力になる。



## 答えのない授業

「この授業は、これ、と決まった答えはないです。授業を通して、あなた自身が考えてほしいのです。」

普段の理系の授業では、何かの答えを導き出すことが多い。しかし、この言葉で始まった教育学の授業では、答えは私たちが考えた。このことが、私にとって非常に新鮮だった。

### ある日の授業。

グループで自己紹介をしたあと、新聞だけを使って、人の背を超える高さまで立てられるかというゲームをした。先生は私に、「あなたは今とてもいい顔をしている。生き生きとしていて嬉しくなるわ。」と言ってくださった。

そして、授業の最後に先生はこう言った。「このゲームには、初めに自己紹介をしたことなど、教育学的に色々な意図がありました。しかし、あなたがたはゲームをしている最中、その意図を知らなかった。それでも、新聞をただ丸めたり、棒にしたりする遊びを楽しんで取り組んでくれた。どんなに単純なことでも、そのとき何の意味があるのかわからなくても、一生懸命やること、楽しめることって、とても大切なことなんだ。」

### またある日の授業。

「今日は初めにゲームをします。ルールが分かった人から座って行ってください。」

手を使った簡単なゲーム。しかし、みんながだんだんと座っていく中で、私はまだルールがわからない。焦るとますますわからなくなる。やっとわかったとき、なんだかほっとした気持ちになった。

先生は私たちに言った。「ゲームだとわかっているけど、自分だけわからないと感じたとき、あなたは不安になったはず。もし、いつかあなたが教える立場になったら、この気持ちを思い出してほしい。わからないって不安なことなんだ。」

### またある日の授業。

「学びとは何でしょう。」

ある人は、「学ぶとは真似ぶからきた言葉だ。真似をして身につける、つまり、学びとは新しい獲得だ。」と言ったらしい。ある人は、「学びには、『頭でわかっているが、体ではできないこと』と、『体ではわかっているが、頭では説明できないこと』の二種類がある。」と言ったらしい。

先生は、「学びとは、苦しくて、しんどいことかもしれない。」と言った。そして、「人は何かを学んだあとに、教えられたと感じるのかもしれない。」と。

私は考えるようになった。「不安」ってなんだろう。「学び」ってなんだろう。

答えを聞かなくても、一つ一つの授業で、必ず何かに気づかされた。後から考えれば、新聞のゲームも、手を使った簡単なゲームも、全て意味がある教材だった。普段見逃していることにも、意識していないことにも、必ず意味がある。その意味に気づいてこそ、何かの答えを見つけることができるのだと学んだ。すべての授業が終わったあと、自分の中で何かが変わった気がした。これがきっと、学びなのだと思っている。

先生は確かな答えを言わなかった。  
しかし、先生はいつも言っていた。

「答えはあなた自身が考えたこと。」

私たちが歩む道に、確かな答えはないのかもしれない。  
けれども、答えがないって、とても素敵なことかもしれない。

## 講評

教員が、単に学生に自分自身で考えることの重要性を説くのではなく、ゲームや問いかけを通じて、その重要性を認識してもらおう工夫を行っていること、そして、筆者が授業を通じて自ら考えることの重要性を認識できたことが伝わる良い文章である。授業を工夫する上でも参考になる内容であり、本企画の趣旨に合う作品である。





## 私を成長させてくれた授業

「あなたは政府の原発政策について賛成ですか?それとも反対ですか?」  
私自身、講義を受けるまではネットの記事を2つ3つ探して読み進めていけば自ずと賛成か反対か、自分の意見を固められるだろうと思っていた。少なくとも半年前までは。  
私が就職活動真っ只中にふと青山ポータル受信箱で出会ったその講義こそ科学ジャーナリストの東嶋和子先生が教鞭を執る「現代社会とジャーナリズム」である。メッセージには『1泊2日で柏崎刈羽原子力発電所の視察見学』と記されている。

「すごくおもしろそうじゃないか。そうだ、見に行こう。」  
ここから学生生活最後の夏休みは始まった。

8月上旬、私は柏崎市に降り立った。人の姿がほとんど見えず、商店街はシャッター通りになっている。  
初日にはJAEAやNUMO、資源エネルギー庁の担当者から人生で初めて我が国のエネルギー政策とその歴史について学んだ。

「半世紀前、なぜ、世界は原子力に手を出したのか」、「日本のエネルギー事情はどうなっているのか」、頭の中で全てのピースが嵌まったとき目から鱗が落ちる思いだった。

数十万年、数百万年など考えたこともない時の長さが会場のスピーカーから流れる。

どこにも夢のようなエネルギーは存在しなかったが、誰もが自国の未来を想って原子力に頼ったことは明らかだった。「私はどう向き合っていけばいいのだろうか。」

その夜のホテルでは自問自答を繰り返した。だが、答えは出なかった。

2日目にはいよいよ柏崎刈羽原子力発電所の構内へと足を踏み入れた。ここは関東地方へ電気を送るために建設された7基の発電機を擁する東京電力の原子力発電所だ。冒頭、いきなり福島原子力発電所事故に対する謝罪から始まる。

「この度は、本当にご迷惑をおかけして...本当に、本当に申し訳ありませんでした。」

すでにあの時から5年経ったが、彼らの言葉の中では決して過ぎることのない3月11日がそこにあった。そして、4号発電機の原子炉格納容器を前にして私は、今日も強く生きる福島の現場作業員や被災者の胸中を察しながら担当者の説明に耳を傾けていた.....。

最終講義の日、一緒に原子力発電所の見学を行った新潟工科大学の学生5人と青山学院大学の学生がこれからのエネルギー政策についてプレゼンテーションを行い、熱い議論を交わした。

青山学院大学の学生発表では韓国やベトナムの留学生が自国のエネルギー政策について語ったり、ドイツへの留学経験がある学生が日本とドイツを比較して発表したりとグローバルな視点で原発政策についての意見が語られた。

これはひとえに国際政治経済学部が多様な学生を迎えているからこそ、どこよりも深く広い視点からみた議論が実現したのであろう。

一方で、地元、新潟工科大学の学生は理系の視点から数値やグラフを多く取り入れ、非常に論理的な発表を見せた。彼らの説明は原発見学で学んだことに加えて、原発と共に生活する地元住民の想いにまで及び、改めて、原発と共に歩むとはどういうことかを胸に刻んだ。

頭で「理解」することと、心で「同意」することは全くの別物であった。

地方では独自産業が衰退し、過疎化した周辺地域の雇用や存続のために原子力発電所の誘致が行われる事が多い。一方で、都市部では常に大量の電気を消費するだけに留まらず、安全安心に電気を利用する環境さえも強く求めている。

今回の講義では電気を作る地方の大学生と、電気を使う都市の大学生がそれぞれ相手に気づきを与える良いきっかけになった。それはお互いが普段学んでいる教室を出ることによって実現した。

「あなたは政府の原発政策について賛成ですか?それとも反対ですか?」

冒頭で述べた、こんな質問を発することさえ許されない風潮が世間一般のものとなりつつある。

今回の講義に出会わなかったら、簡単に賛成、反対を高々に唱えていただろう。それも、インターネットから集めた薄っぺらな情報を盾に構えて。

確かに、百万年後のことは誰もわからないし、どんなに安全対策を打ったって原子力が本当に安全だとは言いきれないかもしれない。それでも、自分の足を使って現地に赴き、生の人の声を聞き、そして現場の光景をこの目に収めることがどれほど大切なことかを強く感じた瞬間であった。そして、この間に答えるには原子力に対する正しい知識と多様なステークホルダーの視点を取り入れて初めて議論の第一歩に立てるということを学んだ。

私はこの学生生活最後の夏で大きく成長した。

よく大学の試験問題には答えがないと言われるが、それは半分正しくて半分誤っている。だが、教室を出た先には本当に誰もわからない、答えという存在自体がない問いが多く転がっている。その1つに対して真剣に向き合い、考え抜くことができたのは貴重な経験であった。

世間がどう思おうと自分の足や頭を使って出した答えに間違いはない。

それが私の胸にある答えだ。

### 講評

現地に赴き、エネルギー供給に関わる機関や東京電力の担当者の話を聞いたり、現地の大学の学生と議論を交わすことを通じて、問題に真剣に向き合い、考え抜くことの重要性を感じ取ったことが伝わる良い文章である。薄っぺらな情報や浅い学びに流されがちな日常に気づいた点も、重要な成果であろう。



## 10. その他のFD活動

2014年度より、本学教員を対象とした「教員のための英語研修プログラム」を開催している。2016年度も10月5日（水）、11月2日（水）の計2回実施した。

また、全学部にて科目ナンバリングを実施し、2017年度入学生に開示した。

## ○ 2016年度 教員のための英語研修プログラム

2016年度も昨年に引き続き、教員のための英語研修プログラムを年間2回実施した。講師は、英国の公的国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルから招き、研修はすべて英語で実施した。今まで開催した研修プログラムすべてに参加した教員もあり、FDにおいて人気の高いプログラムとなっている。初めて参加する教員からも「次回も参加したい。」などの声も聞かれた。また、「他学部の先生との交流できるのも良い。」などの意見も寄せられた。詳細は下記のとおりである。

### 【第1回目】

日 時：2016年10月5日（水）10：00～17：10

参加者：10名

内 容：「発音とGlobal Englishes」日本人学習者が間違いやすい英語の発音の特徴に関する認識を高め練習し、聞き取りの練習をし、異なる発音の特徴の分析方法を理解する。

### 【第2回目】

日 時：2016年11月2日（水）10：00～17：10

参加者：12名

内 容：「アカデミック・ライティング」論文やエッセイの種類による書き方の違いが、文章構成や内容にどのように作用するか学び、結論の書き方を学習する。

### 【参加者アンケート】

#### ● 研修について

Q 1. 研修のレベルは適切でしたか。

| 回答    |         | 合計    |       |
|-------|---------|-------|-------|
|       |         | 10月5日 | 11月2日 |
| 難しい   | 難しすぎた   | 1     | 0     |
|       | やや難しかった | 1     | 4     |
| 適切    |         | 7     | 9     |
| 簡単    | やや易しかった | 1     | 0     |
|       | 易しすぎた   | 0     | 0     |
| 無回答   |         | 0     | 0     |
| 合計（※） |         | 10    | 13    |

※「やや難しかった」と「適切」の両方に回答した方がいるため、合計13名（11/2）

Q 2. 曜日、時間のご都合はいかがでしたか。

| 回答        | 合計    |       |
|-----------|-------|-------|
|           | 10月5日 | 11月2日 |
| 都合が良かった   | 9     | 11    |
| 予定があわなかった | 1     | 0     |
| 無回答       | 0     | 1     |
| 合計        | 10    | 12    |

Q 3. 研修期間は適切でしたか。

| 回答  |        | 合計    |       |
|-----|--------|-------|-------|
|     |        | 10月5日 | 11月2日 |
| 長い  | 長すぎた   | 0     | 0     |
|     | やや長かった | 4     | 4     |
| 適切  |        | 6     | 8     |
| 短い  | 短かった   | 0     | 0     |
|     | 短すぎた   | 0     | 0     |
| 無回答 |        | 0     | 0     |
| 合計  |        | 10    | 12    |



Q4. 研修内容はご自身のニーズに合っていましたか。

| 回答  |           | 合計    |       |
|-----|-----------|-------|-------|
|     |           | 10月5日 | 11月2日 |
| 肯定  | 常にあっていた   | 1     | 4     |
|     | 大体あっていた   | 5     | 7     |
| 中間  | 時々あっていた   | 4     | 0     |
| 否定  | あまり合っていない | 0     | 1     |
|     | 全く合っていない  | 0     | 0     |
| 無回答 |           | 0     | 0     |
| 合計  |           | 10    | 12    |

Q5. この研修を履修して英語力、英語スキルが上がったと思いますか。

| 回答     | 合計    |       |
|--------|-------|-------|
|        | 10月5日 | 11月2日 |
| はい     | 9     | 11    |
| いいえ    | 1     | 2     |
| 無回答    | 0     | 0     |
| 合計 (※) | 10    | 13    |

※「はい」と「いいえ」の両方に回答した方がいるため、合計13名 (11/2)

● コメント

- : Lecturerの英語を覚えることが勉強になったから。(10/5)
- : R、L、B、Vの違いを再確認できた。(10/5)
- : Rの発音についてポイントがわかったから。(10/5)
- : 新しい発見があったため。(10/5)
- : Lの発音時の舌の使い方がわかった。(10/5)
- : 発音の仕方を学べた。(10/5)
- : 様々な表現を学んだ。(11/2)
- : 適切な語の用法が少しわかった。(11/2)
- : 重要事項を確認できた。(11/2)
- : 論文執筆の参考になった。(11/2)
- : 自分でやってみて、すぐにできないことがわかった。(11/2)
- : 間違いを認識できたから。(11/2)

## ○ 科目ナンバリング

本学の学士課程における全ての科目に、教育課程上の学修段階、学修順序、学修内容等を示すコード番号を付す「科目ナンバリング」を実施している。全学FD委員会にて作成した全学的なコード体系に基づき、青山スタンダード及び各学部において科目ナンバリングの作成が行われた。

科目ナンバリングによって、青山スタンダード及び各学部の教育課程における科目一つ一つの位置づけが示されることにより、各年度、さらには大学生活全体における修学計画を学生が検討する際等に、その参考となることが期待される。

2016年度末までに青山スタンダード及び各学部の全ての科目について科目ナンバリングが行われ、その結果を2017年度入学生に開示している。

### ・コード体系

全ての科目に7桁の英数字から構成されるコードを付し、教育課程体系上の位置付けを示している。各桁の意味は次のとおり。

|      |     |     |          |       |              |      |    |   |
|------|-----|-----|----------|-------|--------------|------|----|---|
| 桁数   | 1   | 2   |          | 3     | 4            | 5    | 6  | 7 |
| コード例 | A   | A   | -        | A     | A            | 1    | 0  | 1 |
| 意味   | 学部等 | 学科等 | 教育課程上の区分 |       | 配置年次         | 科目番号 |    |   |
|      |     |     | (大区分)    | (小区分) |              |      |    |   |
| 使用文字 | 英字  | 英字  |          | 英字    | 英字<br>一部数字あり | 数字   | 数字 |   |

1・2桁目：学部・学科等（どの学部・学科等の教育課程であるかを示す）

3・4桁目：教育課程上の区分（当該学部・学科の教育課程上の区分を示す）

（3桁目）大区分・・・カリキュラム（コース、領域、科目区分等）による区分

（4桁目）小区分・・・学修内容による区分

5桁目：配置年次（科目の配置年次（最低履修可能年次））

6・7桁目：科目番号（科目の位置付けや科目間のつながり等を示すことがある（科目番号の付け方は学部・学科等によって異なる））

○ 2017年度 科目ナンバリング コード一覧表(1～4桁目)

| 桁数<br>内容       | 1<br>学部等 |                   | 2<br>学科等 |            | 3<br>教育課程上の区分(大) |         | 4<br>教育課程上の区分(小) |           |
|----------------|----------|-------------------|----------|------------|------------------|---------|------------------|-----------|
| コード<br>・<br>意味 | G        | 青山スタンダード          | G        | 青山スタンダード科目 | A                | キリスト教理解 | A                | キリスト教概論   |
|                |          |                   |          |            | B                | 人間理解    | B                | キリスト教教学   |
|                |          |                   |          |            | C                |         | C                | キリスト教実習   |
|                |          |                   |          |            | A                |         | A                | 人文科学総合    |
|                |          |                   |          |            | B                |         | B                | 哲学        |
|                |          |                   |          |            | C                |         | C                | 言語学       |
|                |          |                   |          |            | D                |         | D                | 文学        |
|                |          |                   |          |            | E                |         | E                | 芸術学       |
|                |          |                   |          |            | F                |         | F                | 文化人類学     |
|                |          |                   |          |            | G                |         | G                | 教育学       |
|                |          |                   |          |            | H                |         | H                | 心理学       |
|                |          |                   |          |            | I                |         | I                | 平和学       |
|                |          |                   |          |            | J                |         | J                | コミュニケーション |
|                |          |                   |          |            | A                |         | A                | 社会科学総合    |
|                |          |                   | B        | B          | 法学               |         |                  |           |
|                |          |                   | C        | C          | 国際関係論            |         |                  |           |
|                |          |                   | D        | D          | 社会学              |         |                  |           |
|                |          |                   | E        | E          | 経済学              |         |                  |           |
|                |          |                   | F        | F          | 人文社会情報学          |         |                  |           |
|                |          |                   | A        | A          | 自然科学総合           |         |                  |           |
|                |          |                   | B        | B          | 科学技術史・科学(技術)論    |         |                  |           |
|                |          |                   | C        | C          | 数理科学             |         |                  |           |
|                |          |                   | D        | D          | 物理学              |         |                  |           |
|                |          |                   | E        | E          | 生命科学             |         |                  |           |
|                |          |                   | F        | F          | 工学               |         |                  |           |
|                |          |                   | G        | G          | 地球・環境科学          |         |                  |           |
| A              | A        | 史学総合              |          |            |                  |         |                  |           |
| B              | B        | 自校史               |          |            |                  |         |                  |           |
| C              | C        | 現代史               |          |            |                  |         |                  |           |
| D              | D        | 日本史               |          |            |                  |         |                  |           |
| E              | E        | アジア史              |          |            |                  |         |                  |           |
| F              | F        | ヨーロッパ史            |          |            |                  |         |                  |           |
| G              | G        | 考古学               |          |            |                  |         |                  |           |
| H              | H        | 思想史               |          |            |                  |         |                  |           |
| A              | A        | 地域研究              |          |            |                  |         |                  |           |
| B              | B        | 言語学               |          |            |                  |         |                  |           |
| C              | C        | 日本学               |          |            |                  |         |                  |           |
| E              | E        | 英語                |          |            |                  |         |                  |           |
| A              | A        | 健康・スポーツ演習         |          |            |                  |         |                  |           |
| B              | B        | 健康科学              |          |            |                  |         |                  |           |
| C              | C        | スポーツ科学            |          |            |                  |         |                  |           |
| D              | D        | 運動実習              |          |            |                  |         |                  |           |
| A              | A        | 情報学総合             |          |            |                  |         |                  |           |
| A              | A        | 職業観・勤労観の育成        |          |            |                  |         |                  |           |
| B              | B        | 汎用能力の育成           |          |            |                  |         |                  |           |
| C              | C        | 実践能力の育成           |          |            |                  |         |                  |           |
| D              | D        | 職業選択力             |          |            |                  |         |                  |           |
| E              | E        | 仕事力               |          |            |                  |         |                  |           |
| A              | A        | 初年次教育             |          |            |                  |         |                  |           |
| F              | F        | 言葉の技能(フランス語)      | F        | フランス語      |                  |         |                  |           |
| G              | G        | 言語の技能(ドイツ語)       | G        | ドイツ語       |                  |         |                  |           |
| S              | S        | 言語の技能(スペイン語)      | S        | スペイン語      |                  |         |                  |           |
| C              | C        | 言語の技能(中国語)        | C        | 中国語        |                  |         |                  |           |
| R              | R        | 言語の技能(ロシア語)       | R        | ロシア語       |                  |         |                  |           |
| K              | K        | 言語の技能(韓国語)        | K        | 韓国語        |                  |         |                  |           |
| E              | E        | 言語の技能(英語・仏文)      | E        | 英語         |                  |         |                  |           |
| I              | I        | 言語の技能(英語・外国人留学生)  | E        | 英語         |                  |         |                  |           |
| J              | J        | 言語の技能(日本語)        | J        | 日本語        |                  |         |                  |           |
| L              | L        | 青山スタンダード科目(第二外国語) |          |            |                  |         |                  |           |

| 桁数             | 1   |         | 2                 |               | 3           |              | 4                 |            |
|----------------|-----|---------|-------------------|---------------|-------------|--------------|-------------------|------------|
| 内容             | 学部等 |         | 学科等               |               | 教育課程上の区分(大) |              | 教育課程上の区分(小)       |            |
| コード<br>・<br>意味 | L   | 文学部     | L                 | 英米文学科         | A           | イギリス文学・文化    | A                 | イギリス文学・文化  |
|                |     |         |                   |               | B           | アメリカ文学・文化    | A                 | アメリカ文学・文化  |
|                |     |         |                   |               | C           | グローバル文学・文化   | A                 | グローバル文学・文化 |
|                |     |         |                   |               | D           | 英語学          | A                 | 英語学        |
|                |     |         |                   |               | E           | コミュニケーション    | A                 | コミュニケーション  |
|                |     |         |                   |               | F           | 英語教育学        | A                 | 英語教育学      |
|                |     |         |                   |               | G           | 専門科目(英語)     | A                 | 英語専門導入     |
|                |     |         |                   |               | B           | 発展英語         | C                 | 翻訳・通訳      |
|                |     |         |                   |               | E           | 英語           | E                 | 英語         |
|                |     |         | J                 | 日本語科目         | J           | 日本語          |                   |            |
|                |     |         | A                 | フランス語         | A           | フランス語        |                   |            |
|                |     |         | B                 | フランス文学        | A           | フランス文学       |                   |            |
|                |     |         | C                 | フランス語学        | A           | フランス語学       |                   |            |
|                |     |         | D                 | フランス文化        | A           | フランス文化       |                   |            |
|                |     |         | J                 | 日本語科目         | J           | 日本語          |                   |            |
|                |     |         | A                 | 学科共通<br>概論・入門 | H           | 日本文学・日本語基礎科目 |                   |            |
|                |     |         | B                 | 演習            | A           | 日本文学         |                   |            |
|                |     |         | C                 | 講義            | B           | 中国文学         |                   |            |
|                |     |         | D                 |               | C           | 日本語学         |                   |            |
|                |     |         | D                 |               | D           | 日本語教育        |                   |            |
|                |     |         | E                 |               | E           | 表象文化論        |                   |            |
|                |     |         | F                 |               | F           | 文学交流         |                   |            |
|                |     |         | G                 |               | G           | 書道           |                   |            |
|                |     |         | E                 |               | E           | 英語           |                   |            |
|                |     |         | J                 |               | J           | 日本語          |                   |            |
|                |     |         | A                 |               | A           | 日本史          |                   |            |
|                |     |         | B                 |               | A           | 東洋史          |                   |            |
|                | C   |         | A                 | 西洋史           |             |              |                   |            |
|                | D   |         | A                 | 考古学           |             |              |                   |            |
|                | E   |         | A                 | 史学総合          |             |              |                   |            |
|                | B   |         | B                 | 教職・資格         |             |              |                   |            |
|                | E   |         | E                 | 英語            |             |              |                   |            |
|                | J   |         | J                 | 日本語           |             |              |                   |            |
|                | A   |         | A                 | 芸術学総合         |             |              |                   |            |
|                | B   |         | B                 | 美術            |             |              |                   |            |
|                | C   |         | C                 | 音楽            |             |              |                   |            |
|                | D   |         | D                 | 演劇映像          |             |              |                   |            |
|                | A   |         | A                 | 比較芸術学専門       |             |              |                   |            |
|                | B   |         | B                 | 資格            |             |              |                   |            |
|                | E   |         | E                 | 英語            |             |              |                   |            |
|                | J   |         | J                 | 日本語           |             |              |                   |            |
|                | A   |         | A                 | 芸術学           |             |              |                   |            |
|                | B   |         | B                 | 哲学・倫理学        |             |              |                   |            |
|                | C   |         | C                 | 心理学           |             |              |                   |            |
|                | D   |         | D                 | 史学            |             |              |                   |            |
|                | E   |         | E                 | 文学            |             |              |                   |            |
|                | F   |         | F                 | 言語学           |             |              |                   |            |
| G              |     | G       | 社会学               |               |             |              |                   |            |
| O              |     | O       | 教育学基礎             |               |             |              |                   |            |
| A              |     | A       | 教育史・教育哲学          |               |             |              |                   |            |
| B              |     | B       | 教育社会学・生涯発達論       |               |             |              |                   |            |
| C              |     | C       | 臨床教育学・障害児教育学      |               |             |              |                   |            |
| D              |     | D       | 生涯学習論・社会教育学・高等教育論 |               |             |              |                   |            |
| E              |     | E       | 認知科学・メディア論・教育情報学  |               |             |              |                   |            |
| F              |     | F       | 図書館情報学            |               |             |              |                   |            |
| G              |     | G       | 幼児教育学             |               |             |              |                   |            |
| H              |     | H       | 保育学               |               |             |              |                   |            |
| I              |     | I       | 児童教育学             |               |             |              |                   |            |
| J              |     | J       | 教科教育学(初等)         |               |             |              |                   |            |
| K              |     | K       | 教科教育学(中等)         |               |             |              |                   |            |
| L              |     | L       | キリスト教教育論          |               |             |              |                   |            |
| P              | P   | 教育人間科学部 | P                 | 教育学科          | O           | 第0群          | O                 | 教育学基礎      |
| A              |     |         |                   |               | 第I群         | A            | 教育史・教育哲学          |            |
| B              |     |         |                   |               | 第II群        | B            | 教育社会学・生涯発達論       |            |
| C              |     |         |                   |               | 第III群       | C            | 臨床教育学・障害児教育学      |            |
| D              |     |         |                   |               | 第IV群        | D            | 生涯学習論・社会教育学・高等教育論 |            |
| E              |     |         |                   |               | 第V群         | E            | 認知科学・メディア論・教育情報学  |            |
| F              |     |         |                   |               | 第VI群        | F            | 図書館情報学            |            |
| G              |     |         |                   |               | 第VII群       | G            | 幼児教育学             |            |
| H              |     |         |                   |               |             | H            | 保育学               |            |
| I              |     |         |                   |               |             | I            | 児童教育学             |            |

| 桁数             | 1          |         | 2          |       | 3           |           | 4           |         |
|----------------|------------|---------|------------|-------|-------------|-----------|-------------|---------|
| 内容             | 学部等        |         | 学科等        |       | 教育課程上の区分(大) |           | 教育課程上の区分(小) |         |
| コード<br>・<br>意味 | P          | 教育人間科学部 | Y          | 心理学科  | A           | 第Ⅰ群       | A           | 基礎心理学   |
|                |            |         | B          | 第Ⅱ群   | B           | 認知心理学     |             |         |
|                | C          | 第Ⅲ群     | C          | 発達心理学 |             |           |             |         |
|                | D          | 第Ⅳ群     | D          | 社会心理学 |             |           |             |         |
|                | E          | 第Ⅴ群     | E          | 臨床心理学 |             |           |             |         |
|                | F          | 第Ⅵ群     | F          | 心理総合  |             |           |             |         |
|                | G          | 第Ⅶ群     | G          | 哲学    |             |           |             |         |
|                | L          | 外国語     | E          | 英語    | A           | 英語        |             |         |
|                | E          | 経済学部    | E          | 経済学科  | A           | 入門科目      | A           | 経済学総合   |
|                |            |         |            |       | B           | 基礎科目      | B           | 理論経済学   |
|                |            |         |            |       | C           | 理論・数量     | C           | 経済史     |
|                |            |         |            |       | D           | 政策・産業     | D           | 経済統計    |
|                |            |         |            |       | E           | 歴史・国際・地域  | E           | 経済政策    |
|                |            |         |            |       | F           | 演習        | F           | 財政・公共経済 |
|                |            |         |            |       | G           | 関連科目      | G           | 産業組織論   |
|                |            |         | H          | 労働経済論 | H           | 金融・ファイナンス |             |         |
| I              |            |         | 人文地理学      | I     | 人文地理学       |           |             |         |
| J              |            |         | 外国書講読      | J     | 外国書講読       |           |             |         |
| K              |            |         | 公法学        | K     | 公法学         |           |             |         |
| L              |            |         | 民法学        | L     | 民法学         |           |             |         |
| M              |            |         | 社会法学       | M     | 社会法学        |           |             |         |
| N              |            |         | 経営学        | N     | 経営学         |           |             |         |
| O              | 会計学        | O       | 会計学        |       |             |           |             |         |
| P              | 商学         | P       | 商学         |       |             |           |             |         |
| Q              | 商学         | Q       | 商学         |       |             |           |             |         |
| D              | 現代経済デザイン学科 | D       | 現代経済デザイン学科 | A     | 入門科目        | A         | 現代経済デザイン総合  |         |
|                |            |         |            | B     | 基礎科目        | B         | 理論経済学       |         |
|                |            |         |            | C     | 専攻科目        | C         | 財政・公共経済     |         |
|                |            |         |            | D     | 演習          | D         | 経済政策        |         |
|                |            |         |            | E     | 関連科目        | E         | 人文地理学       |         |
| F              | 経済統計       | F       | 経済統計       |       |             |           |             |         |
| G              | 経済史        | G       | 経済史        |       |             |           |             |         |
| H              | 政治学        | H       | 政治学        |       |             |           |             |         |
| I              | 公法学        | I       | 公法学        |       |             |           |             |         |
| J              | 民法学        | J       | 民法学        |       |             |           |             |         |
| K              | 社会法学       | K       | 社会法学       |       |             |           |             |         |
| L              | 経営学        | L       | 経営学        |       |             |           |             |         |
| M              | 会計学        | M       | 会計学        |       |             |           |             |         |
| N              | 商学         | N       | 商学         |       |             |           |             |         |
| L              | 外国語        | A       | 第一外国語      | E     | 英語          |           |             |         |
| J              | 日本語        | J       | 日本語        |       |             |           |             |         |
| J              | 法学部        | J       | 法学科        | A     | 科目群Ⅰ        | A         | 演習科目        |         |
|                |            |         |            | B     | 科目群Ⅱ        | A         | 入門科目        |         |
|                |            |         |            | C     | 科目群Ⅲ        | B         | 基礎法         |         |
|                |            |         |            | D     |             | 政治学       |             |         |
|                |            | A       | 科目群Ⅳ       | C     | 公法          |           |             |         |
|                |            | B       |            | 私法    |             |           |             |         |
|                |            | C       | 社会法        | C     | 社会法         |           |             |         |
|                |            | D       | 政治学        | D     | 政治学         |           |             |         |
| L              | 外国語        | A       | ビジネス法      | A     | ビジネス法       |           |             |         |
| B              | 公共政策       | B       | 公共政策       |       |             |           |             |         |
| C              | 司法         | C       | 司法         |       |             |           |             |         |
| D              | ヒューマン・ライツ  | D       | ヒューマン・ライツ  |       |             |           |             |         |
| L              | 外国語        | A       | 第一外国語      | E     | 英語          |           |             |         |
| J              | 日本語        | J       | 日本語        |       |             |           |             |         |

| 桁数     | 1        |           | 2   |                  | 3   |   | 4           |         |         |          |
|--------|----------|-----------|-----|------------------|---|---|-------------|---------|---------|----------|
| 内容     | 学部等      |           | 学科等 |                  | 教育課程上の区分(大)   |   | 教育課程上の区分(小) |         |         |          |
| コード・意味 | B        | 経営学部      | B   | 経営学科             | A 専門基礎科目<br>B 共通専門科目<br>C グローバルビジネス科目<br>D 経営学科専門科目<br>E マーケティング学科専門科目<br>F 経営学関連科目 |   | A           | 会計学     |         |          |
|        |          |           |     |                  |   |   | B           | 経営学     |         |          |
|        |          |           |     |                  |   |   | C           | 商学      |         |          |
|        |          |           | D   | データ科学            |   |   |             |         |         |          |
|        |          |           | E   | 経済学              |   |   |             |         |         |          |
|        |          |           | F   | ファイナンス           |   |   |             |         |         |          |
|        | M        | マーケティング学科 |     |                  |   |   | I           | 産学連携    |         |          |
|        |          |           |     |                  |   |   | J           | 法学      |         |          |
|        |          |           |     |                  |   |   | K           | 国際文化    |         |          |
|        | L        | 外国語       |     |                  |   |   | M           | マーケティング |         |          |
|        |          |           |     |                  |   |   | S           | 演習      |         |          |
|        |          |           |     |                  |   |   | L           | 英語      |         |          |
|        | S        | 理工学部      | L   | 外国語              |   |   |             | N       | 日本語     |          |
|        |          |           |     |                  |   |   |             | E       | English |          |
|        |          |           | B   | Basic Experiment |   |   |             |         | J       | Japanese |
|        |          |           |     |                  |   |   |             |         | A       | 物理学総合    |
|        |          |           | P   | 物理・数理学科          |   |   |             |         | A       | 化学総合     |
|        |          |           |     |                  |   |   |             |         | B       | 電気工学総合   |
| C      |          |           |     |                  |   |   |             |         | 機械工学総合  |          |
| D      |          |           |     |                  |   |   |             |         | 情報学総合   |          |
| E      |          |           |     |                  |   |   |             |         | 力学      |          |
| A      |          |           |     |                  |   |   |             |         | 物理学総合   |          |
| B      |          |           |     |                  |   |   |             |         | 代数      |          |
| C      |          |           |     |                  |   |   |             |         | 解析      |          |
| D      | 数学総合     |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| E      | 物理・数理総合  |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| F      | 化学総合     |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| G      | 情報学基礎理論  |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| H      | 哲学・倫理学   |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| I      | インターンシップ |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| P      | 物理科学コース  |           |     |                  |   | A | 力学          |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | B | 連続体力学       |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | C | 熱力学         |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | D | 電磁気学        |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | E | 地球惑星科学      |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | F | 生物物理        |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | G | 物理科学総合      |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | H | 代数          |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | I | 解析          |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | J | 幾何          |         |         |          |
| K      | 確率統計     |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| L      | 微分方程式    |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| M      | 数理科学総合   |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| N      | 数学総合     |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| O      | 化学総合     |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| P      | 電気工学総合   |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| Q      | 機械工学総合   |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| R      | 経営システム総合 |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| S      | 情報学総合    |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| T      | 量子力学     |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| U      | 統計力学     |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| V      | 素核・宇宙科学  |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| W      | 物性物理学    |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| M      | 数理科学コース  |           |     |                  |   | B | 数理科学総合      |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | A | 代数          |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | D | 微分方程式       |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | C | 解析          |         |         |          |
|        |          |           |     |                  |   | S | 確率統計        |         |         |          |
| G      | 幾何       |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |
| P      | 物理       |           |     |                  |   |   |             |         |         |          |

| 桁数             | 1   |      | 2   |          | 3           |                      | 4              |            |
|----------------|-----|------|-----|----------|-------------|----------------------|----------------|------------|
| 内容             | 学部等 |      | 学科等 |          | 教育課程上の区分(大) |                      | 教育課程上の区分(小)    |            |
| コード<br>・<br>意味 | S   | 理工学部 | C   | 化学・生命科学科 | A           | 数学・共通科目<br>講義科目      | A              | 物理化学       |
|                |     |      |     |          | B           | 実験・演習科目<br>(基礎実験を除く) | B              | 無機化学       |
|                |     |      |     |          | C           | 専門実験                 | C              | 有機化学       |
|                |     |      |     |          | D           | 専門実験                 | D              | 生命科学       |
|                |     |      |     |          | E           | 輪講・卒業研究              | E              | 化学総合       |
|                |     |      |     |          | F           | 選択必修 I               | F              | 化学・生命科学総合  |
|                |     |      |     |          |             | 選択必修 II              | G              | 物理学総合      |
|                |     |      |     |          |             |                      | H              | 数学総合       |
|                |     |      |     |          |             |                      | I              | 代数         |
|                |     |      |     |          |             |                      | J              | 解析         |
|                |     |      |     |          |             |                      | K              | 確率統計       |
|                |     |      |     |          |             |                      | L              | 微分方程式      |
|                |     |      |     |          |             |                      | M              | 情報学総合      |
|                |     |      |     |          |             |                      | N              | 機械工学総合     |
|                |     |      |     |          |             |                      | O              | 電気工学総合     |
|                |     |      |     |          |             |                      | P              | 経営システム総合   |
|                |     |      |     |          |             |                      | S              | インターンシップ   |
|                |     |      |     |          |             |                      | T              | 図学         |
|                |     |      | E   | 電気電子工学科  | A           | 数学・共通科目              | A              | 電子工学       |
|                |     |      |     |          |             | B                    | 専門実験・実習・<br>演習 | B          |
|                |     |      |     |          | C           | 輪講・卒業研究              | C              | 電力工学       |
|                |     |      |     |          | D           | 専門科目                 | D              | 通信工学       |
|                |     |      |     |          |             |                      | E              | 電気電子工学総合   |
|                |     |      |     |          |             |                      | F              | 物理学総合      |
|                |     |      |     |          |             |                      | G              | 数学総合       |
|                |     |      |     |          |             |                      | H              | 代数         |
|                |     |      |     |          |             |                      | I              | 解析         |
|                |     |      |     |          |             |                      | J              | 確率統計       |
|                |     |      |     |          |             |                      | K              | 微分方程式      |
|                |     |      |     |          |             |                      | L              | 化学総合       |
|                |     |      |     |          |             |                      | M              | 機械工学総合     |
|                |     |      |     |          |             |                      | N              | 情報学総合      |
|                |     |      |     |          |             |                      | O              | 経営システム総合   |
|                |     |      |     |          |             |                      | Q              | インターンシップ   |
|                |     |      |     |          |             |                      | R              | モデル化技術     |
|                |     |      |     |          |             |                      | S              | 分析技術       |
|                |     |      |     |          |             |                      | T              | 情報学基礎      |
|                |     |      |     |          |             |                      | U              | メカトロニクス    |
|                |     |      |     |          |             |                      | V              | 人間情報学      |
|                |     |      |     |          |             |                      | W              | 情報テクノロジー総合 |
|                |     |      |     |          |             |                      | X              | 材料力学       |
|                |     |      |     |          |             |                      | Y              | 計測工学       |
|                |     |      |     |          |             |                      | 0              | 物理科学総合     |

| 桁数             | 1   |      | 2   |               | 3           |         | 4           |                     |   |            |
|----------------|-----|------|-----|---------------|-------------|---------|-------------|---------------------|---|------------|
| 内容             | 学部等 |      | 学科等 |               | 教育課程上の区分(大) |         | 教育課程上の区分(小) |                     |   |            |
| コード<br>・<br>意味 | S   | 理工学部 | M   | 機械創造工<br>学科   | A           | 学科科目    | A           | 力学                  |   |            |
|                |     |      |     |               | B           | 選択科目    | B           | 流体力学                |   |            |
|                |     |      |     |               |             | C       | 材料力学        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | D       | 設計工学        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | E       | 熱力学         |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | F       | 機械加工        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | G       | 機械力学        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | H       | 計測工学        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | I       | 制御工学        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | J       | 生産工学        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | K       | 機械工学総合      |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | L       | 情報学総合       |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | M       | 物理学総合       |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | N       | 数学総合        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | O       | 代数          |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | P       | 解析          |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | Q       | 確率統計        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | R       | 微分方程式       |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | S       | 化学総合        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | T       | 電気工学総合      |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | U       | 経営システム総合    |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | V       | インターンシップ    |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | W       | 分析技術        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | X       | メカトロニクス     |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | Y       | 最適化技術       |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | Z       | 情報学基礎       |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | 0       | 情報テクノロジー総合  |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | 1       | 計算基盤        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | 2       | モデル化技術      |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | 3       | 経営システム工学総合  |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | 4       | 電子工学        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | 5       | 電気電子工学総合    |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | 6       | 電力工学        |                     |   |            |
|                |     |      |     |               |             | 7       | 人間情報学       |                     |   |            |
|                |     |      | S   | 経営システム<br>工学科 | A           | 数学・共通科目 | A           | 分析技術                |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | B           | 専門実習                | B | モデル化技術     |
|                |     |      |     |               |             |         | C           | 専門実験                | C | 最適化技術      |
|                |     |      |     |               |             |         | D           | 専門実験・実習・<br>演習(その他) | D | 経営システム工学総合 |
|                |     |      |     |               |             |         | E           | 輪講・卒業研究             | E | 情報学総合      |
|                |     |      |     |               |             |         | F           | 第1科目群◎              | F | 物理学総合      |
|                |     |      |     |               |             |         | G           | 第1科目群△              | G | 数学総合       |
|                |     |      |     |               |             |         | H           | 第1科目群▲              | H | 代数         |
|                |     |      |     |               |             |         | I           | 第2科目群▽              | I | 解析         |
|                |     |      |     |               |             |         | J           | 第2科目群▼              | J | 微分方程式      |
|                |     |      |     |               |             |         | K           | 選択科目                | K | 化学総合       |
|                |     |      |     |               |             |         |             |                     | L | 電気工学総合     |
|                |     |      |     |               |             |         |             |                     | M | 機械工学総合     |
|                |     |      |     |               |             |         | O           | インターンシップ            |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | P           | 力学                  |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | Q           | 情報学基礎               |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | R           | 材料力学                |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | S           | 熱力学                 |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | T           | 機械力学                |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | U           | 流体力学                |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | W           | 情報テクノロジー総合          |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | Y           | 計算基盤                |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | Z           | メカトロニクス             |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | 0           | 人間情報学               |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | 1           | 電気電子工学総合            |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | 2           | 電子工学                |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | 3           | 計測工学                |   |            |
|                |     |      |     |               |             |         | 4           | 機械加工                |   |            |



| 桁数             | 1   |          | 2   |                              | 3                          |  | 4           |                      |
|----------------|-----|----------|-----|------------------------------|----------------------------|--|-------------|----------------------|
| 内容             | 学部等 |          | 学科等 |                              | 教育課程上の区分(大)                |  | 教育課程上の区分(小) |                      |
| コード<br>・<br>意味 | S   | 理工学部     | I   | 情報テクノロジー学科                   | A<br>B<br>C<br>D<br>E<br>F | 数学・共通科目<br>専門実験・実習・<br>演習<br>輪講・卒業研究<br>第1科目群<br>第2科目群<br>選択科目 | A           | 情報学基礎                |
|                |     |          |     |                              |                            |  | B           | 計算基盤                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | C           | 人間情報学                |
|                |     |          |     |                              |                            |  | D           | 図形科学                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | E           | メカトロニクス              |
|                |     |          |     |                              |                            |  | F           | 情報テクノロジー総合           |
|                |     |          |     |                              |                            |  | G           | 電気工学総合               |
|                |     |          |     |                              |                            |  | H           | 機械工学総合               |
|                |     |          |     |                              |                            |  | I           | 経営システム総合             |
|                |     |          |     |                              |                            |  | J           | 物理学総合                |
|                |     |          |     |                              |                            |  | K           | 数学総合                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | L           | 代数                   |
|                |     |          |     |                              |                            |  | M           | 解析                   |
|                |     |          |     |                              |                            |  | N           | 確率統計                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | O           | 微分方程式                |
|                |     |          |     |                              |                            |  | P           | 化学総合                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | Q           | インターンシップ             |
|                |     |          |     |                              |                            |  | S           | 力学                   |
|                |     |          |     |                              |                            |  | T           | 最適化技術                |
|                |     |          |     |                              |                            |  | U           | 電気電子工学総合             |
|                |     |          |     |                              |                            |  | V           | 機械力学                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | W           | 材料力学                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | X           | 熱力学                  |
|                |     |          |     |                              |                            |  | Y           | 流体力学                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | Z           | 分析技術                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | 0           | 最適化技術                |
|                |     |          |     |                              |                            |  | 1           | モデル化技術               |
|                |     |          |     |                              |                            |  | 2           | 制御工学                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | 3           | 設計工学                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | 4           | 計測工学                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | 5           | 電子工学                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | 6           | 機械加工                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | 7           | 経営システム工学総合           |
|                | I   | 国際政治経済学部 | P   | 国際政治学科<br>政治外交・安全<br>保障コース   | A<br>B<br>C                | A群科目<br>B群科目<br>C群科目   | Z           | 演習                   |
| I              |     |          |     |                              |                            |  | 政治学         |                      |
|                |     |          | G   | 国際政治学科<br>グローバル・ガ<br>バナンスコース |                            |  | I           | 国際関係                 |
|                |     |          |     |                              | J                          | 国内関係   |             |                      |
|                |     |          |     |                              |                            |  | R           | 地域関係                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | X           | その他                  |
|                |     |          |     |                              |                            |  | E           | 国際経済関連               |
|                |     |          |     |                              |                            |  | C           | 国際コミュニケーション関連        |
|                |     |          |     |                              |                            |  | G           | GlobalStudiesProgram |
|                |     |          |     |                              |                            |  | F           | 外国書講読                |
|                |     |          | E   | 国際経済学科<br>国際経済政策<br>コース      | A<br>B<br>C                | A群科目<br>B群科目<br>C群科目   | Z           | 演習                   |
|                |     |          |     |                              |                            |  | T           | 経済(理論分析)             |
|                |     |          | B   | 国際経済学科<br>国際ビジネス<br>コース      |                            |  | S           | 経済(データ分析)            |
|                |     |          |     |                              | O                          | 応用経済   |             |                      |
|                |     |          |     |                              |                            |  | D           | 開発経済                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | B           | ビジネス・ファイナンス          |
|                |     |          |     |                              |                            |  | R           | 地域関係                 |
|                |     |          |     |                              |                            |  | X           | その他                  |
|                |     |          |     |                              |                            |  | P           | 国際政治関連               |
|                |     |          |     |                              |                            |  | C           | 国際コミュニケーション関連        |
|                |     |          |     |                              |                            |  | G           | GlobalStudiesProgram |
|                |     |          |     |                              |                            |  | F           | 外国書講読                |

| 桁数             | 1              |                                 | 2        |                                     | 3           |                                 | 4   |   |
|----------------|----------------|---------------------------------|----------|-------------------------------------|-------------|---------------------------------|---|---|
| 内容             | 学部等            |                                 | 学科等      |                                     | 教育課程上の区分(大) |                                 | 教育課程上の区分(小)   |   |
| コード<br>・<br>意味 | I              | 国際政治経済学部                        | C        | 国際コミュニケーション学科<br>国際コミュニケーション<br>コース | A<br>B<br>C | A群科目<br>B群科目<br>C群科目            | Z   | 演習                                      |
|                |                |                                 |          |                                     |             |                                 | C   | コミュニケーション                               |
|                |                |                                 |          |                                     |             |                                 | A   | 文化                                      |
|                |                |                                 |          |                                     |             |                                 | L   | 言語                                      |
|                |                |                                 |          |                                     |             |                                 | M   | 方法論                                     |
|                | R              | 地域関係                            |          |                                     |             |                                 |   |   |
|                | X              | その他                             |          |                                     |             |                                 |   |   |
|                | P              | 国際政治関連                          |          |                                     |             |                                 |   |   |
|                | E              | 国際経済関連                          |          |                                     |             |                                 |   |   |
|                | G              | GlobalStudiesProgram            |          |                                     |             |                                 |   |   |
| F              | 外国書講読          |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| コード<br>・<br>意味 | I              | 国際政治経済学部                        | L        | 外国語                                 | A<br>B<br>C | A群科目<br>B群科目<br>C群科目            | E   | Reading/Writing<br>Skills based classes |
|                |                |                                 |          |                                     |             |                                 | F   | フランス語                                   |
|                |                |                                 |          |                                     |             |                                 | D   | ドイツ語                                    |
|                |                |                                 |          |                                     |             |                                 | S   | スペイン語                                   |
|                |                |                                 |          |                                     |             |                                 | C   | 中国語                                     |
|                | R              | ロシア語                            |          |                                     |             |                                 |   |   |
|                | K              | 韓国語                             |          |                                     |             |                                 |   |   |
|                | J              | 日本語                             |          |                                     |             |                                 |   |   |
|                | E              | English for Juniors and Seniors |          |                                     |             |                                 |   |   |
|                | コード<br>・<br>意味 | C                               | 総合文化政策学部 | C                                   | 総合文化政策学科    | A<br>B<br>C<br>D<br>E<br>F<br>G | 専門基礎科目<br>政策・マネジメント科目群<br>文化・思想科目群<br>メディア文化分野<br>都市・国際文化分野<br>アート・デザイン分野<br>演習科目 | A                                       |
| B              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | メディア文化                                  |
| C              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 都市文化                                    |
| D              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | アートマネジメント                               |
| E              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 経済学・経済理論                                |
| F              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 経済政策                                    |
| G              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 経済史                                     |
| H              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 社会学                                     |
| I              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 人文社会総合                                  |
| J              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 経営学                                     |
| K              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 会計学                                     |
| L              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 商学                                      |
| M              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 法学総合                                    |
| N              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 政治学                                     |
| O              |                |                                 |          |                                     |             |                                 |   | 国際関係論                                   |
| P              | 地域研究           |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| Q              | 博物館学           |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| R              | 芸術一般           |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| S              | 哲学・倫理学         |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| T              | 思想史            |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| U              | 宗教学            |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| V              | 情報学総合          |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| W              | 文化人類学          |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| X              | 美学・芸術諸学        |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| Y              | 美術史            |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| Z              | デザイン学          |                                 |          |                                     |             |                                 |   |   |
| コード<br>・<br>意味 | C              | 総合文化政策学部                        | L        | 外国語                                 | A           | 第一外国語                           | E   | 英語                                      |

| 桁数             | 1   |               | 2   |                               | 3           |                | 4           |           |
|----------------|-----|---------------|-----|-------------------------------|-------------|----------------|-------------|-----------|
| 内容             | 学部等 |               | 学科等 |                               | 教育課程上の区分(大) |                | 教育課程上の区分(小) |           |
| コード<br>・<br>意味 | R   | 社会情報学部        | R   | 社会情報学科                        | A           | フルリゾン科目        | A           | 社会情報総合    |
|                |     |               |     |                               | B           | 基礎科目           | B           | 統計科学      |
|                |     |               |     |                               | C           | 基礎科目(数理系)      | C           | 数学総合      |
|                |     |               |     |                               | D           | 演習科目           | D           | 経済学総合     |
|                |     |               |     |                               | E           | リエゾンA(社会・情報)科目 | E           | 社会学       |
|                |     |               |     |                               | F           | リエゾンB(社会・人間)科目 | F           | 政治学       |
|                |     |               |     |                               | G           | リエゾンC(人間・情報)科目 | G           | 理論経済学     |
|                |     |               |     |                               | H           | エリア(社会)科目      | H           | 経済政策      |
|                |     |               |     |                               | I           | エリア(情報)科目      | I           | 財政・公共経済   |
|                |     |               |     |                               | J           | エリア(人間)科目      | J           | 経済統計      |
|                |     |               |     |                               | K           | 専門自由科目         | K           | 金融・ファイナンス |
|                |     |               |     |                               | L           | 外国語            | E           | 英語        |
|                |     |               |     |                               | W           | 地球社会共生学部       | W           | 地球社会共生学科  |
|                | B   | 英語展開科目        | A   | StudySkill                    |             |                |             |           |
|                | A   | StudySkill    | A   | Fundamental                   |             |                |             |           |
|                | B   | Fundamental   | A   | メディア／空間情報                     |             |                |             |           |
|                | C   | Introductory  | B   | ソシオロジー                        |             |                |             |           |
|                | D   | Basic         | C   | コラボレーション                      |             |                |             |           |
|                | E   | Advanced      | D   | ビジネス                          |             |                |             |           |
|                | F   | Capstone      | A   | Capstone                      |             |                |             |           |
|                | G   | Japan Studies | A   | Geography                     |             |                |             |           |
|                |     |               | B   | History                       |             |                |             |           |
|                |     |               | C   | Culture                       |             |                |             |           |
|                |     |               | D   | Economy, Business, and Policy |             |                |             |           |
|                | L   | 外国語           | A   | 英語                            |             |                |             |           |
|                |     |               | B   | タイ語                           |             |                |             |           |

## 11. 諸規則

### ○青山学院大学 FD 規則

(2009年3月26日理事会承認)

(趣旨)

第1条 この規則は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第25条の3に基づき、青山学院大学（以下「本学」という。）全体の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組みであるファカルティ・ディベロップメント活動（以下「FD活動」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 本学のFD活動を適切に実施するため、次の委員会を置く。

- (1) 全学FD委員会
- (2) FD推進委員会

2 全学FD委員会は、FD活動を円滑に運営するために必要な事項等を審議する。

3 FD推進委員会は、FD活動の企画、立案及び実施に必要な事項等を審議する。

4 全学FD委員会及びFD推進委員会について、構成、審議事項等、その運営に必要な事項は、別に定める細則による。

(所管)

第3条 この規則は、学務部教務課が所管する。

(改廃手続)

第4条 この規則の改廃は、全学FD委員会、学部長会及び教授会の議を経たのち、常務委員会及び理事会の承認を得て、学長がこれを行う。

附 則

この規則は、2009年3月27日から施行する。

### ○青山学院大学全学 FD 委員会運営細則

(2009年3月16日学部長会承認)

(趣旨)

第1条 この細則は、青山学院大学FD規則第2条第4項の規定に基づき、全学FD委員会（以下「FD委員会」という。）について、構成、審議事項等、その運営に必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 FD委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 青山学院大学FD推進委員会運営細則第2条第1項に規定するFD推進委員会委員
- (2) 青山学院大学全学教務委員会規則（以下「全学教務委員会規則」という。）第2条第1項に規定する全学教務委員会委員
- (3) 全学教務委員会規則第9条に規定する全学教務委員会出席者

2 FD委員会が特に必要と認めるときは、委員以外の者に列席を求め、その意見を聴くことができる。

(委員長)

第3条 FD委員会に、委員長を置き、学務及び学生担当の副学長をこれに充てる。

2 委員長は、委員会を代表し、委員会の業務を統括する。

(副委員長)

第4条 FD委員会に、副委員長1名を置く。

2 副委員長は、委員長が委員の中から指名する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときには、委員長の職務を代行する。

4 副委員長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(招集、開催及び定足数)

第5条 FD委員会は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。

2 FD委員会の定足数は、構成員の過半数とする。

(審議事項)

第6条 FD委員会は、次の事項を審議する。

- (1) FD活動全般に関する事項
- (2) FD推進委員会の審議結果に関する事項
- (3) その他FD活動を円滑に運営するために必要な事項

(審議結果)

第7条 委員長は、前条の審議結果を学長に報告するものとする。

(事務の所管)

第8条 FD委員会に関する事務は、学務部教務課が行う。

(改廃手続)

第9条 この細則の改廃は、FD委員会、学部長会及び教授会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この細則は、2009年3月27日から施行する。

## ○青山学院大学 FD 推進委員会運営細則

(2008年10月6日学部長会承認)

改正 2009年3月2日 2012年2月27日

(趣旨)

第1条 この細則は、青山学院大学FD規則第2条第4項の規定に基づき、FD推進委員会（以下「委員会」という。）について、構成、審議事項等、その運営に必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 副学長（学務及び学生担当）
- (2) 専任教員の中から学長が指名する者 若干名
- (3) 事務職員の中から学長が指名する者 若干名

2 前項第2号及び第3号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 委員会が特に必要と認めるときは、委員以外の者に列席を求め、その意見を聴くことができる。

(委員長)

第3条 委員会に、委員長を置き、前条第1項第1号に規定する副学長をこれに充てる。

2 委員長は、委員会を代表し、委員会の業務を統括する。

(副委員長)

第4条 委員会に、副委員長1名を置く。

2 副委員長は、委員長が委員の中から指名する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときには、委員長の職務を代行する。

4 副委員長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(招集、開催及び定足数)

第5条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会の定足数は、構成員の過半数とする。

(審議事項)

第6条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) FD活動の啓発に関する事項
  - (2) FD活動の企画、立案及び実施に関する事項
  - (3) 学長の諮問する事項
  - (4) その他FD活動全般に関する事項
- (審議結果)

第7条 委員長は、前条の審議結果を学長に報告するものとする。

(学生FDスタッフ)

第8条 必要な場合には、委員会の下に学生FDスタッフ（以下「スタッフ」という。）を置くことができる。

2 スタッフは、委員会の委員の指示により、FD活動に係る業務に当たる。

3 スタッフは、学部又は大学院研究科に在籍する学生で、FD活動への参加を希望する者の中から、委員会が任命する。

(事務の所管)

第9条 委員会に関する事務は、学務部教務課が行う。

(改廃手続)

第10条 この細則の改廃は、委員会及び学部長会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この細則は、2008年10月7日から施行する。

附 則（2009年3月2日）

この細則は、2009年3月27日から施行する。

附 則（2012年2月27日）

この細則は、2012年4月1日から施行する。

## ○青山学院大学 FD に係るデータ取扱に関する要領

(2009年2月4日制定)

(趣旨)

第1条 この要領は、学校法人青山学院個人情報保護に関する規則に基づき、青山学院大学のファカルティ・ディベロップメント（授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組み。以下「FD」という。）活動において必要なデータの収集、集計と取り扱いについて、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 データについては、以下の目的に使用される。

- (1) FD活動における企画・立案に資する
- (2) FD活動の報告に資する

2 前項以外の目的で、FD推進委員会（以下委員会）委員長が必要と認めたもの。

(データの範囲)

第3条 本要領が予定するデータとは、以下に掲げる各別から個人を特定できる情報を除いた匿名化データをいう。

- (1) 広報入試センターが業務上収集する入試及び広報関連データ
- (2) 学生部が管理するデータ
- (3) 教務課が管理するデータ
- (4) 進路・就職センターが業務上収集する就職関連データ
- (5) 委員会が実施する調査データ・アンケートデータ
- (6) その他委員会が必要とするデータ

(データの収集)

第4条 FD活動に関わる必要なデータは、委員長が各部署と協議の上、学長名に基づき収集を行う。

(データ管理責任者)

第5条 データ管理責任者は委員会委員長とし、データは、各部署より委員長宛に提出する。

(データ利用者と利用時の注意義務、集計場所及び目的外利用の禁止)

第6条 データは委員会で認められた集計目的にのみ用いられ、その集計は同委員会から委嘱された専任教員（以下データ利用者）が、委員長の任命を受けてこれを行う。

2 データ利用者は集計期間中、原データや中間生成ファイルの保管に遺漏なく努めなければならない。ネットワークを介した当該情報の漏洩や集計場所への第三者の立ち入り、保存メディアの管理に対し、データ利用者は細心の注意を払う義務を負う。

3 データの使用場所は、原則として本学内とするが、データに十分な匿名化処理が施されていて、かつ委員長が特に必要と認めた場合についてはこの限りでない。

(結果の公表と守秘義務)

第7条 データ利用者は、係る集計が終了した後、速やかに委員長に報告する。委員長は集計結果について、委員会の議を経たのち、必要に応じて公表することができる。結果の正規公表がなされない限り、データ利用者及び委員会委員は、集計過程で知りえた情報を一切口外してはならない。

(データの利用期間と破棄)

第8条 委員会で認められた目的に係る集計が終了した後、データ利用者は、速やかに中間生成ファイルを含む全ての利用データを削除し、データ管理責任者は、データの破棄を確認するとともに、これを学長に報告しなければならない。

(事故等への対応)

第9条 前条及び前条以外の項目について、事故等が発生した場合は、「学校法人青山学院個人情報保護に関する規則」を準用するものとする。

(改廃手続)

第10条 この要領の改廃は、委員会が行う。

附 則

この要領は、2009年2月4日から施行する。

## 12. FD 推進委員会及び全学 FD 委員会 委員一覧

### ○ FD推進委員会委員

| 氏名   |        | 所属等                   | 備考        |
|------|--------|-----------------------|-----------|
| 委員長  | 篠原 進   | 副学長、文学部日本文学科          | ～2016年6月  |
| 委員長  | 田中 正郎  | 副学長、経営学部マーケティング学科     | 2016年6月～  |
| 副委員長 | 杉谷 祐美子 | 教育人間科学部教育学科           |           |
| 委員   | 大山 和寿  | 法学部法学科                |           |
| 委員   | 中野 昌宏  | 総合文化政策学部総合文化政策学科      |           |
| 委員   | 米山 淳   | 理工学部電気電子工学科           |           |
| 委員   | 宮川 裕之  | 社会情報学部社会情報学科          |           |
| 委員   | 山口 直也  | 会計専門職大学院会計プロフェッション研究科 |           |
| 委員   | 鈴木 寛也  | 事務局長                  | ～2016年11月 |
| 委員   | 菅野 治男  | 事務局長                  | 2016年12月～ |
| 委員   | 白濱 哲郎  | 政策・企画部 部長             | 2016年9月～  |
| 委員   | 高野 悦子  | 学務部 部長                | ～2016年5月  |
| 委員   | 馬場 俊和  | 学務部 部長                | 2016年6月～  |
| 委員   | 竹田 治世  | 学務部 教育支援課 課長          |           |
| 委員   | 鳥海 貴裕  | 学務部 教育支援課 主任          |           |
| 委員   | 土居 美菜子 | 学務部 教育支援課             |           |
| 委員   | 萩原 とよ子 | 相模原事務局 学務課 主任         |           |

### ○ 全学教務委員会委員

| 所属等                     | 氏名          | 備考       |
|-------------------------|-------------|----------|
| 委員長、副学長(学務及び学生担当)       | 篠原 進        |          |
| 委員長、副学長(広報及び将来構想・第二部担当) | 押村 高        |          |
| 大学宗教部長                  | 伊藤 悟        |          |
| 青山スタンダード教育機構副機構長        | 西澤 宗英       |          |
| 文学部                     | ALLEN 玉井 光江 |          |
| 教育人間科学部                 | 重野 純        |          |
| 経済学部                    | 平出 尚道       |          |
| 法学部                     | 松田 憲忠       |          |
| 経営学部                    | 尹 志煌        |          |
| 国際政治経済学部                | 渡邊 千秋       |          |
| 総合文化政策学部                | 内山 隆        |          |
| 理工学部                    | 谷口 健二       |          |
| 社会情報学部                  | 吹春 俊隆       |          |
| 地球社会共生学部                | 岡本 真佐子      |          |
| 相模原事務局 学務課 課長           | 鈴木 あつ子      |          |
| 学務部 教務課 課長              | 馬場 俊和       | ～2016年5月 |
| 学務部 教務課 課長              | 乃美 浩一       | 2016年6月～ |



2016年度

青山学院大学 FD 活動報告書

発行日 2017年10月1日

発行 青山学院大学全学 FD 委員会

学務部教育支援課

〒150-8366 渋谷区渋谷 4-4-25 17号館2階 スチューデントセンター

TEL 03-3409-4165 FAX 03-3409-9423

発行責任者 田中 正郎

150<sup>th</sup>  
140<sup>th</sup>

